

由ノ大權ヲ以テ、事ヲ處分ズルヲ得ルキハ、其處分ノ善惡ニ隨テ、法官ノ審判ヲ受ルコト當然ナル可シ、而シテ此法官ハ、決シテ訴訟法官（按）訴訟法官ナリトシテ、法律ヲ用ヒス、唯其處分ノ國家安寧ニ害アルト否トニ著眼シテ、其罪ヲ審判スルヲ緊要トナス、（按）警保官ノ處分、（按）命令トシテ、其處分テ國家ノ安寧ニ利アレハ、決シテ之ヲ罰セサルヲ緊要トナシ、又其處分命令、法律ニ背ク所ナシト雖モ、國家ノ安寧ニ害アレハ、必ズ之ヲ罰ナスナリ、（按）若シ警保官實ニ其權ヲ恣ニシテ、人民ノ害ヲ生スルニ方リテハ、害ヲ受ケタル私人ニハ、償金ヲ與ヘシメ、且ツ政府ニ罰金ヲ納メシメ、以テ權ヲ擅ニセシ害ヲ切ニ其身ニ覺悟セシムルコト、最モ緊要ナリ、警保權ヲ掌握スル人體ヲ撰フハ、最モ緊要ノコトニシテ、若シ此權ヲ掌握スルニ堪ユハ、（按）人體ヲ得ルキハ、此權ヲ施行スルノ方法、始メテ至當ヲ得ルニ至ル可シ、此事ニ就テモ、亦羅馬以制度タル實ニ今時ノ鑑トナスニ耐タリ、○今時ノ警保權ヲ以テ羅馬ニ於ケルカ如ク、實ニ國家ノ道義ヲ保護スヘキ大權ト爲サント欲セバ、必ズ道義ヲ具ヘテ、品行貴キ人物ヲ撰

ヒ、此權ヲ掌握セシムルコト甚ダ緊要ナリ、フリードリヒ、ローメル（按）乙人、一十五年ハ、方今國家ノ急務タルハ、警保權ノ制度ヲ改革スルニ在ル所以ニ生ル、（按）勳爵ヲ得テ論シタリシカ、其大旨ニ俊傑數員ヲ合シテ、オルデン（按）タル會社ナリ、テ設ケ、（但シ）之ヲ眞ノ官吏トナス可ラス、（按）警保ノ大權ヲ擧ゲテ、悉ク之ニ委任シ、以テ此會社ヲシテ、實ニ其處分ヲ保任セシムルノ制度ヲ立ルコト、方今ノ急務ニシテ、此他決シテ宿弊ヲ除去スルノ術策アルコトナシト云ヘリ、方今英國ノフリーデンスリフテル（按）一種ノ法官ナリ、（按）卷ト稱スル官ハ、才識徳望ヲ兼備シ、決シテ他人ニ控制セラレサル人物ヲ合セル會社ニシテ、此官ニ委任スルニ、警保權ノ一分ヲ以テス、

第九款

第二

警保權ノ區分及其專要ノ職掌、（按）ザー、グリーデルング、ウン、オン、デル、ポリ、ツァイゲワルト、

七ノ下三二

警保ナル旨意ニ著意シテ考フルキハ、其發動ニ就テ、二個ノ重要ナル方向アリ、即チ陰ノ方向チガチーへ、ト及陽ノ方向ボシチーへ、ト、是ナリ、而シテ今日生シ來ル所ノ害ヲ防制シテ、自由ナル交際ノ障礙トナル者ヲ除去スルチ、陰ノ方向ニ發動スト云ヒ、又特ニ公衆ノ安寧ヲ增益スルチ、陽ノ方向ニ發動スト云フ、凡ソ陰ノ方向ニ發動スル者ハ、唯公衆ノ安寧ヲ保守スル警保コンセルヒニナルチ以テ、之ヲ保安ノ警保シーヘルハイト稱シ、陽ノ方向ニ發動スル者ハ、公衆ノ安寧ヲ増進スル警保プロツクナルチ以テ、之ヲ増安ノ警保ツポリツツイト稱ス、但シ此區別ハ、唯外貌上ニ於ケルノミ、實際ニ至テハ、決ソ此區別アルコトナシ、故ニ眞實ノ警保權ハ、必ス同時ニ陰陽ノ二方向ニ於テ發動スル者ナリ、蓋シ唯現ニ公衆ノ障礙トナルヘキ者ヲ除去セシノミニテ、既ニ交際ノ自由ヲ增益スルニ足ルコト多シ、例ヘハ、警保官ナル者、竊盜、櫻徒等ヲ驅逐シテ、市街ノ害ヲ除ケハ、即チ之ニ由テ共ニ交際ノ自由ヲ增益スルカ如シ、又其他陰ノ方向ニ發動スル方

七ノ下三三

法ヲ施スニ方リテ、兼テ陽ノ方向ニ發動スル方法ヲモ亦共ニ施スコトアリ、例ヘハ、傳染病ノ流行スル時ニ方リテハ、當ニ患者ヲ僻地ニ遷シテ、其傳染ヲ防シテ照顧スルノミニ止マラス、尙且、患者看護ノ事ニ就テモ、亦必ス意ヲ用ヒテ、之ヲ照顧スルナリ、○方今ノ世ハ、警保權ヲ限制スルコト甚シクシテ、警保官ヲシテ、唯防害トナル者ヲ餘去スル事ニミテ從事セシメ、良善ノ事ヲ增益セシムルコト、甚稀ナリ、而シテ行狀風俗ノ警保ニ至テハ、此事更ニ甚シ、是實ニ今世ノ通弊ト云フヘシ、是故ニ陰陽ノ方向ニ隨テ、警保ノ職官ヲ二分スルハ、甚不可ナリ、若シ之ヲ分ツキハ、二方向ニ發動スル權、互ヒニ應護スルチ得シテ、其力遂ニ弛解スルヤ必然ナリ、又警保權ヲ二分シテ、預防ノ警保プレヘン及防止ノ警保シレプレツトナシ、而シテ將ニ起ラントスル障害ヲ預防シテ、起ラサシムルチ、預防ノ警保ト稱シ、又既ニ法制ヲ害スル者アルニ及ヒ、即チ現ニ障害ノ起ルニ及ンテ、始メテ之ヲ防止スルチ、防止ノ警保ト稱スル說アリ、去レテ此區別亦徒ニ外貌

七ノ下三二

警保ナル旨意ニ著意シテ考フルキハ、其發動ニ就テ、二個ノ重要ナル方向アリ、即チ陰ノ方向チガチーへ、及ヒ陽ノ方向ボシチーへ、ト是レナリ、而シテ今日生シ來ル所ノ害ヲ防制シテ、自由ナル交際ノ障礙トナル者ヲ除去スルヲ、陰ノ方向ニ發動スト云ヒ、又特ニ公衆ノ安寧ヲ增益スルヲ、陽ノ方向ニ發動スト云フ、凡ソ陰ノ方向ニ發動スル者ハ、唯公衆ノ安寧ヲ保守スル警保コンセルヒナルヲ以テ、之ヲ保安ノ警保シーヘルハイト稱シ、陽ノ方向ニ發動スル者ハ、公衆ノ安寧ヲ増進スル警保プロツツト稱シ、以テ、之ヲ増安ノ警保ツポリツツト稱ス、但シ此區別ハ、唯外貌上ニ於ケルノミ、實際ニ至テハ、決シテ此區別アルコトナシ、故ニ眞實ノ警保權ハ、必ス同時ニ陰陽ノ二方向ニ於テ、發動スル者ナリ、蓋シ唯現ニ公衆ノ障礙トナルヘキ者ヲ除去セシノミニテ、既ニ交際ノ自由ヲ增益スルニ足ルコト多シ、例ヘハ、警保官ナル者、竊盜、櫻徒等ヲ驅逐シテ、市街ノ害ヲ除ケハ、即チ之ニ由テ共ニ交際ノ自由ヲ增益スルカ如シ、又其他陰ノ方向ニ發動スル方

七ノ下三三

法ヲ施スニ方リテ、兼テ陽ノ方向ニ發動スル方法ヲモ亦共ニ施スコトアリ、例ヘハ、傳染病ノ流行スル時ニ方リテハ、啗ニ患者ヲ僻地ニ遷シテ、其傳染ヲ防シテ照顧スルノミニ止マラス、尙且患者看護ノ事ニ就テモ、亦必ス意ヲ用ヒテ、之ヲ照顧スルナリ、○方今ノ世ハ、警保權ヲ限制スルコト甚シウシテ、警保官ヲシテ、唯防害トナル者ヲ除去スル事ニノミ從事セシメ、良善ノ事ヲ增益セシムルコト、甚稀ナリ、而シテ行狀風俗ノ警保ニ至テハ、此事更ニ甚シ、是レ實ニ今世ノ通弊ト云フヘシ、是故ニ陰陽ノ方向ニ隨テ、警保ノ職官ヲ二分スルハ、甚不可ナリ、若シ之ヲ分ツキハ、二方向ニ發動スル權、互ヒニ應護スルヲ得スシテ、其力遂ニ弛解スルヤ必然ナリ、又警保權ヲ二分シテ、預防ノ警保プレヘン及ヒ防止ノ警保シレプレツトナシ、而シテ將ニ起ラントスル障害ヲ預防シテ、起ラサシムルヲ、預防ノ警保ト稱シ、又既ニ法制ヲ害スル者アルニ及ヒ、即チ現ニ障害ノ起ルニ及ソテ、始メテ之ヲ防止スルヲ、防止ノ警保ト稱スル說アリ、去レヒ此區別亦徒ニ外貌

上ニ在ルノミ、

此區別ハ、唯保安ノ警保ニ著眼シテ立ル者ナリ、故ニ直ニ増安ノ警保ニ關スル所ナシ、是レ即チ此區別ノ當ヲ失スル所以ナリ、○又唯預防ノミヲ以テ、警保諸權ノ本性ナリトスル論、盛ニ蔓延セシカレ、大イナル謬見ト云フヘシ例ヘハ、警保官泥濘沼澤ヲ淨燥シ、狹隘幽暗ナル市街ヲ毀テ、廣寬開濶ナル隙地ヲ設ケ、大氣ヲ清淨ニシ、井泉ヲ鑿ル等、聰テ人民ノ健康ニ注意照顧スルキハ、自ラ將來ノ病患ヲ預防スルニ足リ、且、縱令ヒ從來ノ病患ヲ全ク驅除シ得サルモ、大イニ之ヲ滅スルニ足ルハ必然ナリ、故ニ此ノ如キ警保事業ハ、決シテ單ニ預防ニアラス、又單ニ防止ニアラス、實ニ民人平常ノ健康ヲ增益スルノ事業ナリ、今日警保權ノ主トシテ照顧スヘキ重要事件、數種アルカ故ニ、之ニ隨テ警保權ヲ數類ニ區分設定スルハ、大イニ良善ノ法ト云フ可シ、而シテ各類共爲スヘキ事務ノ相殊ナルカ故ニ、必、別個ノ學習ヲ要シ、別個ノ規律ヲ要

シ、及ヒ別個ノ方法ヲ要ス、○去レヒ此各類ヲ以テ、全ク相離分セル者ト爲ス可ラス、且、警保官ノ爲スヘキ事務、此各類ニ於テ、全ク盡セリト爲ス可ラス、凡ソ世上ノ事、千變萬化スルニ隨テ、自ラ此各類ニ屬セサル他務ノ須要トナルト必、シモ無シト云フ可ラス、

方今ノ形勢ニ於テハ、警保權ノ分類、左ノ如クナルヲ要ス、

〔第一〕高崇ナル警保ホーヘ、ボ、即チ狹義ノ國事警保、ス、ター、ツ、ボ、リ、ツ、ア、イ、イ、ン、、エ、ン、ゲ、ル、ン、シ、ン、チ、〔按〕汎ク國事ノ警保ト云フキハ、警保ノ諸類ヲ總稱スト雖モ、狹義ノ國事警保ト云フキハ、私事ノ警保ヲ除テ、唯國事ニ係レル警保ノミヲ云フナリ、余カ國事警保ト目スルハ、即チ國內ニ於テ國家ノ存在、及ヒ安寧ヲ照顧警

保スルノ事務ヲ指稱スルナリ、故ニ此警保中ニハ、專ラ政令ノ性顯ハル、總テ國內ノ和平安全ヲ傷害スル事件起ルニ方リテハ、必、此警保權ヲ施行セサル可ラス、○凡ソ此權ヲ施行スルヤ、通常ハ現存ノ法制許ス所ノ區域内ニ於テ、道ニ係レル方術、モ、ラ、リ、セ、及ヒ物ニ係ル方術、ヒ、シ、セ、ス、ヲ用フレハ、則チ足レリ、〔按〕例ヘハ、風俗ヲ正ウスルニ、法令規律ヲ以テスルカ

増益セシカ爲ニ上ニ論セル如ク沼澤ヲ淨燥シ、隘○去レ若シ非常ノ事起ル
巷ヲ毀ツカ如キハ、即チ物ニ係レル方術ト云フヘシ、
ニ至リテハ、高崇ナル警保權ナル者、方ニ國家ヲ救フヲ以テ、最急務トシ、
斷然變シテ非常權トナリ、以テ國家ノ大威力ヲ顯ハサ、ル可ラス、

〔第二〕私事ノ警保、イソシヒツア、則チ私人ニ屬セル權利ノ存在、及ヒ安寧ヲ照
顧警保スルヲ云、左ニ其諸類ヲ舉ク、

〔甲〕民人糧食ノ事ヲ照顧スルコト、ギ、ソ、ル、ゲ、ヒ、ユ、ル、エ、ル、チ、〔糧食ノ警保
ナールング、
大、ポリツァイ、〕

羅馬ハ頗ル實際上ニ練磨セシ國ナリシカ、糧食ノ警保ヲ
以テ、政府長官ノ重要ナル事務ト爲シタリ、當時アレベールセル、アヂール
及ヒソルリセル、アヂールナル職官ハ、羅馬國中ニ儲糧充足シテ、常ニ缺乏
ナカラシムルコトニ注意スルヲ以テ、最要ノコトナセリ、又其後帝國トナ
ルニ至リテハ、帝躬テ此務ニ從事シテ、大ニ勉勵セシカ故ニ、賤民等大ニニ
心服スルニ至リタリキ、

凡シ民人ノ私事ハ、通例民人ニ任カス可シ、然ルモハ、民人自ラ能ク勉勵シテ、

之ニ從事スルカ故ニ、其成事最多ク、最モ良トス、是故ニ國家ハ常ニ、其經
濟ノ法則ニ從テ、唯其弊害ノ生スルヲ預防シ、及ヒ之ヲ蠲除スル〔按〕既ニ
弊害ノ生
シタル時ニ、トニ從事スルヲ要ス、去レト時アリ、非常ノ事起ルニ至リテハ、
民人ノ私事ヲ民人ニ全委シ、政府ハ唯其弊害ノ預防蠲除ニノミ從事ス
可ラス、若シ徒ラニ此ノ如キコトヲ爲スハ、遂ニ非常ヲ救フニ足ラサル必
然ナリ、

大非常ノ事起ルニ至リテハ、國家ノ警保權、實ニ強大ノ威力ヲ奮テ、始テ
稍、之ヲ救防シ得ルコトアリ、故ニ此ノ如キ際ニ臨テハ、國家其威權ヲ以テ、
民人ヲ救ハサル可ラス、而シテ國家此事ヲ爲サンニハ、必、國家ノ經濟ト、私
人ノ力トヲ假リ、之ト合併シテ、丁寧綿密ニ處分シ、以テ非常ノ事ノ益、増
進スルヲ防クヘシ、○其施設ノ術ヲ論スレハ、例ヘハ糧食ノ價、沸騰セル
時ニ於テハ、之ヲ自由ニ輸入スルヲ准許シ、〔按〕或ハ姑ク輸入税ヲ廢シ、
或ハ姑ク之ヲ減スルナリ、
又沸騰益甚シキニ至レハ、其輸出ヲ禁止シ、或ハ政府自ラ糧食ヲ買収シ

テ更ニ之ヲ民間ニ賣與シ、〔按〕蓋廉價ヲ以テ賣與スルナリ、又ハ民人糧食ヲ耗費スルノ數ヲ節シテ、浪ニ許多ノ耗費ヲ爲スヲ禁スル等、總テ政府ノ權ニアルコトハ、力ヲ盡シテ之ヲ爲サ、ル可ラス、〔按〕近年獨佛戰爭ノ時、佛京巴里但シ又日常ノ交際上ニ於テモ、警保官儘糧食ノ事ニ關セサル可ラサルコトアリ、例ヘハ姦商アリ、一時ニ無數ノ糧食ヲ買収シテ、頓ニ其缺乏ヲ起シ、以テ他日非常ノ利ヲ射ルヲ謀ルコトアレハ、則テ警保官決シテ之ヲ坐視ス可ラス、凡此ノ如キ姦商行フ所ノ惡計ノ害タルヤ、譬ヘハ猶小瘡ノ全身ニ蔓延スルカ如クシテ、遂ニ民間ニ缺ク可ラサル汁液ヲ吸盡スルニ至ルカ故ニ、警保官必、力ヲ極メテ此ノ如キ惡計ヲ防制セサル可ラス、○凡、民人タル者ハ、必、相生シ、相居ルコト、天理ノ當然ニ出レハ、乃、一人ノ自由、及、權利ヲ助クルカ爲メ、衆人ノ自由、及、權利ヲ害スルノ理ハ、決シテアル可ラス、國家宜シシ此理ヲ認メテ、公衆ノ障害ヲ防制セサル可ラス、

〔乙〕民人體軀ノ健康ヲ照顧スルコト、ギ、ソ、ル、ゲ、ヒ、ユ、ル、ギ、ラ、イ、ブ、リ、〔健康ノ警保ツ、ボ、リ、ツ、ア、イ、〕左ノ數條ニ舉ル者即、是レナリ、

〔イ〕醫師、アル、ツ、ト、外、醫、ル、ツ、ト、製、藥、師、ア、ボ、テ、産、婆、ム、メ、等ノ技術ヲ考察シテ、實ニ學術ニ練磨セル者ノミ、其事ヲ業トスルヲ許シ、庸醫下工ハ、其レテ施スヲ禁ス、去レ、此、事ニ於テモ、亦他ノ諸事ニ於ケルカ如ク、必、千、變、萬、化ノ景狀ニ隨テ、適應ノ處分アラサル可ラス、故ニ時アリテハ、規則外ノ事ヲ行フモ、亦必要トナルコトアリ、○方今各國ニ於テ、多クハ別ニ醫療官更、チ、ナ、ム、テ、一、局、ヲ、設、置、ス、是、レ、一、ハ、健、康、ノ、警、保、ヲ、掌、ラ、シ、メ、一、ハ、政、府、醫、療、ノ、コ、ト、ニ、關、ス、ヘ、キ、時、ニ、於、テ、其、術、ヲ、施、サ、シ、メ、ン、カ、爲、メ、ナ、リ、

〔ロ〕傳染病ノ流行スルニ方リテ、公衆ノ爲メニ、之ヲ防拒スルノ方法ヲ施行ス、即、チ、コ、ン、ツ、マ、ツ、及、ヒ、カ、ラ、ン、テ、イ、ン、ノ、方、法、〔按〕傳染病流行スル地方ヨリルヲ許スルハ、是ニ由リテ、遂ニ國內ニ傳染スルノ船舶旅客等ヲ、國內ニ入ルハ、國界等ニ於テ、病院ノ如キ者ヲ設ケ、暫ク此處ニ滞在セシムルノ方、法、ヲ、施、行、シ、又、ハ、種、痘、ノ、令、ヲ、布、ク、カ、如、キ、是、ナ、リ、換、地、利、ノ、土、耳、其、ニ、鄰、接、セル、ミ、リ、テ、イ、ル、ク、レ、ン、ツ、〔按〕土耳其ノ侵ニ於テ、是等ノ方法、盛大ニ備

ハレリ、

○四下ノ七
〔ハ〕糧食ヲ賣買スル墟場ヲ監視シ、人身ノ健康ニ害アル不熟物及ヒ人命ヲ傷フ毒物等ノ賣買ヲ禁ス、

〔ニ〕患者ノ治療及ヒ看護ノ爲メニ、公衆ノ館舎ヲ建設シ、而シテ戚族ノ力及ハサル者ハ、皆此館舎ニ入ルヲ許ス、即チ病院、スビタ、頓狂院、イルレン、産院、ゲベア、アーン、ス、借浴場、エッヘントリ、救育院、レツングス、アーン、ス、タルト、ヒュール、タルト、ハス、バット、ヘルウングリ、エツクテ、ベルソ、イ、チ、ン、是レナリ、

〔ホ〕人民ノ健康ヲ照顧センカ爲メニ、復々禽獸ノ傳染病ヲ預防シ、而シテ之カ健康ヲ保全スルノ方法無カル可ラス、

〔丙〕安全ノ警保ツボリツァイ、左ノ數件ニ舉ル者即チ是レナリ、

〔イ〕公衆ノ爲メニ番衛ヲ置クヘントリヘ、ウーヘン、ゲン、ダル、メリ、イ、コン、スタ、ブ、レル、シ、ユツ、メン、テル、ナ、フト、エ、フ、テル、等〔按〕共ニ巡邏番衛ヲ以テ之ニ充ツ、但シ總テ警保ノ諸課ニ於テモ、亦此輕卒ヲ使役ス、蓋シ各課相關涉シ

テ離レサルハ、素テ警保ニ固有スル性ナルヲ以テナリ、

〔ロ〕屍體ヲ檢査シ、及ヒ墓地ヲ監視ス、ト、イ、デ、ン、シ、ヤ、ウ、ウ、ン、ド、ギ、イ、ユ、
〔ライヘン〕
ハウス、〔按〕未タ死人ヲ埋葬セサキルヒホフ、グルフト、〔按〕共ニ墓地ノ類

〔ハ〕火災ノ警保、ホ、イ、エ、ル、即チ竈爐ノ建築ニ就テ、預、其規則ヲ公布シ、且ツ常ニ此規則ニ合フト否トヲ監視シテ、將來ノ火災ヲ滅シ、消防法ヲ設ケテ、既ニ起リタル火災ヲ消滅シ、及ヒ火難保領ノ法、ア、ツ、セ、ク、チ、立、テ、火災ノ爲メニ受ケタル損失ヲ償フ等即チ是レナリ、

〔三〕私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシム、ギ、イ、ソ、ル、ゲ、ヒ、ユ、イ、ル、ギ、イ、レ、
プ、リ、ハ、
〔之〕之ヲ狹義ノ安全警保、イ、ン、エ、ン、ゲ、ル、ン、シ、ン、チ、ト、云、

私人ノ權利ヲ警保照顧シテ、安全ナラシムルヲニ就テハ、警保權大イニ司法權ト關シテ、互ニ密涉ス、故ニ時トシテハ、此二種ノ境界ヲ分ツ、甚々難キヲアリ、去レ、決シテ分ツ可ラストハ云フ可ラス、左ニ論スル所ノ理ニ由テ、乃チ之ヲ分ツヲ要ス、

一四下ノ七

七ノ下四二

警保ノ職務ハ、決シテ正義公直ヲ保全スルニアラス、則チ平穩安寧ヲ保全スルニアリ、平穩安寧ヲ保全スルトハ何ソヤ、現ニ平穩安寧ノ妨碍トナル者ヲ防制シ、公衆和平ノ障害トナル者ヲ除却シ、及ヒ法制秩序ヲ破リテ、公衆ノ安全ヲ傷フ者ヲ驅逐スルヲ云フ、彼ノ罪狀ノ有無輕重ヲ査定シ、曲直ノ疑ハシキヲ判決シ、罪科ヲ斷定スルカ如キハ、決シテ警保官ノ職掌ニアラス、總テ是等正義公直ヲ保全スルノ處分ハ必ズ警保官ノ關スル所ニアラス、〔按〕是等ノコトハ、唯是等ノ處分ヲ補助スルコトハ、或ハ之レアリ、但シ警保官已ムチ得サルコトアルニ方リテハ、或ハ其權ヲ常區ノ外ニ施行セサル可ラサルコトアリ、是ヲ以テ各國皆警保官ニ限制セル懲戒法ツグレフト、チ用フルチ許スナリ、

但シ警保官ニ唯懲戒法ヲ施行スルヲ許シテ、刑法ヲ施行スルヲ許サ、ル所以ハ、蓋シ懲戒法ハ、殊ニ公衆ノ安寧ヲ保全スルカ爲メニ、施行スル者ニシテ、唯姑ク懲戒スルヲ目的ト爲スト雖モ、刑法ハ、專ラ正義公直ヲ保全ス

七ノ下四三

ルカ爲メニ施ス者ナルヲ以テナリ、○然ルニ若シ警保官ニ懲戒法ヲ施行スルヲ禁スルコトハ、其權力遂ニ振ハサルニ至リ、若シ又懲戒法ヲ施行スルニ於テ、綿密ナル治罪法ノ規律ヲ遵守セシメント欲スルコトハ、其事務甚ク困難チ生スルノ恐レ少ナカラス、故ニ此二件ハ、全ク警保官ノ職務ニ相合セサル者ト云フ可シ、○然ルニ近今佛國ノ制度ニ倣ヒ、元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲモ、此官ニ任セスシテ、法院ニ委任スルノ制度ヲ立テタル國アリ、此制度アルコトハ、實ニ警保官ノ專恣ニ至ルヲ防クノ益少ナカラス、但シ警保官ノ權力ヲシテ、衰弱癱瘓セシメサルコト、甚ク緊要ナルカ故ニ、常ニ此官ヲシテ、必ズ憲法ニ隨テ、警保刑ボリツアイスト刑ト云フ義ニシテ、即チ唯懲戒ノ爲メニ施ス刑ヲ施行スルノ權利ヲ失フコトナカラシム可ク、且、縱令ヒ法院ニモ、憲法ニ隨テ、警保ノ處分ニ關セル、命令指揮ヲ施ス權ヲ與フルモ、此官ヲシテ、唯正義公直ヲ害スル者ヲ罪スルヲ以テ、其本意ト爲サシメ、決シテ公衆ノ利益ノ爲メニスル〔按〕即チ安寧平穩ヲ、本意ト爲サシム可ラス、

七ノ下四四

元來警保官ノ懲戒スヘキ罪過ヲ以テ、全ク法院ノ處分ニ委任セル國ニ於テスラ、猶警保官ヲシテ、僅ニ少罪過ヲ罪スルノ權ヲ握ラシム、若シ然ラサレハ、此官決シテ其職ヲ盡ス能ハサルニ至ル、必然ナレハナリ、警保官ハ其職掌ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ從屬スヘキ者ニアラス、即チ法院ノ其自己ノ區域内ニ於テ、決シテ警保官ニ隨屬セサルト同一理ナル可シ、故ニ人若シ警保官ノ處決ニ服セサル者アリテ、更ニ之ヲ法院ニ訴フルコトアリト、決シテ法院ニ於テ、之ヲ改裁スルヲ許サス、但シ警保官實ニ法院ニ對シテ、其處分ヲ保任スルノ規律ハ、他官吏ノ保任規律ト、大ニ約相異ナル所ナカル可シ、○但シ警保官安寧平穩ヲ照顧スルニ方リテハ、時ノ景況ニ隨テ、神速ニ強猛ノ威力ヲ施サ、ル可ラサルコトアルヲ以テ、儘已ムヲ得ス、自己ノ意見ヲ以テ、法ニ合セサルコトモ爲サ、ル可ラス、去レヒ是レヨリ、遂ニ其權ヲ弄シテ、私人ノ自由、及權利ヲ枉害スルノ恐レアル、亦少ナカラス、是故ニ必、其處分ヲ十分ニ保任スルノ責、ヲ負ハシメサル可ラ

ス、但シ其處分ノ善惡當否ヲ判定スルヤ、必シモ唯其事ノ法律ニ合フルト否トノミヲ以テス可ラス、唯其事ノ治安上ニ恰當ナルト否トノコトニ、緊ク着眼スルヲ要ス、然ラサレハ、大ニ警保官ノ權力ヲ厭制シテ、遂ニ振フ能ハサラシムルノ恐レアリ、去レヒ、又決シテ其專恣非理ノ所業ニ及フヲ許ス可ラス、蓋シ以上ノ理ニ由テ、警保官保任ノ規律ヲ立ルキハ、決シテ警保官ノ權力ヲ傷ハスシテ、兼テ其專恣ヲ防クニ足ルカ故ニ、此官及ヒ私人ノ爲メニ、共ニ良シトス、然ルニ唯警保ノ憲法ヲ、綿密ニ制定シテ以テ、此權ヲ限制セント欲スルモ、徒勞ニ屬スルノミ、何者、凡、將來變化萌リナキ世態ノ景況ヲ、悉ク測度シテ、之ニ適當スヘキ憲法ヲ、預定スルハ、決シテ能ハサルコトナレハナリ、

七ノ下四五

所謂法院附屬警保官^{ゲリフトリ}ナル者ハ、元ト刑法ノ施行ヲ補助スル者ナルカ故ニ、全ク法院ニ隨屬スル者ニシテ、決シテ之ト並立スル能ハサル者ナリ、故ニ其職務ニ就テモ、唯法院ノ指令ヲ遵奉スルノミナリ、

七〔第三〕教育ノ警保ツルツール、教育ト教育ノ警保トハ、猶國家經濟スグートシテ、トシツ、經濟ノ警保ツ、ツ、ボリツ、ボリツツ、ツ、トノ如ク、必分テ二事ト爲ス可シ、何者、教育ハ事務ケレニシテ、教育ノ警保ハ、權力ゲワト、ナレバナリ、總テ公衆交際上ノコニ於テハ、必警保權ノ關セサルコトナシ、故ニ教育事務、及ヒ經濟事務ニモ亦必關ス、但シ其關スルヤ、唯公衆ノ爲ニ、權力ヲ要スルノ故ヲ以テナリ、若シ之ヲ要セサル時ニ於テハ、此權決シテ關スヘキノ理ナシ、但シ命令、或ハ禁止ノ權ヲ施行スルコト緊要ナルニ方リテハ、權力ナル警保、專ラ主トナリテ、事務ハ之ニ從属ス、權力ナル警保、決シテ事務ニ隨行スルニアラス、○唯事務ノミヲ以テ、其事ヲ濟スニ足ル時ハ、決シテ警保權ヲ施ス可ラサルハ固ヨリ論ナシ去レ、是時ニ於テハ、警保官必ス教育官ノ處分ヲ監察シテ、其怠惰ヲ制スルヲ以テ、主務ト爲ス可ク、又權力ヲ用ヒサル可カラサルカ爲ニ、警保官其權力ヲ施スニ方リテハ、必事務官ノ裨補ヲ求ムルヲ要ス、總テ各官相助ケ、相救フノ規律ハ、必此ノ如クナル可シ、

教育警保ノ品類ハ、左ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕公衆ノ行狀風儀ヲ照顧シテ、其善良ヲ保全スルコト、ギ、ギ、ソ、ソ、ル、ル、ゲ、ゲ、ヒ、ヒ、ニ、ニ、ル、ル、ハ、ハ、シ、シ、ツ、ツ、ト、ト、リ、リ、フ、フ、カ、カ、イ、イ、ホ、ホ、ル、ル、ク、ク、ス、ス、ツ、ツ、ボ、ボ、リ、リ、ツ、ツ、ア、ア、イ、イ、即、即、テ、テ、ハ、ハ、之、之、ヲ、ヲ、行、行、狀、狀、ノ、ノ、檢、檢、査、査、ス、ス、ト、ト、云、云、ヘ、ヘ、リ、リ、

教育ノ警保權ヲ施シテ、臣民一般ノ行狀風儀ヲ照顧シ、以テ益之ヲ善良ナラシムルハ、國家負フ所ノ務ナリ、去レ、素人タル者ヲシテ今日交際上ノ行狀風儀ヲ善良ナラシムルコトニ心ヲ用フルハ、專ラ教會キルノ預ル處ニシテ、教會能シ此責ヲ盡スルハ、人心ニ感應スルコト、更ニ深切ニシテ、其良功アルコト、絶テ國家政治ノ及フ所ニアラス、教會タル者、能ク自己ノ務ヲ敬シ、以テ天神ヲ畏敬スルノ道ヲ明カニシ、而シテ能ク人ヲシテ、天神ト合體スルヲ得セシムルハ、自ラ仁義禮讓ノ源泉、國家民人ノ上ニ溢流シテ、決シテ盡シルコトナカル可シ、○國家ナル者ハ、人ノ良心知識ヲ制馭スルノ權ヲ有セス、且、冥々ナル精神ヲ拘管シテ、之ヲ正善ニ遷スノ權

七下ノ四

七ノ下四八

チ有セス、國家ノ權ノ及フ所ハ、唯外貌ニ顯ハル、事上ニ在ルノミ、故ニ
 國家タル者、決シテ民人ノ道義心ヲ直ニ照顧スルノ權チ有スルニアラ
 ス、唯精神内ニ潛住スル者發出シ、顯レテ外面ノ舉動トナルニ至リ、始テ
 國家ノ管スル所トナリテ、其權内ニ歸スルナリ、○教會ハ能ク神教ノ道
 チ以テ人ノ暴惡ナル心意ヲ改メ、之ヲ正善ニ還スヲ得トイヘ、國家ハ
 唯能ク人ノ暴惡ナル所行ヲ禁シ、及ヒ善行ノ障礙妨害トナル者ヲ滅除ス
 ルヲ得ルノミ、[○]但シ此事務ヲ盡スニ於テモ、動モスレハ指令煩多ニ過キ
 テ、深ク民人私事ノ區域ニ侵入シ、其自由ヲ妨ケ、或ハ又指令ヲ怠リテ、全
 ク民事ニ著意セサル等ノ弊害生シ易シ、此二弊害モ亦猶例ヘハ二個ノ
 相對セル巖礁ノ如シ、當路者宜シシ共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ航ス可シ、
[○]按國家ノ權ト、教會ノ權ト相岐分スル所、本文ニ論スルカ如クシ
 テ、遂ニ相犯ス可ラサル者ナリ、然ルニ未ダ開明セサル國ニ於テハ、政
 府往々縱ニ人ノ精神心意ヲ拘管制馭セントス、豈迷誤ノ甚クシキニ

非スヤ、卷ノ九教育事務ノ部、及ヒ英人ミルカ著ス所ノ自由ノ理中村敬太

郎カ所譯ナリ中、此理ヲ詳論ス、宜シク就テ看ル可シ、

七ノ下四九

羅馬國ニテハ、國家タル者、人民ノ行狀ヲ警保スルヲ以テ、貴重スヘキ事
 務トシ、且ツ其行狀檢査ノ法ヲ立ツルヤ、事ミナ成綜攬シテ、一ツモ遺サ、ルノ意
 チ以テセリ、而シテ其檢査官ナル者ハ、總テ民人ニ存スル仁義禮讓ノ心
 チ妨害スル所業アレハ、之ヲ制止スルノ權アリキ、但シ此官決シテ將來チ
 預防スルカ爲メニ、其權チ施スニアラス、必ズ不正ノ行ヒテ爲ス者アルニ至リ
 テ、始テ其權チ施シタリキ、是レ公衆ノ際ニ、其風俗ノ行ハレノコトヲ欲スル
 カ爲メニシテ、現ニ此風俗ヲ傷フ所業了然ナル時ニ於テスルノミ、(大功績
 アリテ、衆望ノ歸シタル徒ヲ選テ、檢査官トナセシカ故ニ、決シテ不當ノ
 事ヲ爲スコトナカリキ、)去レ其者ノ所業、若シ實ニ法制ニ背ケル時ハ、則チ之ヲ
 制止スルコト、全ク法院ノ處分ニ係ルヲ以テ、檢査官ハ敢テ之ニ關セサリ
 キ、○縱令高位大官ニ居ル者ト雖モ、若シ其風俗ヲ傷フ所業アルトハ、決シ

○五下ノ七

テ検査官ノ刑罰ヲ遁カル、^一能ハサリキ、
 中古ノ世ニ於テハ、教會ナル者、民人ノ行狀風儀ヲ視察照應スル^一十分
 ナリキ、然ルニ今時ニ及ビテハ、教會ノ權頗ル陵夷シテ、十分ニ人ノ精神情
 意ヲ控制スル能ハサル勢トナリ、又尋常ノ警保官ハ、決シテ此事務ヲ主
 管スル能ハサルカ故ニ、方今ハ此事務ニ於テ、十分ニ主管スル者アテサ
 ルニ至レリ、○警保ノ諸事務中、其最ニ難キ者ニ至リテハ、實ニ卓見高識
 ナ備ヘテ、大ニ衆望ノ歸向スル人傑ナル者、全ク自己ノ意見ヲ以テ、自由
 ニ處分スルニアラサレハ、決シテ其功ヲ成ス可ラス、羅馬ニ於テ若キ事
 務ヲ以テ、衆人敬重スル所ノ人傑ニ委托セシハ、蓋シ此國ノ警保制度ノ真
 ニ卓絶セシ所以ナリ、然ルニ今時ノ諸制度中、最モ宜キニ適セサル者ハ、
 警保ニシテ、決シテ羅馬ノ如キ良法アラサルノミナラス、動モスレハ警
 保官ナル者、漫ニ細些ノ事ニ關シテ、害ヲ人民ニ流シ、遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ
 受クルニ至ル、加之、政府官吏ノ爲ス所モ亦、過半ハ殆、警保官ノ所業ニ等

シク、共ニ民人ヲ困シムルカ故ニ、滿政府遂ニ其嫉惡嫌忌ヲ受クルニ至
 ルナリ、

警保ノ編制ヲ改革スルニアラサレハ、此弊害決シテ除去ス可ラス、而シテ
 方今ノ世ニ於テモ、威權ヲ縱ニセント欲スル、偏見劣識ノ官吏ニ警保權
 ナ任セスシテ、別ニ衆望ノ歸向セル私人ヲ撰テ、之ニ委托シ、而シテ全ク其
 自己ノ意見ヲ以テ、此權ヲ施行セシメハ、上ニ論スルカ如キ弊害ヲ除ク
 一、決シテ難キニアラス、凡、天爵ヲ得テ、天下ノ仰慕ヲ受クル諸士、若クハ
 一私人ニ、此權ヲ委托セハ、能ク其功ヲ奏シ、民人モ亦必、之ニ敬服スルニ
 至ルヘシ、而シテ今時ノオルデシタル〔按〕勳爵ヲ得、ノ如キモ、若シ此權ヲ委托
 セハ、乃其功益アル可シ、

一五下ノ七

國家タル者、教會ヲ監視シ、及ヒ神教會同ノ景狀、或ハ教育ノ方法、卷ノ九ニ
 於テ、詳論スヘシ、^一テ都察スルノ職務ヲ除クノ外、方今ニ於テハ、行狀風儀
 テ照應スル警保權ノ種類ト稱スヘキ者、甚タ少シ、

ルナリ、卷ノ十二第八款

七ノ下五四

國民ノ情意ヲ快活ニセント著意スルハ、仁善ノ處置ナリ、既ニ羅馬ニ於テハ、下民「麵包」及「戯嬉」パチム、エト、キト云ヘル語ヲ以テ、其當然ノ大願欲ヲ認ヘタリ、而シテ常路ノ人ハ、下民ヲシテ此二個ノ願欲ニ充テシムルヲ以テ、頗ル榮譽トセリ、然ルニ今時ノ警保官ハ、演劇開宴、及「歡樂」等ノヲニ於テハ、唯其放恣ニ至ルヲ制シ、及「危害」ヲ生スルヲ防シ等、總テ陰ノ方向ニ進ム處分ニ勉勵スト雖モ、大ニ民情ヲ鼓舞作興シテ、之ヲ快活優美ニナスカ如キ陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ニ至リテハ、羅馬警保ノ意ニ及ハサル霄壤ナリ、○羅馬人ハ、頗ル治體ニ練熟セシカ、殊ニ此陽ノ方向ニ進ム所ノ處分ヲ以テ、甚ダ緊要ナルトシテ、大ニ之ヲ勉勵シ、而シテ其英傑ナル者ハ、相競テ大演劇ヲ興シタリキ、既ニ此國、民主國ナリシキニ於テハ、麵包及「戯嬉」ノ事ヲ照顧シシエザールハ、最高ノ官ニ登ルノ階梯ナリキ、

〔丙〕救助警保、ウンテルスツエツツ、及「救貧警保」アルメンボリツァイ、モ亦、此部類〔按〕教育警保ノ部類

云、ニ列ス可シ、

此警保ヲ施スニ就テハ、先ツ眞ノ貧人ト、唯非常ノ時ニ當テ、一時救助ヲ仰シ者トチ區別シ、且ツ又貧人中ニ於テモ、天然ノ貧人ト、自ラ求メテ貧窮ニ陥リシ者トチ、仔細ニ區別スルヲ要ス、然ルニ若シ是等諸類ヲ悉皆同視シテ、全ク其區別ヲ立テサルキハ、必ス二個ノ害アルヲ免レズ、其一ハ、之レニ由テ動モスレハ、貧人ノ自ラ貧困ヲ免レント欲スル氣節ヲ挫折シ、其二ハ、現ニ存スル弊害ヲ、益々増加スルヲ、屢之レアルナリ、是故ニ之レカ區別ヲ立ル、左ノ如キヲ要ス、

七ノ下五五

〔イ〕凶年饑饉等糧食大ニ缺乏シ、其價非常ニ騰貴スル時、或ハ大火災、若シハ戦争等起リ、平常ノ糧食頓ニ亡失スル時、又ハ工商ノ業、一時ニ止息スルヲアリテ、庶民其業ニ就ク能ハサル時、以上總テ非常ノ災厄起ルニ方リテハ、政府一時許多ノ民ヲ救助セサル可ラサルアリ、而シテ此ノ如キ時ニ臨ミテハ、平常貧窮ナラサル者ト雖モ、自ラ活計ヲ營ム能ハサルヲ以

七ノ下五六

テ、已ムヲ得ス一時救助ヲ仰クニ至ル、去レ此輩元來貧窮人ナラサルカ
故ニ、非常ノ專欲ニ、平常ノ形勢ニ復スルニ至レハ、自ラ能ク生計ヲ營ム
ヲ以テ、決シテ救助ヲ要セサル可シ、○然ルニ政府若シ救助ノ方法ヲ誤ル
ヲアルトハ、却テ是等ノ徒ノ志氣ヲ挫キ、遂ニ懶惰ニ流レシムルノ恐レナ
キ能ハス、故ニ宜シク意ヲ用ヒ、敬ンテ此弊害ヲ防ク可シ加之、益其志氣
ヲ獎勵シテ、良民トナラシムルヲ、最モ緊要ナリ、凡ソ人タル者ハ、皆自ラ其
力ニ食ムヲ、天理ノ當然ニ出レハ、縱令ニ非常ノ災厄アルニ方リテハ、一旦
之ヲ救助スルヲアリト、是ニ因テ決シテ其自食ノ心ヲ失ハシムルヲア
ル可ラス、是故ニ一時災厄ノ爲ニ、救助ヲ仰ク者ヲ以テ、決シテ眞ノ貧人
ト混同ス可ラス、其之ヲ待遇スルノ方法ニ至テモ、亦自ラ相同シカラサ
ルヲ要ス、若シ之ヲ混同シ、同方法ヲ以テ之ヲ待遇スルキハ、遂ニ其廉耻ノ
心ヲ失ハシムルヲ必然ナレハ、宜シク切ニ意ヲ用フ可シ、蓋シ人ノ自ラ艱難
災厄ニ耐ヘテ、能ク之ニ勝ツ所以ノ者ハ、獨、廉耻ノ心ノ存スルニ依レハ

ナリ、

民人タル者ハ、自ラ力メ、自ラ食ムヲ、甚ダ緊要ナレト、若シ災厄起リ、勉力自養
スル能ハサルニ方リテ、之ヲ救助シ、其災厄ニ耐ヘシムルハ、素、經濟ノ事
務ナレハ、決シテ、警保官ノ掌ルヘキ職任ニアラス、然ルニ時アリテ、經濟
ノ術策未ダ全ク災厄ヲ除クニ足ラサルヲアリ、是時ニ方リテハ、警保官已
ムヲ得ス、其強盛ノ威力ヲ奮ヒ、經濟ノ事務ヲ助ケ、以テ民人ノ災厄ヲ攘
ヒ、其安寧ヲ得セシメサル可ラス、

七ノ下五七

〔ロ〕天然ノ貧人トハ、素性自ラ營養スル氣力ナク、且ツ威族ノ救助スヘキ者
モアラサルヲ以テ、已ムヲ得ス、公衆ノ救助ヲ仰ク者ナリ、即チ親戚ニ離レ
タル貧兒、未ダ婚セサル幼童、氣力憔悴セル老人、及ヒ病者、廢人等ヲ云フ、而シテ
國家是等ノ徒ヲ救助スルハ、素、神教、及ヒ道義ノ旨ニ基キシナリ、中古ノ世
ニ於テハ、教會專ラ此救貧ノ務ニ從事シタリシガ、今ニ尙基督教ノ旨ニ
由テ、此仁恤ノ務ヲ、放棄スル能ハサルハ固リナリ、去レ今時ハ殊ニ救貧ノ

方法ヲ以テ、國家ノ掌ルヘキコトナセリ、蓋シ戚族ノ救助スヘキ者ナキ貧人ヲ看護シテ、決シテ凍餒ノ憂ヒナカラシムルハ、國家當然ノ職務ナルヲ以テ、國家敢テ此務ヲ怠ルヲ得サルナリ、○但シ國家此事ヲ爲ス、亦教育ニ係レル事務ニ於ケルカ如ク、決シテ威權ヲ施スヲ以テ、先務ト爲ス可ラズ、必ス先ツ事務ヲ行フヲ以テ、先務ト爲ス可シ、故ニ救貧事務アルメン、救貧警保アルメン、ホルツアイトハ、又必ス分テ二事ト爲スヲ要ス、而シテ若シ唯救貧事務ノミニテハ、未ダ全ク貧人ヲ救助スルニ足ラサル時ニ於テノミ、已ムヲ得ス、救貧警保ヲ施行ス可シ、故ニ警保官ハ、唯救貧事務ノ官、自ラ其務ヲ盡スニ力足ラサル歟、若クハ其務ヲ怠ル時ニ於テ、之ヲ補助スルノミ、其他救貧ノ務ハ、專ラ各邑ゲマインニ委任シテ、國家ハ直ニ之ニ關スルコトナク、唯國家ノ警保官タル者、邑ノ事務ヲ監督シ、且ツ其力ノ及ハサル所ヲ補助スルヲ以テ甚ダ良制ト爲ス可シ、何者、邑ハ譬ヘハ家族ノ蔓延セシ者ノ如クシテ、國家ト家族ノ中間ニ位シテ、各自ノ人ヲ管スル者ナレハナ

リ、是故ニ能ク邑内ニ住居セル貧人ノ状態ヲ詳悉シテ、之ヲ救助スルハ、邑ノ長スル所ニシテ、國家ノ此務ヲ爲スモリモ、其功却テ大イナル可シ、〔ハ〕自ラ求メタル貧人トハ、元來身體強壯ニシテ、自ラ其力ニ食ム能ハサルニアラス、唯懶惰ニ流レ、職業ヲ惡ミ、徒手遊食ヲ欲スルカ爲メ、遂ニ貧困ニ陥リ、他ノ救助ヲ仰ガサルヲ得サルニ至リタル者ヲ云フナリ、是故ニ政府此貧人ヲ救助セシムルハ、專ラ警保權ヲ施行シテ、酷ク之ヲ懲戒セサル可ラス、只救貧事務ノミヲ以テ、之ヲ處スレハ、絶テ益ナシ、○此故ニ此貧人ハ、必ス操作場アルバイ、及シ懲戒場コルンクニ入レ、操作ニ従事セシメ、以テ嚴ニ之ヲ懲戒スルヲ緊要トス、但シ是等ノコトハ、決シテ邑ノ掌ル所ニアラス、必ス國家警保權ヲ以テ、此事ヲ爲サ、ル可ラス、

○英國ニテ以利沙伯女王、一千五百三十一年ニ在位ノ時ニ、唯癩瘋病ヲ患ル者、廢疾ニ罹ル者、老人及シ若者等ヲ救助スルカ爲メ、救貧稅アルメンメノクキヲ設立セリ、然ルニ其後ニ至リテハ、能ク職業ニ堪ユル者ニテモ

懶惰ニシテ其業ヲ勉メスシテ、貧窮人トナルキハ、共ニ救貧稅ヲ以テ
救助シ、而シテ本文論スル所ノ三種ノ貧人ヲ以テ、全ク混淆シテ、相分ク
サリシカ故ニ其弊害遂ニ言フ可ラサルニ至レリ、○獨乙及瑞士ニ於
テモ、此三類ノ區別、未ダ全ク十分ナルニハアラスト雖モ、英國ノ制度ニ
比スレハ、遂カニ優ルト云フヘシ、

〔第四〕國家經濟ノ警保、ホルクス、ホルト、シヤフツ、ポリツアイ、又

國家經濟ノ警保ハ、即チ制取ノ權柄ヲオブリグカイト、ナルヲ以テ、此權ニ隨
屬セル國家經濟ノ事務シヤフツ、ポリツアイ、トハ、自ラ相異ナルコト、猶教育警保
ポリツアイ、ト教育事務ポリツアイ、ルノ相異ナルカ如シ、平常ノ形勢ニ於テ
ハ單ニ經濟事務ノミニテ足ルカ故ニ、決シテ權柄ナル警保ヲ施スヲ須
ヒス、唯實ニ權柄ヲ施スコト必要トナル時ニ臨テ、之ヲ施行スルヲ要ス、經
濟ノ警保ナル者ハ、即チ左ノ諸類ナリ、

〔甲〕水利ノ警保ワツセル、ポ 江河ヲ修理シ、堤防ヲ建築シテ、人ノ沈溺、物ノ

流失ヲ預防シ、並ニ江河ヲ通船、或ハ捕魚ノ用ニ供シ、河水ヲ水工ニ用ヒ、
及ヒ之ヲ田野ニ灌ク等ノコトニ於テ、公衆利益ノ爲メニ注意照顧シ、且、公衆利
益ヲ防碍スル者アレハ、則チ必ズ之ヲ制止シ、其他海港ヲ開キ、燈明臺ヲ建テ
以テ、船舶ノ便益ヲ謀ル等ナリ、

〔乙〕道路、及、街衢ノ警保、エーゲ、ポリツアイ、ウインド、 即チ道路、街衢、鐵道、橋梁等
ノ築造、修繕ノコトヲ照顧シテ、其堅牢ヲ保全スルヲ云フ、○橋梁ノ修繕ヲ
命スルハ、警保ノ務メニシテ、之ヲ適宜ニ修繕スルハ、經濟ノ任ナリ、

〔丙〕公衆ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ公衆ノ爲メニ設ケタル園圃ヲ警保スルコト、ゲ、ヒ、
ール、エツヘントリヘ、ブロンテン、ウインド、エツヘントリヘ、プレツツエ、〔按〕往來ス
ル者ノ爲メニ設ケタル井水、及ヒ衆人散步等ノ爲メニ設ケタル園圃ノ警保ヲ云フ、
其他此ノ如キ園圃ヲ修飾スルカ爲メニ、樹木、草花ヲ培植シ、牌坊ヲ建造シ、
及ヒ公衆ノ爲メニ館舎ヲ築營シ、且、之ヲ美麗清潔ニ粧飾スル等ノコトヲ照顧
ス、○縱令私人ニ屬スル屋舎ト雖モ、亦能シ照顧シテ、若シ公衆ノ安全ヲ害
シ、公衆ノ忌避ニ觸ル、者アレハ、必ズ之ヲ禁止ス、但シ其照顧甚ダ過察ニシテ、

七ノ下六二
 遂ニ私人ノ所有、及ヒ其快樂ヲ拘束スルニ至ル可ラス、
 丁「國家經濟ノ警保、ホルシスナルトシヤフトリヘ、ホリツアイ」按「以上甲乙丙
 又丁ノ一類ノミチモ、國」此警保ノ事ニ就テハ、卷ノ十ニ於テ、經濟事務
 家經濟ノ警保ト云フ、
 テ論說スル時、併テ論說ス可シ、〔按〕卷之十第八款ニ詳ナリ、即、專ッ
 製作ノ事ニ係レル警保ナリ、

大井潤一 校

國法汎論卷之七下終

國法汎論卷之八上 目錄

司法

- 第一款 司法權ノ性及ヒ品類
- 第二款 司法ノ通則
- 第三款 私法事務ノ編制

附言

此書首卷及前數卷ハ、一千八百六十四年ニ刊行セル第三版ヲ以テ譯セ
シト雖モ、頃日六十八年刊行本第四版ヲ得タルニ由リ、本卷以下之ヲ以
テ續譯ス、既譯數卷ノ如キハ、他日餘暇ヲ以テ、補訂スヘシト云フ、
明治六年五月
譯者誌

國法汎論卷之八上

瑞 士

イ、カ、ブルンチユリ 著

加 藤 弘 之 譯

司法

第一款

司法權ノ性及品類

チ、ナツール、ウント、ヂー、
アルルテン、デス、ゲリヒト、

司法ノ權ハ、總テ法制ヲ傷害スル者アルニ至リテ、始テ施行スル者ナリ、
凡法制ヲ傷害スル者アレハ、則司法權ヲ施行シテ、其傷害ヲ除去シ、以テ
法ノ尊嚴ナル所ヲ顯ハスナリ、是故ニ司法ノ權ハ、以テ國家ノ正義公直
ノ旨ヲ保全スル所ノ者ナリ、

司法ノ職掌ハ、分テ二類トス、

〔第一〕法ヲ認知スルコト、エルケントニ

（中古ノ語ヲ以テスレハ、即チ法ヲ覓着
スルコト、ヒンデン、デ）即チ判定、
（按）判定ニ二類アリ、一テ事ノ判定
或ハ顛末如何ヲ判定シ、且之ニ次テ、其事ノ曲直、
或ハ其罪ノ有無ヲ判定スルヲ
云ヒ又法ノ判定トハ、某事或ハ某罪ニハ、
某法當ル可シト判定スルヲ云フ）

一ノ上八

〔第二〕法ヲ施用スルコトハ、ハインドハ「ベ」ン、デス、レヒツ、〔按〕法ヲ是レ即チ眞誠ノ
 司法ナリ、〔按〕況ク司法ト云フキハ、第一第二ノ二事ヲ合稱スト
 元來判定ノコトハ、必ス國家ノ權ヲ以テ、爲スヘキ務ト云フ可ラス、人々或ハ
 事ノ法ニ合スルト否トヲ辨識スルノ良知ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、
 或ハ法律ニ通曉セル學識ヲ以テ、此事ヲ爲シ得ルアリ、是故ニ此事ハ、他
 諸般ノ學術ヲ以テ、爲シ得ル事業ト、殆ト相殊ナル所ナシ、○然ルニ若シ眞
 誠ノ司法ヲモ、此理ニ據テ論シ、而テ私人亦以テ、司法ノ權ヲ有シ得ヘシ
 ト爲セハ、是レ大ナル謬見ト云フ可シ、凡ソ判定ハ、眞誠ノ司法ニ先ツテ、施ス
 ヘキ預事タルニ過キスト雖モ、眞誠ノ司法ハ、必法院ノ司ルヘキ務ニシ
 テ、全ク國家ノ權ニ在ル者ナリ、是故ニ判定ノコトハ、或ハ私人ニ委託スル
 コアリト雖モ、司法ノ權ニ至テハ、國家常ニ之ヲ掌握セサル可カラス而
 テ判定ノコトヲ私人ニ委託スル時ト雖モ、決シテ私人ニ其全權ヲ與フル
 ニアラス、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ控制スルナリ、

私權利若シ屈害毀傷ヲ受ルコトアレハ、之ヲ除去シ、以テ私權利ノ安全ヲ追
 回復舊スルハ、全ク私法事務ナヒールレヒツト譯ス、即聽訟事務ナリ、ナリ、此時
 ニ於テ、國家ハ唯此法ニ依テ、私人ニ屬セル權利ヲ保護シ、以テ損害ヲ受
 ケカラシムルナリ、而シテ國家此目的ヲ達センニハ、一ハ甲人ノ乙人ニ對
 シテ爲セル背法ノ私事ヲ除去シ、一ハ甲人ヲシテ、其乙人ニ被ラセタル
 損失ヲ償ハシムレハ、則チ足レリ、即チ之ヲ約言スレハ、總テ屈害ヲ受ケタル
 私權利ヲ追回復舊スルヲ以テ、則チ足レリトスルナリ、
 是故ニ此目的ヲ達センニハ、國家通例唯其權ヲ以テ、私人ニ眞實ノ法ヲ
 告示スレハ、則チ足ルナリ、〔按〕法院ハ唯法ニ據テ判定シテ、原告人ハ宜ク
 ハ、則チ足レリ、但シ若シ兩造カケクシウケクシ原告被告ナリト云、
 ナリ、但シ若シ兩造カケクシウケクシ原告被告ナリト云、
 一ハ、法院ノ判定ニ服セスシテ、猶自論
 強逼スルハ、即チ其正義公直ノ旨ヲ伸フル所以ナリ、故ニ此事ハ、法院當然
 奉行ス可シ、縱令ヒ警保官ノ補助ヲ假ルコト、必要ナルキト雖モ、專ラ主トシ

テ之ニ從事スル者ハ、乃チ法院ナリ、
 元來私法ハ、全ク私人互相ノ交際ヲ制スル者ナルカ故ニ、素ト國家ノ當
 然關スヘキ者ニアラス、是故ニ私人互ニ其權利ヲ屈害スルコトアル毎ニ、
 必ス國家ノ權ヲ以テ、其屈害ヲ除去スルハ、決シテ國家當然ノ務ト云フ可
 ラス、若シ此事ヲ以テ、國家當然ノ務トナスキハ、遂ニ大ニ私人ノ自由
 ナ限制シテ、全ク其交際ヲ妨碍スルニ至ルハ必然ナリ、故ニ私人ノ事ハ、
 私人ニ任セテ、自ラ處分セシメ、國家ハ宜シク之ニ關セサル可シ、○去レ
 茲ニ甲乙二人アリテ、甲ハ乙ノ權利ヲ屈害セント欲スルキ、乙之ヲ防テ、
 其權利ヲ保全セント欲スト雖モ、甲若シ之ヲ肯セスシテ、猶屈害ヲ行フキ
 ハ、乙亦甲ノ權利ヲ退蹙スルニアラサレハ、決シテ其屈害ヲ免カル、能
 ハサルナリ、然ルニ若シ是等ノ事ヲモ、猶總テ私人互相ノ處分ニ任セテ、國
 家敢テ之ニ關セサルキハ、遂ニ公衆ノ平和親睦、輒ク乖離スルノ恐レアリ、
 是ヲ以テ、今時ハ是等ノコトヲ、決シテ臣民互相ノ處分ニ任スルコトナク、必

法院ヲシテ、公明ノ心術ニ依リ、良善ノ規律ニ遵テ、兩個私人ノ曲直ヲ判
 定セシメ、以テ兩個私人ノ私ニ爭鬪スルナカラシムルニ至レリ、是故ニ
 私法事務ハ、必ス一競主ノ訴訟ニ由テ、始メテ施行スル者ナリ、
 然ルニ刑法事務クシノアイトト譯ス、即斷獄事務ナリ、ハ、私法事務ト相異ナリ、
 故ニ啻私人ノ權利ヲ屈害スルノミナラス、尙亦暴惡所行ヲ以テ、國家ノ
 法制ヲ破リ、其害ヲ生スル者アルニ方リテハ、必ス刑法事務ヲ施スヲ要ス、
 凡、現存ノ法制ヲ紊亂毀傷スルノ所行モ、或ハ私法ニ關係ナキ能ハス、去
 此所行ヲ企ツルノ心意方法、併ニ暴惡ニシテ、遂ニ公衆ノ平和ヲ傷害
 スルニ至ルキハ、必スヤ刑法ヲ施サ、ル可ラス、是故ニ刑法ハ、必ス公衆ニ關
 セル事ノ爲メニ施行スル者ニシテ、則チ亦公衆法按即國法ト云フナリ、
 稱ス可シ、緒論ヲ參、○是故ニ此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方リテ
 ハ、其損害ヲ除去シテ、只屈害ヲ受ケタル者ノ權利ヲ追回スルノミナリ、
 テ、足レリト爲ス可ラス、但シ此ノ如キ暴惡所行ヲ爲ス者アルニ方リテ、此

者ニ償金ヲ命シテ、屈害ヲ受ケタル者ノ損害ヲ償ハシムル處分モ、亦必
 要トナルコトナキニハ非サレド、此事ハ唯私法ノ關係ヨリ生スルコトナル
 カ故ニ、全ク私法ノ區域ニ屬ス、去レド此ノ如キ徒ノ償金ノ科ハ、唯罪犯ニ
 附屬スル者ナルヲ以テ、罪犯ヲ罪スルニ方リ、刑法官ニ於テ、共ニ此償金
 ナモ命ス、但、又時宜ニ由テ、罪犯ノ處決ト償金ノ處決トヲ區分シテ、償金
 ハ、尋常ノ訴訟法官ヨリ命スルコトアリ、
 刑法ノ本意ハ、刑罰ヲ罪人ニ蒙ラシムルニ在リ、凡、國家ノ害ヲ釀成スル
 罪人アルニ方リテハ、國家其正義公直ノ旨ニ由リテ、嚴ニ其罪人ヲ罰シ、
 以テ其威權ヲ保全シ、且、公衆ノ和平安寧ヲ追回セサル可ラス、○罪科ト
 刑罰トハ、必、敵當スルヲ要ス、若シ罪刑敵當セサルキハ、決シテ法制ノ尊嚴
 ナ示シ、其紊亂ヲ復スル能ハサルナリ、凡、罪人ヲ懲戒シテ、正善ニ遷ラシ
 メ、且、兼テ預、他人ノ同罪ヲ犯スヲ警戒スルハ、即、刑罰ノ目的ナリト云フ
 可シ、去レド此事、乃、眞ノ眼目トハ云フ可ラス、眞ノ眼目ハ、即、本人ノ罪科ヲ

罰スルニ在リ、是レ蓋シ正義公直ノ旨ニ出ル所以ナリ

○スタール 獨乙人、一千八百零二年、カ著セルスターツレーン名、即、國

家學ノニ云、「暴惡ノ所行〔國家ニ於テハ即罪犯ナリ〕ヲ爲セル者、必、刑

罰ヲ蒙ルハ、即、正義公直ノ旨ニ出ル所ノ千古不朽ノ法ナリ、故ニ人ノ良
 知自由ノ力ヲ失フコトナケレハ、皆此理ヲ知ラサルナシ、去レド罪犯人ニ

刑罰ヲ加ヘテ、其苦ミヲ喫セシムルキハ、則、此罪犯ニ由テ、嘗テ妨害ヲ
 受ケタル國家ノ法制秩序、舊ニ復シテ、其安全ヲ得ルニ至ルハ、何ニ由

テ然ルヤ、其理ヲ解スルニ至リテハ、決シテ易事ニアラス、○〔按〕以下
 理ヲ解ス、凡、罪人ヲ刑罰ニ處スルキハ、罪人自ラ其刑罰ノ道義ノ理ニ出ル

所以ヲ識得ス可シ、是ヲ以テ罪人ヲ刑スルキハ、道義ノ理、益、灼然タル
 ニ至ル可シ、是故ニ國家ノ刑罰ハ、決シテ報怨ノ旨ニ出ルニアラス、凡、

報怨ノ旨意ハ、罪人ヲシテ、苦痛ヲ喫セシムルニ在リト雖モ、國家ハ決
 シテ、罪人ヲ苦シメンカ爲メニ、刑ヲ加フルニ非ス、唯其刑ヲ加ヘンカ

爲メニ、苦痛セシムルナリ、報怨ノ爲メニ苦痛ヲ與フルハ、其緩劇輕重、只報怨スル者ノ隨意ニアリテ、絶テ一定ノ限界アルナシ、然ルニ刑罰ハ全ク之ニ反シ、必其罪犯ニ應シテ、大小輕重ノ差ヒアリ、〔按〕以上スタ○法制ハ人ノ善ト惡トヲ問ハス、總テ只其存在ヲ保護ス、故ニ國家ハ決シテ暴惡ノ心ヲ罪セス、唯他人ノ權利ヲ傷害スル暴惡ノ所業ヲ罪スルナリ、〔按〕以上著者ノ論ナリ、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、刑罰ナル者ハ、全ク國法ニ屬スル者ナリ、然ルニ古時羅馬及希臘乙ニ於テハ、罪犯人ヲ罰スルヲ、尙私人ニ縱ルセシカニ、今時ハ全ク此私刑ヲ禁シ、刑罰ノ權ハ舉テ國家ニ歸スルニ至レリ、蓋近今法理ノ開明進歩セシ所以ナリ、其他權利ノ傷害ヲ受ケタル者ノ告訴ニ由テ、始メテ罪犯人ヲ刑スルカ如キモ、亦甚、刑法ノ理ニ戻ルト云フヘシ、罪犯人ヲ逮捕刑罰スルハ、最モ國家ノ公事ナリ、故ニ必、國家自ラ此務ヲ掌ラサル可カラス、○古時日耳曼ノ法ハ、私ニ仇怨ヲ報シ、及ヒ私ニ爭鬪

ヲ生スルヲ許セシカニ、其後佛朗哥王國開明ヲ得ルニ至リテハ、公衆ノ和平ヲ傷ハサランカ爲メニ、必、私訴〔按〕者ヨリ、其旨ヲ法院ニ告訴シテ、罪犯人ヲ罰センヲ爲ス、通則トナセリ、英國ノ刑法ニハ、今時尙此意ノ存スル所アリ、然ルニ歐洲大地各國ノ如キハ、既ニ數百年前ニ於テ、罪犯者ハ官必ス之ヲ追捕スルノ法立テ、〔按〕稱スル官、此事ヲ掌ルナリ、爾來漸シ通則トナルニ至レリ、蓋此法ノ起ルヤ、其始ハ教會ノ力ニ由レル者ニシテ、更ニ前法〔按〕私訴ヲ爲スニ優レル良法ナリ、而シテ其審理ノ法ハ、或ハ、インクイシチオンス、ヘルハイン〔按〕法士獨リ審理ヲ用ヒ、或ハ、アインカラーゲヘルハイン〔按〕審理ノ事ニ加ハルノ法ナリ、亦チ用フ、○但、又時アリテ、自ラ法外ノ處分ヲモ許サ、ル可ラス、例ヘハ、傷婚〔按〕夫アル婦、或ハ、婦アル夫、他ニ犯姦ノ事アルニ方リテハ、夫婦ノ倫ヲ重スルヨリ、法外ノ所業ヲ爲ス〔按〕例ヘハ、夫其婦ノ姦通ヲ見ルハ、私チ以テ姦夫姦或ハ、處分ヲ許シ、〔按〕婦チ殺傷スルニ、殺人ノ罪ヲ以テ之ヲ刑セサルナリ、他人ノ體面ヲ毀損スル等ノ所行ハ、國家ニ取リテハ、甚、小事ト雖モ、毀損

セラレシ當人ノ身上ニ在リテハ、頗ル大事ナルヲ以テ、復^タ法外ノ處分ヲ
 許シ、^{〔按〕}例ヘハ人吾レヲ拳毆スルハ、則^チ吾^レ其他スターツアーンワルト、
 若^シ政令上ノ利害ヲ視察シテ、故^ラニ其告訴ノ特權ヲ施行セサル時ノ如キ、
^{〔按〕}スターツアーンワルトハ、罪犯人ヲ追捕告訴スルノ特權ヲ有スル
 官ナリ、然ルニ若^シ一罪人アルニ方リ、之ヲ追捕告訴スルハ、恐クハ政令
 上ニ害アルヲ思ヒ其追捕告^告亦法外ノ處分ヲ許ス、^{〔按〕}害ヲ受ケタル者、私ニ
 訴^スヲ爲サハルヲ云フナリ、
 私法事務ト刑法事務トハ、自^ラ相離レタルコトナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ
 官吏モ亦、相區分セル國多シ實ニ此二個ノ事務ハ、全ク相殊ナルヲ以テ、
 之ヲ司ル所ノ官吏亦、別個ノ才識ヲ備ヘサル可ラス、例ヘハ訴訟法士^{〔按〕}
 私法事務ノ官ナリ、タル者ハ、私人互相ノ交際ニ於テ、甚^ク錯雜紛亂セル事モ、機敏ノ
 才ヲ以テ、容易ニ辨解シ、至當ニ處決スルヲ得ルノ天稟ヲ具ヘサル可カ
 ラス、然ルニ刑法士タル者ハ、罪犯人ノ心思ヲ洞觀シテ、殊ニ罪犯ノ意ヲ
 究察シ、及^ヒ其罪狀ノ大小輕重ヲ、判別スルノ才識ヲ備ヘサル可ラス、〇私

法事務ニ於テハ、兩造^ハ原告^ハ自己ノ事ヲ爲ステ以テ、憲法
 被^レ告^ノ兩對主^ヲ云、
 許ス所ノ區域内ニ於テ、自由ニ進退スル者ナリ、是故ニ其法士タル者ハ、
 必^ズ公平審明ノ心ヲ以テ、兩造ノ事ヲ判定セサル可ラス、然ルニ刑法ノ事
 務ハ、既ニ罪犯人ノ爲^ニ傷害セラレタル正義公直ノ旨ヲ保護シテ、之ヲ
 追回スルコト、甚^ク緊要ナルカ故ニ、法士及判定者イレル^ルハ、實ニ強盛ナル
 精神力ヲ以テ、審理判定セサル可ラス、

第二款 司法ノ通則、^ゲマイン^ンサー^メ、^グルト^{ント}セツ^ツネ、
^ヒール^ル、^ギー[、]レ^ヒツ^アン^レー^ゲ、

八ノ上一一
 〔第一〕國憲ニ於テ、法院ヲ政府ヨリ岐分シ以テ別個ノ者トナスハ、近今ノ
 要則ニシテ、各國大抵此法ヲ用フ、^卷之^五第^二款、及^ヒ卷^之六、^但シ法院ト政
 府トヲ以テ、全ク離分シ絶ヘテ關係ナキ者トスルハ、甚^ク不可ナリ、何者、國
 家元首ナル者ハ、諸權柄ノ由テ發スル所ノ中心ナルヲ以テ、司法權モ亦
 形貌ニ於テハ、必^ズ此中心ヨリ發出スレハナリ、故ニ法院ハ、政府ヨリ岐分

セル者ト爲ス可シ、決シテ全ク離分セル者ト爲ス可ラス、○法院ハ政府ニリ岐分セシ者ナル故ニ、實事ニ於テハ、必ズ獨立不羈ニシテ、其司法ノ務メニ於テハ、敢テ政府ノ指令ニ從フヲ要セス、○凡ソ國家ノ正義公直ヲ保護スルハ、全ク法士ノ要職須務ニシテ、彼ノ利便ヲ謀リ、有用ヲ濟スカ如キハ、決シテ其職掌ニアラス、故ニ法士タル者ハ、已ムヲ得サルノ事情、及ヒ屢變易スル衆論等ニ著眼スルコトナク、現ニ確定セル憲法ヲ、其職務ノ規矩トシテ、一向之ヲ遵奉スルニアラサレハ、決シテ能ク其職ヲ盡スト云フ可ラス、凡ソ法士タル者ハ、自己ノ椅前ニ出ル者ヲ、貧富強弱等ニ由テ、愛憎好惡スルコトナク、偏ニ公明正大ノ心ヲ以テ、其曲直邪正ヲ裁判スルヲ要ス、然リ而シテ縱令ヒ政府ノ權ト雖モ、敢テ此裁判ニ容喙スル能ハサルナリ、

○葡萄牙ノ國憲第百十八章ニ云、「司法權柄ハ、獨立不羈ナリ、又其第百二十二章ニ云、「法士ハ、罪犯ニ由テ判定ヲ受ルニアラサレハ、決シテ其職ヲ失フコトナカル可シト、○普魯士ノ國憲第八十六章ニ云、「法士ハ國

君ノ名號ヲ以テ、司法權柄ヲ掌握ス、但シ法士ハ、唯憲法ヲ遵奉スルノミ、決シテ他ノ指令ヲ仰ク者ニアラス、又其八十七章ニ云、「法士ハ、國君ノ命ニ由テ、終生間受任セラル、故ニ憲法載定スル所ノ事故ニ由テ、裁判ヲ受クル時ニアラサレハ、決シテ其職ヲ放タレ、或ハ一時其務メヲ停メラル、コトナカル可シト、

上ノ理ヨリ生シタル規律、左ノ數條ニ擧ルカ如シ、

〔甲〕何人ニ論ナク、若シ自己ノ權利ヲ傷害セラレタリト思惟スルキニ於テハ、官ニ請願シテ、之ヲ追回シ得ルノ權アリ、國家民人ノ爲メニ、其私權利ヲ保護スルハ、決シテ偏頗アル可ラス、縱令ヒ微賤ノ民、及ヒ外國人ト雖モ、國家必ズ其權利ヲ保護ス可シ、太古ノ世ニ於テハ、外國人ハ絶テ權利ヲ有セサル者トシテ、國家之レカ保護ヲ爲サ、ルノ法ヲ用ヒ、又中古獨乙ニ於テハ、傷和罪ヲ傷リ、騷亂ヲ醸ス罪ヲ云フ、平和ヲ犯ス者アルキハ、必ズ全ク其權利ヲ褫フヲ以テ、刑罰ト爲セシカモ、方今ニ至テハ、決シテ、此ノ如

キヲ為サス、故ニ人ニシテ全ク權利ヲ有セサル者、絶ヘテ之レアラス、○
 故ニ自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ハ、必ズ之ニ代ハリテ、其權利ヲ看護
 スル者ナカル可ラス、〔按〕幼童、或ハ狂人癡愚等ハ、自己ノ事ヲ了スルニ
 權利ヲ看護ス、故ニ訴訟等、且、審理ノ時ニ於テ、訴訟ノ法式煩シク、及ヒ其費
 ノ一モ亦代者之ヲ司ル、用許多ヲ要スルハ、自ラ貧窮人ノ為メニ、訴訟ノ路ヲ壅閉スルノ患、ア
 ルヲ以テ、官ヨリ貧窮人ニ代リテ、訴訟ノ事ヲ為スヘキ者ヲ命シ、務メテ訴
 訟ノ路ヲ洞開スルヲ佳トス、○但、又訴訟ノ事ヲ好ム徒、動モスレハ詭譎
 ノ術ヲ施スノ恐、少ナカラス、且、又一競主儘許多ノ損失ヲ被ルコアルヲ
 以テ、國家預メ規律ヲ設ケテ、是等ノ害ヲ防制スベシ、例ヘハ保償ノ制度
 カウチオンズ、ノ如キ是ナリ、〔按〕原告人若シ曲ナルキハ、被告人ノ損失
 ステ原告人ヨリ金ヲ出サシムルノ制度ナリ、
 〔乙〕何人ニ論ナシ、其當然ノ法院ニ於テ、審理ヲ受クルノ權アリ、○〔按〕或
 ニ設置スル法士ノ審理、中古日耳曼ニテハ、諸般ノ事ニ於テ、同品位ノ
 ナ受ル等ノ一ナキヲ云、

者、互相交關スルヲ貴フノ風アリシカ故ニ、判定ヲ受ルノ規律モ更ニ綿
 密ニシテ、各人必ズ其夥伴ノ判定ヲ受クルノ法ヲ立テタリ、故ニ古時ノ獨乙
 國法院ライヒスニ於テハ、ヒュルスト〔按〕侯爵ナリ、ハ、必ズ他ノヒュルストノ判定ヲ
 受ケ、レトヘン〔按〕封土ノ事件ニ付テハ、ハ一サル〔按〕封土ヲ受有スル者、ハ、必ズ他ノ
 ハ一サルノ判定ヲ受ケ、並ニシテ、ハ一サル〔按〕一種ニ隨屬セサル徒ニ至テモ
 亦、其夥伴ノ判定ヲ受ケタリ、其他平民ハ、唯其居住スル都市ノ裁判局ニ
 於テ、判定ヲ受ケ、又侯伯ニ屬セル農民ホフヘーリケスラ、尙通例ハ唯其
 君家ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケタリキ、○然ルニ今時ハ品位ニ由テ、此
 ノ如キ區別ヲ爲スコト廢止セシカ故ニ、刑法及ヒ私法ニ於テ、萬民ノ權
 利、總テ皆同一トナリ、且、皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルコトナレリ、凡、此
 ノ如キ變革アリシハ、全ク萬民皆同一ノ權利ヲ貴重スル者ニシテ、實ニ
 近今法理ノ大ニ開明セシ所以ナリ、是故ニ國民ノ品位ヲ論セス、皆同一
 ノ法院ニ於テ、判定スルノ規律ハ、實ニ常法トシテ、遵守セサル可ラス、但シ

今世ハ唯漫ニ此常法ヲ遵守スルヲ責テ、決シテ此常法外ノ規律ノ緊要ナル所以アルヲ知ラス、凡ソ世間ノ諸事件、諸職業ノ中ニ於テハ儘尋常一様ノ理ヲ以テ論ス可ラサル者アリ、而シテ是等ノコトヨリ事ノ生スルコトアルニ至リテ、其曲直邪正ヲ判定スルハ、亦唯是等ノ事ニ能ク練磨セル者ニアラサレハ、決シテ能ハサルナリ、故ニ法院ノ編制ニ就テハ、決シテ此理ヲ忘失ス可ラス、而シテ近今各國共ニ能ク此ノ如キ事ニ就テ判定スル所ノ法院ナカル可ラサル所以ヲ悟リタレハ、必ズ宜シク別種ノ法院ヲ設立シテ、此ノ如キ別種ノ事ヲ判定セシム可シ、但シ別種ノ法院ヲ設置スルカ爲メニ、彼ノ萬民皆同一ノ法院ニ於テ判定スルノ常法、及ヒ萬民皆同一ノ法ヲ以テ判定スルノ規律ヲ傷フカ如キ弊害ヲ生ス可ラス、今上文ニ於テ尋常一様ノ理ヲ以テ論ス可ラサル者アリト云ヒシハ、即チ殊ニ工商諸業ノ關係ヨリ生スル事件等ヲ指スナリ、但シ縱令ヒ是等ノ事件ト雖モ、決シテ悉皆尋常ノ理ヲ以テ論ス可ラストハ爲ス可ラス、

○荷蘭ノ國憲第百五十章ニ云ク何人ニ論ナク、其當然審理ヲ受クヘキ法士ノ審理ヲ受クルヲ妨ケラル、コトナシ、〔按〕一人審理ヲ受ルシテ、之ヲ審理セシムルコトナキナシ、然審理スヘキ法士ヲ闕キ、他ノ法士ヲ

〔丙〕前章ニ論スルカ如キ理アルカ故ニ、乃チ非常法院アウスタームスゲ設置スルノ設置ヲ禁スルノ理、茲ニ於テカ生ス、抑非常法院トハ何ソヤ、即チ預メ司法ノ制度ユスチツツニ載定セシテ、時ニ臨ミ特ニ設置スル所ノ法院ヲ云フナリ、故ニ軍隊ノ爲メニ設置スル所ノ尋常ノ軍陣法院、ゲエーソリ、ヒト、及ヒニスタル等ノ罪科ヲ裁判スルヲ掌ルヘキ國事法院等ノ如キ者ヲ指目スルニハアラス、但シ此等ノ法院モ亦唯一種ノ人品ノ爲メニ設ケ、且臨時ニ其用ヲ爲ス者ナルハ、固ヨリ論ナシト雖モ、必ズ預メ法制ニ於テ確定スル者ナルヲ以テ、其理ハ平常設置スル所ノ法院ト相異ナル所アラサルナリ、○然ルニ常立法院ノ外ニ、之ニ代ハル所ノ一種ノ非常法院ヲ設ケ、以テ常立法院ノ當然掌ルヘキ務メヲ取テ、此非

常法院ニ托スルカ如キハ、全ク禁止セサル可ラス、
 但、唯實ニ已ムヲ得サル時ニ於テノミ、此規律ニ戻レル處置ヲ許ス可シ、
 乃チ已ムヲ得サル時トハ、例ヘハ、第一ニハ、常立法院大イニ嫌疑ヲ受ケテ、
 實ニ司法ノ務メヲ盡ス能ハサルニ至レル時、若シハ常立ノ數法院ニ於
 テ、審問セル數事ヲ、更ニ一法院ニ統合シテ、再ヒ審問スルノ必要トナル
 時ヲ云ヒ、又第二ニハ、國家ニ非常ノ事起リテ、尋常ノ司法ヲ施ス能ハサ
 ルニ至リ、加之、嚴猛ノ威ヲ以テ、神速ニ裁判ヲ施スニアラサレズ、決シテ
 國家全體ノ法制ヲ保護スルニ足ラサル時ヲ云フナリ、○右第一ノ場合
 ニ於テハ、臨時ニ設置セル非常法院ノ職掌、權利、及ヒ裁判ノ規律共ニ、全
 ク常立法院ニ同シカル可シ、且、非常ト云ヘル稱ハ、唯外貌上ノミニシテ、
 其實ハ全ク常立法院ニ異ナルコトナク、且、非常法院ヲシテ、全ク司法規律
 ナ遵守シテ、決シテ嚴猛ノ威力ヲ施サ、ラシムルニ足ルヘキ法アルヲ
 要ス、然ルニ第二ノ場合ニ於テハ、大イニ常規律ニ戻レル處置ヲ以テ緊要

トナス、凡ソ戰爭或ハ叛亂アル時ニ於テハ、スタンドレヒト
 〔按〕國家危難ノ時ニ於テ用フル、
 嚴猛ノ裁判ヲ告示シテ、之ヲ用フルニアラサレハ、決シテ國家ノ危難ヲ救フニ
 足ラス、故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、故ラニ臨時ニ設置スル軍陣法院、及其他
 ノ非常法院ニ、嚴猛ノ威力ヲ附托シテ、平日ハ決シテ罪スルニ抵ラサル
 所業ト、雖モ、其時ニ方テ、妨害トナル可キ者ハ、悉ク之ヲ罪シ、或ハ平常ニ
 リ更ニ嚴刻ナル刑法ヲ施用セシム可シ、且、平常ノ裁判ニ於テハ、大イニ法
 士ノ粗漏ヲ防キ、且、對手〔按〕罪犯ヲ告訴セ
 ナ保護シテ、之ヲシテ冤罪ヲ受
 ケサラシメンカ爲、ニ設ケタル、數種ノ規律アリト雖モ、此非常法院ニ於
 テハ、之ヲ廢止シ、而シテ務メテ審問判定ノ迅速ナルヲ要スルモ、決シテ
 妨ケナシトス、○但、此非常法ヲ許スヤ、唯實ニ國家ノ危難アル時、及ヒ其未
 マ鎮定セサル時ニ限ル可シ、決シテ其他ノ時ニ於テ、之ヲ用フルヲ許サ
 ス、且、縱令此ノ如キ時ト雖モ、是ニ由テ、決シテ國家ノ正義公直ノ本旨ヲ
 害スルヲ許サス、是故ニ左ニ擧ル所ノ數件ハ、必ズ之ヲ確守セサル可ラス、即チ第

一ニハ、將ニ罪セントスル人ヲシテ、敢テ自ラ防護スルヲ得セシムルヲ、
 「按」冤罪ヲ辨解 第二ニハ、之ヲ判定スルニ、判定ノ本意ヲ失ヒ、遂ニ國家
 ノ意思ヲ述告スルカ、如キニ至ラサルヲ、即チ司法ノ規律ヲ確守スルヲ、
 「按」判定ハ偏ニ憲法ニ依テ施スヘキ者ニシテ、決シテ、及ヒ第三ニハ、罪ノ
 國家ノ意思ニ由ル者ニアラス、故ニ此ノ如ク云フナリ、
 疑ハシク、未タ其確證ヲ得サル者ハ、決シテ罪ス可ラサルヲ等ナリ、
 「第二」古時ハ總テ公衆ニ係レル事ヲ公然ニ處分スルヲ、今時ニ比スルニ
 復カニ卓越シタルハ、當時司法ノ務メヲ掌ルヲノ公然ナリシモ、敢テ異シム
 ニ足ラス、既ニ羅馬ノ法士ハ、寬平ナル市街ニ於テ、高座ヲ占メ、審理ノ事
 ナ掌リ、又獨乙ノ法士ハ、菩提樹及ヒ橡樹ノ下ニ露坐シテ、獄訟ヲ掌リ、而シ
 テ唯晝間ノミ之ニ從事シタリキ、其他又ビツァンツ國「按」東羅馬
 リケン「按」法院モ亦嘗テ其官署ヲ鎖閉スルヲナカリキ、
 然ルニ第十五世期、及ヒ第十六世期ノ頃ニ至リ、始メテ法院ノ官署ヲ鎖閉シ
 テ、隱密ニ審理ヲ施スノ風起リ、漸ク各國ニ蔓延セリ、蓋シ此風起ル所ノ因由、

數種アリト雖モ、就中第一ニハ、教會ニ於テ、教旨ヲ信セサル徒ヲ懲戒ス
 ル嚴法ニ倣ヒ、查問ノ時ニ方リテ、罪人ノ心思ヲ究鞠スルニ例ヘハ、猛獸
 ナ其潛伏セル巖洞ニ索メテ、竊ガニ之ヲ捕獲スルヲ如キ詐術ヲ用ヒシニ
 由リ、第二ニハ、羅馬ノ法學ヲ取リシヨリ、殊ニ私法事務ニ於テハ、專ラ實
 況ニ著眼ズルヲナシ、唯書籍上ノ學習ニ勉勵スルヲ、主トスルノ風習ヲ
 生セシニ由リ、第三ニハ、國民ノ國事ニ關スルノ權、大ニ衰殘セシニ由リ、
 第四ニハ、時勢君主專權ノ政、漸ク行ハレシニ由テ、今ノ勢ニ至レリ、
 然ルニ輓近ニ至リ、各國皆司法ヲ公然ヲ復舊スルヲトナシ、去レト既ニ
 古時ノ公然法ヲ視テ、其利弊ノアル所ヲ窮メシカ故ニ、只古時ノ如ク、漫
 ニ公然ヲ要ムルニアラス、必ス條理ニ由テ之ヲ索メタリ、○司法ノ務メハ、
 實ニ公然法ノ光線ヲ得ルニアラサレハ、決シテ生長スル能ハス、
 「按」比
 ナ以、且ツ又決シテ公衆ノ信ヲ取ル能ハス、○凡ソ人ノ心思、及ヒ冥々不死ノ
 テス、精神ヲ究追スルカ如キハ、決シテ國家ノ掌ルヘキ所ニアラス、精神動テ外

貌ニ發シ、惡所業トナリ、以テ國家ノ法制ヲ傷害スルニ至リテ、始メテ國家ノ當ニ關スヘキ者トナルナリ、是故ニ國家ハ、敢テ精神ノ秘蘊ヲ究追スルノ權ヲ有セス、人ノ精神ニ就テ審判スル者ハ、獨リ天神ノミ、唯精神動イテ外貌ノ所業トナルニ至リ、始テ國家憲法ノ區域ニ屬スルナリ、

○荷蘭ノ國憲第百五十五章ニ云、「法院ノ事務ハ、宜シク公然ナル可シ、

但シ若シ公然ニナスルハ、之ニ由テ、公衆ノ秩序禮義ヲ害スルノ恐レアルルニ於テ、已ムヲ得ズ、法院ノ館舎ヲ銷閉スルカ如キハ、必憲法ニ從テ、之ヲ定決ス可シト、

但シ公然ト云フコトニ數意アリ、就中兩造及罪狀ヲ告訴セラレタル者ニ對シ、司法ノ公然ニシテ、敢テ隱秘スルコトナキハ、殊ニ緊須ナルコトナリ、私法事務ニ於テハ、兩造互ニ訴訟ノ情由、其答辭ノ旨趣、及其證左ノ事由等ヲ、十分ニ究追詳悉シ、而シテ又自己ノ所業ニ於テ、過失ナキノ確證アレハ、則チ公然之ヲ法士ニ對シ、演述スルモ自由ナル可ク、并ニ其事ニ就テ、法院ノ

裁判如何、及之ヲ裁判スル所以ノ原由如何ヲ、聽取スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、又刑法事務ニ於テハ、罪狀ヲ告訴セラレタル者ト雖モ、尙此權利ヲ有スルコト當然ナリ、凡シ是等ノ公然ヲ障碍スル處分ハ、即チ人ノ正義公直ヲ掩翳スル所ノ蔭影ト云フ可シ、○兩造或ハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ勿論、其他國民一般ニ司法ノ公平正直ナル所以ヲ信スルニ至ルハ、殊ニ此ノ公然法ノ在ルアルニ由テナリ、〔按〕本文論スル所即又唯法ノ處分ニ由テ、自ラ其利害ヲ受ル徒、即チ一般ノ民人ハ、訴訟ト雖モ、之ニ就テ善ノ處分ヲ爲スルハ、即チ能ク國家ノ正義公直ヲ保護スルカ故ニ、是ニ由テ、一般民人、自ラ利害ヲ蒙リ、又若シ邪惡ノ處分ヲ爲スルハ、即チ正義公直ヲ傷害スルカ故ニ、是ニ由テ、一般民人、自ラ害ヲ蒙ルノ理ナリ、故ニ法院ノ處分ハ、悉ク一般民人ノ利害ニ關スルナリ、蓋シ和漢人未ダ曾テ此理ヲ悟ラズ、ニ對シ、司法ノ公然ナルハ、即チ第二意ノ公然ト稱ス可クシテ、第一意ノ公然ニ比スレハ、則チ其緊須ナルコトモ亦更ニ少シ、去レテ此公然アルルハ、自ラ第一意ノ公然廢墜スルニ至ルヲ防クニ足リ、且ッ公衆ノ眼目、自ラ司法ノ善惡ヲ注視スルニ足ルノ利アルカ故ニ、此公然ノ法亦、決シテ廢ス可

ラス、○刑法事務ニ於テハ、此公然ノ法最モ利アリト云フ可シ、何者、刑法事務ノ當否ハ、殊ニ公衆ノ利害ニ關係アレハナリ、但シ私法事務ニ於テハ、此公然法ノ利タル、刑法事務ニ於ケルヨリモ更ニ少シ、蓋シ訴訟ノ事ハ、通例只兩造ノ利害ニ關係アリテ、公衆ノ利害ニ關係アルコト少ナケレハナリ、是故ニ私法事務ニ於テ、公然ノ法、若シ兩造ノ利トナラス、却テ害トナル歟、若クハ此法ヲ用フルカ爲メニ、却テ禮儀亂ル、ノ恐レアルキハ、必ズ法外ノ處分ヲ爲サ、ル可ラス、〔按〕即公然ノ法ヲ用ヒス、人ナシテ、聽聞スルヲ得サラシムルナリ、加之、刑法事務ニ於テスラ、尙公衆ノ聽聞ヲ許スノ法ヲ以テ、決シテ動カス可ラサル嚴法トハ爲ス可ラス、唯容易ニ此法ヲ動カシテ、敢テ公衆ノ聽聞ヲ禁セサルノミ、○公然ノ法ヲ用フルカ爲メニ、時アリテハ、罪過ヲ告訴セラレタル者ノ黨與、或ハ妄リニ其罪過有無ノ證左ヲ論シテ、之ヲ抗辨スルニ至ルカ如キ弊害アリ、此事大ニ正義公直ノ旨ヲ傷害シ、判定官ヲ輕蔑シ、及ヒ刑法ノ威權ヲ侮慢スルノ所行ト云フ可シ、去レヒ此弊害ハ、決シテ司法ノ

公然法アルヨリシテ生スルニアラス、法士ノ膽力脆弱ニシテ、且ツ自ラ其職掌權利ノ尊重ナル所以ヲ悟ラサルカ爲メ、遂ニ此輕侮ヲ來タスナリ、然ルニ儘又司法ノ商議ヲリヒツベニ至リテ、毫モ隱秘セサルノ法ヲ立テシ國アルニ、此法却テ宜シキヲ得ル者ト云フニ足ラス、總テ司法ノ處分〔按〕即查詢判ナル者ハ、必ズ公然明白ナルヲ要スト、雖ヒ未タ此處分ニ及ハサル以前、施ス處ノ商議ニ至リテハ、決シテ然ラス、凡ソ人悠閑ニ事ヲ商量スルキハ、其思考モ自在ナルヲ以テ、自ラ亦明案ヲ得易ク、且ツ自己ノ論ヲ、未ダ公然ト、大衆ニ告諭セサル間ハ、自己ノ謬見ヲ棄テ、他人ノ卓見ニ從フコトモ、自ラ爲シ易キノ理ナリ、

〔第三〕司法公然ノ理ト、密ニ吻合スル者ハ、即チ口述〔按〕問答等、總テ口述ヲ以テスルヲ云、法ナリ、凡ソ口述ノ甚ダ良法ナル所以ハ、此法ヲ用フルキハ、則法院ト兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者トノ間、親近ニシテ、互相ノ情實、如意貫徹スルニ在リ、且ツ之ニ由テ、其情由ヲ察

鑿スルヲモ、自ラ易ク判定ノ公正ナル所以モ自ラ一般ノ依信ヲ與スニ
 足リ、及ヒ司法ノ務メ、益、民人ノ性情ニ適スルニ至ル可シ、然ルニ口述ノ
 法ヲ用ヒスシテ、筆述シリヒト〔按〕法院ト兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラ
 文書ヲ以テスノ法ヲ用フルキハ、法院ト兩造若クハ罪狀ヲ訴ヘラレタ
 ル者ト、直ニ相接セサルカ故ニ、其情實多クハ文墨ノ間ニ隱晦シテ、殆ト相
 通セサルニ至ル、是ニ於テ、兩造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者、暗ニ想
 フ、法士實ニ我カ告述セシ意ヲ能ク了解シタルヤ、恥ヲ知ラサル狡猾ノ
 徒、其間ニ在リ、夫カ爲ニ法士或ハ欺罔セラル、コトナキヤ、或ハ實ニ其職
 掌ヲ盡スヤ否ト、是ニ於テ大ニ疑團ヲ生スルコトアリ、法士屢、公衆ノ信ヲ
 失フコトアルハ、蓋、是等ニ由テナリ、○其他法士動モスレハ、其文書ニ法科
 ノ言辭ヲ用ヒテ、巧ミニ舞文辨論シ、以テ其學識ヲ誇ルコトアルカ故ニ、兩
 造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ、却テ其事理ヲ了解スル能ハサル
 ノ弊害アリ、是ニ於テ、法ニ關スルコト會得シテ、能ク之ヲ遵奉スル者ハ、

獨、博識ノ學士ノミナルニ至レリ、但、審理ノ歸結〔按〕即、判及費用簿〔按〕審
 二要セル費用ノ如キハ、記スルニ平常ノ言辭ヲ以テスルカ故ニ、兩造
 及、罪狀ヲ告訴セラレタル者モ、通例解シ得可シト雖モ、其他總テ審理ノ
 事、及ヒ判定ノ由テ出ル所以ノ理ノ如キニ至リテハ、縱令、詳細ノ文書ヲ
 與ヘテ、看讀セシムルモ、此輩決シテ辨解スル能ハス、譬ヘハ唯審理ノ歸
 結、及ヒ費用シノノミ、兩造及、罪狀ヲ告訴セラレタル者ノ宜シク知ルヘキ
 者ニシテ、其他總テ審理ノ由、及ヒ判定ノ由テ出ル所以ノ理ニ至リテハ、絶
 ヘテ兩造等ニ關係ナク、空シクアトシワルト、〔按〕兩造等ニ代リ、及ヒ法士
 ノ學習上ニ係レルコトノ如シ、勢ヒ此ノ如クナルキニ至リテハ、總テ法制
 ニ屬セルコトハ、全ク學者ノ關スル所ニシテ、一般民人ノ爲メニハ、無用ノ者
 タルカ如ク然リ、○熟、今古ヲ歴覽スルニ、方今文明開化進ミシ以來、法學
 ノ術タル、古時ノ簡易ナル如キ能ハサルカ故ニ、民人一般之ニ通曉スル
 ヲ得サルヨリ、自ラ上文ノ如キ形勢ニ至レリ、抑、方今ノ勢ハ、先、積年ノ學

習練磨ヲ經ルニ非サレハ、決シテ法學ヲ通曉スル能ハス、又實ニ法學ニ通曉セル法士ニ非サレハ、決シテ法學ヲ實地ニ用フル能ハス、故ニ未ダ會テ法學ニ從事セサル者ハ、絶テ法ヲ論スル能ハサルハ、固ヨリ當サニ然ル可シ、然リト雖モ、斯ク法學ヲ練磨セシ法士タル者ハ、能ク不學無智ノ徒ニ諭シテ、審理ノ次第、及、判定ノ理等ヲ詳ニ了解セシムルノ方法ヲ用フルコト、最モ緊要ナリ、而シテ此方法ヲ撰ハント欲セハ、口述ヲ以テ審理スルノ法ヲ用フルニ如クナシ、蓋シ口述ノ法ハ、法士ト兩造等トノ際、相近クシテ、其情實意ノ如ク貫徹スレハナリ、是故ニ口述ノ法ハ實ニ審理ノ良法ト云フ可クシテ、諸種ノ法院ニ通シテ、適應スル所ノ要則ナリ、去レテ全ク之ニ偏倚スルハ、甚ク可ナラス、何者、時アリテハ、筆述ノ法、却テ口述ノ失ヲ補フノ利アレハナリ、凡、筆記セルコトハ、口述ニ比スレハ、更ニ確實ナルカ故ニ、口實ヲ以テスルキハ、或ハ粗漏ニ聽過シ、又ハ容易ニ忘失スルコトアルモ、若シ筆記ヲ以テスルキハ、之ヲ讀ムコト自ラ丁寧ナルカ故ニ、其事理

ヲ確切ニ了悟シ得可ク、又辨論者モ、口述ヲ以テスレハ、其辭氣ノ間、或ハ粗言謬語等アルヲ免レヌト雖モ、筆記ヲ以テスルキハ、必、熟慮シテ敷陳スルカ故ニ、其事理自ラ確切著實トナルノ益アリ、○方今人世諸般ノ事、頗ル精密ニ陟レル世ニ在リテハ、筆述書記ノコトハ、辨駁論說ニ於テ、實ニ緊要ナル者ナレハ、若シ司法ニ於テ、全ク之ヲ廢セント欲セハ、其害殆ト少ナカラサル可シ、是故ニ時アリ、筆述ノ法緊要ナル時ニ於テハ、常法外ノ處置ヲ以テ之ヲ併用セサル可ラス、例ヘハ訴訟及ヒ治罪ノ事ニ於テ、若シ爭論ノ決シ難キニ遇ヒ、互ヒニ綿密ニ辨論スルヲ要スル時ノ如シ、

〔第四〕又法院判定ヲナスニ方リ、其判定セシ所以ノ理趣ヲモ、兼テ告示スルノ法ハ、近今各國ノ國憲上定ムル所ニシテ、實ニ近今法理頗ル開明セル世ニ適應スル者ト云フ可シ、蓋シ此法ノ利タルヤ、法院ヲシテ、正義公直ノ旨ヲ務ムル所以ヲ、自己ニ對シ、并ニ兩造等ニ對シ、及ヒ一般國民ニ對シテ、明カニ保證セシムルニ足リ、併シテ專恣妄行ヲ爲サ、ラシムルニ

利ヲ確定スルカ爲ニ施ス者ナレハナリ、例ヘハタイプツフトノ契約〔按〕
婦其夫ノ所有ノ數分ヲ得及ヒデークムニスノ定立〔按〕私人ノ所有物
ヲ終生間受有スルノ契約、
シテ他ニ賣買授與ス可ラ
サル部分ヲ定立スルヲ云等ニ就テ、其可否ヲ考察シ、及ヒ許可スルヲ云
フナリ、

〔第二〕私法軍務ハ、争訟ヲ生シタル兩造〔按〕原告被告

兩造ノ爲ニ施ス者ナルヲ以テ、私判ノ法ノ請願ニ由テ、全ク
ニ一人ヲ撰ヒ、以テ、其ヲ用ユルモ、固ヨリ當然ニシテ、決シテ妨ケナシト
ス、國家ナル者ハ、私人ノ際ニ生セル争論ノ判定ヲ願欲スルノ理ハ、絶ヘ
テアル可ラス、若シ兩造ノ際ニ生シタル争論、國家ノ判定ヲ俟タスシテ、私
ニ止息スルヲアレハ、却テ國家ノ爲メ、利トスル所ナリ、是故ニ法院タル
者、私判者ヒテ、リノ判定ヲ如忌シテ、自ラ此事務ヲ執ラント欲スルノ
理モ、亦決シテアル可ラス、加之、法院ハ、私判者ノ判定ヲ幫助スルヲ良好
トス、

但シ私判ノ法ニ於テ、曲トナレル者、若シ其判定ニ服セサルヲアルハ、官吏
ナラサル私判者ハ、強ヒテ曲者ヲシテ、其判定ニ服セシムルノ權ナシ、是故
ニ此ノ如キ時ニ於テハ、直ヲ得タル者ハ、必ス常法院ニ、其保護ヲ請願セサ
ル可ラス、何者、眞ニ司法ノ權ヲ有スル者ハ、獨リ常法院ノミナレハナリ、
○但シ縱令ヒ勢ヒ此ノ如クナルト雖モ、私判ヲ以テ、全ク無益ト爲ス可ラス、
凡ソ兩造ナル者、判定ノ權ヲ以テ、實ニ此私判者ニ委託セシキニ、私判ノ法
宜シキヲ得、其判定ノ體裁明白ニシテ、且、其事理決シテ一般ノ信ヲ失フ
コナケレハ、常法院ハ、必ス此判者ヲ保護シテ、其判定ヲ遂ケシム可シ、決シ
テ従前ノ處分ヲ全廢シテ、更ニ改判セシム可ラス、

〔第三〕私判ヲ許スノ制度ト相類スル者ハ、即チ解勸法
制度ナリ、解勸法トハ、通例未ダ審理ヲ施サ、ルニ方リテ、先、兩造ノ中間ニ
入リテ、其解勸ヲ施スヲ云フナリ、其制度、宜シキヲ得ルハ、民人ノ爲メニ
頗ル仁善ノ功アリ、彼、ヤセムル瘦瘠セル解勸マトゲルルグライセ、コエタルハ、肥大ナル審理ル、ヘツテア

ス、^{ロツエ}ニ優レリ」云ヘル諺ハ、眞ニ確言ト云フ可シ、凡ソ何人ニ論ナシ、其當
 然ノ權利ハ、縱令些少ノ部分タリト、失墜シテ可ナルノ理ナキハ、固ヨリ
 辨テ俟タス、去レテ國家タル者、臣民互相ノ爭論ニ就テ、力ノ及フ限りハ、解
 勸シテ互ヒニ和熟セシメ、^コヲ務ムルノ權ヲ握ルモ、亦決シテ不可ト
 ス可ラス、但シ若シ之ニ由テ或ハ臣民ノ權利ヲ害スルカ如キ^コアルハ、甚ダ不
 可ナレハ、宜シク謹テ處置セサル可ラス、○若シ解勸ニ由テ、幸ニ和熟整フ
^コアルキハ、其功績或ハ廣博ナル學識ヲ以テ施セル審理ノ功績ト、全ク
 相合セサル^コナキニシモアラサレト、去レテ決シテ臣民ノ權利ヲ害スル
 不條理ノ處分トナルノ恐レアラサス、其他兩造若シ眞ノ審理ヲ受ルキハ、
 各苦慮ヲ生スル少ナカラス、動モスレハ、互ヒニ不快ノ情ヲ含ムニ至リ、且
 兩造ノ費用ヲ要スル、亦許多ナルニ至ル等ノ弊害ナキ能ハスト雖モ、解
 勸法ニ於テハ、是等ノ患自ラ生セス、且、兩造相和熟シテ互相ノ權利ヲ回
 復スルニ至リ、及ヒ法院ノ費用モ、亦甚ダ許多ヲ要セサル等ノ利アリ、

若シ解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルキハ、其審理法ニ由テ、兩造相爭フ
 所以ノ原由、及ヒ其爭論ノ情實ヲ詳ニスルヲ得ルノ利少ナカラス、去レテ此利
 ハ、決シテ此制度〔按〕解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルノ制度ヲ云、ニ固有セル害ニ勝ツ能ハス、
 何者、別ニ專ラ解勸ヲ掌ルヘキ法士ヲ置テ、其事ニ從ハシムルキハ、前條
 ニ論シタルカ如キ數弊害生スル^コナシト雖モ、若シ此制度ヲ用フルキハ、
 數弊害過半生ス可ケレバナリ、○若シ法院審理ヲ以テ、解勸ノ處分ヲ施ス
 キハ、勢ヒ自ラ兩造和熟シ難キニ至リ、加之、其審理ノ時間ニ於テ、互相ノ忿
 懣愈積重シ、且、費用愈増加スルニ隨テ、互ヒニ和熟スルノ心愈減シ、却テ
 愈相爭ハントスルノ情ヲ増スニ至ル、但シ時アリテ審理ノ時日甚久シキ
 キハ、兩造相抗スルノ氣力倦怠疲老シテ、遂ニ其爭論ヲ止ムルニ至ル^コ
 アリ、是レ即チ互相ノ倦怠ニ由テ、其論ヲ止ムル者ニシテ、決シテ之ヲ以テ眞
 ノ和熟ト爲ス可ラス、○法士ノ本務ハ、決シテ解勸ノ處置ヲ施スニアラ
 ス、唯法ノ當否ニ由テ、之ヲ判定スルニ在リ、是故ニ法士若シ務メテ解勸ヲ

施サント欲スルルハ、兩造遂ニ法院ノ實ニ正義公直ノ旨ヲ守ルヤ否ヲ疑フニ至ルハ、必然ナリ、

是ヲ以テ別ニ解勸法士フリーデンスリヒテルナル者ヲ設置シテ、專ラ解勸ニ從事セシム、而シテ此法士ハ、兩造ノ中ニ立テ、法ニ由テ判定スルヲナシ、唯專ラ兩造ヲ解勸スルヲ掌ルノミ、凡、此法士ハ、初メ佛國ニ於テ設置シ、其後殊ニ瑞士並ニ獨乙數國及葡葡牙ニ於テモ、亦皆此官ヲ設置セリ、去レヒ猶其制度ヲ改革スルヲ緊要ナリ、凡、今時ノ制ノ如ク、法院ノ下等ニ列シテ、俸祿ヲ受クル官吏ニ、此職掌ヲ與フルルハ、未タ全ク其務メヲ盡スニ足ラス、是故ニ民間ニ在リテ、能ク人精世態ニ老練スル者、若クハ門閥卓越スルカ爲、ニ、大ニ一般ノ尊崇信仰ヲ受ケ、而シテ自ラ眞ノ官吏タルヲ欲セス、唯好テ解勸等ノヲ自任スル徒ニ、此職掌ヲ托スレハ、其功績頗ル大ナル可シ、○方今ノ貴族ト雖モ若シ解勸法士ノ職ヲ托シ、其意見ニ從テ、自由ニ其事ニ從ハシムレハ、大ニ民情ニ適應スル處分ヲ爲スニ足ル可シ、

〔第四〕私法法士〔接〕又訴訟ノ編制ハ、各國各世皆相異ナリ、亞細亞各國ノ如キ、君主擅制ノ國ト譯ス、デスボチセ、ニ於テハ、皆專任法士ノ制アインツェルリラ一人ノ法士ニ全ク用フ、而シテ此法士ハ、君主ニ代ハリテ、司法ノ全權ヲ權ヲ委スルヲ云、掌握スル者ナリ、凡、此制ハ、一人ノ法士全權ヲ掌握スルカ故ニ、能ク神速ニ諸般ノ爭訟ヲ判決スルノ利アリ、去レヒ其權甚々強大ニ至リ易キカ故ニ、動モスレハ、司法ノ本意ニ戻リ、私意ヲ挿ミ、遂ニ正義公直ノ旨ヲ害スルニ至ルノ恐レ少ナカラス、是ヲ以テ、自由ノ權ヲ貴重スル歐羅巴各國ニ於テハ、多クハ此制ヲ廢止セリ、但、儘之ヲ用フル國アレヒ、甚々罕レニ用フルヲ許シ、且、大ニ其權ヲ限制スルノ規律ヲ立テタリ、

歐羅巴大地各國ニ於テハ、第十五世期以來、專ラ合議法士ノ制リヒテル行ハレ、數員ノ法士、相共ニ法ヲ施用シ、併セテ判定ヲ掌ルヲトナレリ、但、其人員ノ多少ハ、各國古今ノ沿革、及、方今ノ情實ニ由テ、相同シカラズ、而シテ其授任ニ至リテハ、君主國ニ於テハ、國家元首之ヲ選任シ、民主國ニ

於テハ、同僚モ亦之ヲ選舉ス、〔按〕民主國ト雖モ、統領、○或ハ獨リ法學者ノ
ミチ舉テ、法士ト爲ス國アリ或ハ、法學者ノ外ニ、猶未ダ曾テ法學ヲ研究
セサル貴族、都人、及農民ヲモ共ニ、法士ニ選任スル國アリ、而シテ是等ノ諸
法士モ亦、通例眞ノ法官ニ列ス、

此合議法士ノ制ヲ以テ、專任法士ノ制ト比較スルキハ、合議法士ノ制、遠
ク專任法士ノ制ニ優ルヲ知ル可シ、何者、合議法士ノ制ヲ用ルキハ、各員
互ヒニ其處分ノ善惡可否ヲ監視シ、且互ヒニ自己ノ所見ヲ述告シテ、相
補助スルカ故ニ、自ラ其處分ニ私意ヲ插ムカ如キ患ヒナク、皆偏ニ法ヲ
遵守スルニ至リ、是故ニ兩造モ亦全ク其處分ヲ信シテ、決シテ疑ハサル
ノ大利アレハナリ、其他各員法學ノ研究、并ニ日常相共ニスル所ノ奉務
ニ由テ、互ヒニ相匡翼佐佑セント欲スルノ情、益、深厚トナルハ、敢テ疑フ
可ラサル所ナリ、○近今歐羅巴各國ノ法士ハ、皆自ラ法官タル職掌ノ甚
ク尊貴ナルヲ知ルカ故ニ、敬テ自重スルノ心アラサルハナシ、是ヲ以テ

皆能ク正善ノ道ヲ守リテ、敢テ之ニ背カント欲スル者殆ト希レナリ、蓋
シ此自重ノ心ハ、從來ノ遺物ナリ、宜シク心ヲ用ヒテ、永ク之ヲ保全ス可
シ、

合議法士ヲ置クノ制ト專任法士ヲ置クノ制ト、其優劣此ノ如シト雖モ、
合議法士ノ制ニモ亦數弊害ノ加ハルヲ免レズ、故ニ大ニ此制ヲ改革ス
ルニアラサレハ、其制殆ト除去ス可ラス、凡、司法ニ於テ、判定ト、眞ノ司法
〔按〕法ノトハ、素ト相殊ナル職掌ナレハ、宜シク各殊ノ人品アリテ、各個
ニ從事ス可キカ如クナルニ、方今ハ此理ニ由ラス、異殊ノ二職掌ヲ把テ、
同一ノ人品ニ委託ス、元來眞ノ司法ハ、實ニ國家制馭權ノ一ナルヲ以テ、
必、官吏ノ掌ルコト當然ナリト雖モ、判定ノコトニ至テハ、決シテ國家ノ權柄
ニ屬スル者ニアラサレハ、私人ニ委託スルモ妨、ナシ、然ルニ尙、二個ノ職
掌共ニ、必、一個ノ官吏ニ委ヌルカ故ニ、司法者〔按〕茲ニ司法ト云フハ、右
タル者ハ、必、皆官吏ノ列ニアラサルハナシ、○若シ唯法學者ノミチ以テ、此

二箇ノ職掌ヲ兼攝セル合議法士ヲ設クルハ、法士タル者動モスレハ、唯學問上ノ理ニ泥ミ以テ法ヲ論スルカ故ニ、民人容易ニ之ヲ了解スル能ハス、且法學者流ハ、日々變遷スル所ノ情態世故ノ景況中ニ、法ノ淵源トナルヘキ實境アルヲ悟リ得サル者多キヲ以テ、其處分、全ク實際ノ景況ト合スル能ハサルノ害アリ、〔按〕法士ハ偏ニ法ヲ遵守シテ、其職ヲ盡シテ、其職ヲ盡スヘキ者ニアラサルハ、前數卷ニ於テ屢論スルカ如シ、應ニ今日ノ景況ヲ洞察スル才力アラサルハ、動モスレハ、大ニ其審理ヲ誤ルノ恐レ少カラズ、故又若シ法士ヲシテ、民人一般ニ辨識シ易キ處分ヲ爲サシメント欲シテ、法學者ト、及ヒ未ダ曾テ法學ヲ知ラサル者ト混合シテ、合議法士ヲ設クルハ、徒ラニ有名無實ニ陥リ、絶ヘテ、其功績ヲ見ス、加之、不學ノ法士ハ、自己ノ技能、遠ク法學ニ熟達セル法士ニ及ハサルヲ愧ツルカ故、徒ラニ之ヲ摸擬スルノミナラズ、務テ體裁上ニ於テ、其右ニ出ントヲ求ルニ至ルノ弊アリ、總テ此ノ如ク其任ニ適セサル者ヲ舉テ、法士ト爲スハ、實ニ實法ニ益ナキノミナラス、恐クハ之ヲ害スル少カラズ、

○且、此ノ如ク唯官吏ノミナ合シテ、合議法士ヲ設クルハ、遂ニ法士ノ辭却ルヲサナオン、デル、リヒテ、〔按〕兩造ノ一人、若シ吾カ判定ヲ受ク請フヲ辭却チ爲スト、自ラ行レ難ク、且ツ大ニ限制セラル、勢ニ陥ルナリ、〔按〕判定者皆官吏ナルハ、其威權自ラ強盛ナルカ故ニ、民人且、私法事務ノ要則トスルハ、素ト兩造ノ信仰ヲ兼得タル者ニアラサレハ、決シテ判定セシム可ラサルノ規律ナルニ、〔羅馬國ニテハ、最モ此規律ヲ貴重シタリ、〕法士辭却ノ法行ハレ難キハ、此規律モ亦、自ラ全キヲ得サルニ至ル可シ、○其他合議法士ヲ設クルハ、官吏ノ人員甚、許多ヲ要シ、司法ノ職掌適度ヲ失シ、法士ノ俸給、其品位ニ應シテ十分ヲ與フルヲ難ク、及ヒ國家ノ費用ハ、頗ル巨大トナル等ノ數患アリ、

〔第五〕前條論スルカ如キ理アルヲ以テ、古時司法ニ就テ、良好ノ制度ヲ設立スルヲニ練熟セシ國ニ於テハ、右司法ノ職掌ヲ區分セシ〔按〕判定トシテ區分セ、外ニ猶之ニ從事スヘキ人品ヲモ、區分シタリキ、而シテ仍今時ニ

於テモ、稍此區分ヲ存スル國アリ、宜シク注意スヘキ所ナリ、
 [甲]古時羅馬ニ於テハ、審理ヲ二分シ、而シテ其一ハ法ヲ施用スル務トシテ、
 之ヲ國民ノ撰擇セルマギストラート〔按〕長官トニ委テ、其二ハ判定ス
 ル務トシテ、之ヲマギストラートヨリ判定ノ任ヲ受ケタル判定者ニ托
 シタリ、但シ此判定者ハ、私人ニシテ、官吏ニ列スル者ニハアラサリキ、○マ
 ギストラートハ、唯一人ニシテ、其威權頗ル強大ナリキ、但シ又此威權ヲ限
 制シテ、其專恣ニ至ルヲ防止セシ者數種アリ、即チ道義ノ心、從來ノ教令、在
 職年限ノ短小、及ヒ審理ノ區分等是レナリ、又判定者モ通例ハ一人ナリシカ
 耳、儘數員ヲ置キシコアリ、加之、センツムヒテールグリヒト〔按〕百人餘
 備ヘシニ於テハ、頗ル許多ノ判定者ヲ置テ、合議セシメタリ、○マギスト
 ラートハ、法問レヒツフラーゲ〔按〕某ノ處分ニハ、何ノ法ヲ
 施用シテ可ナルヘキヤ、ト云フノ問題ヲ云、チ判決スル
 ノ務ヲ負ヒ、又ユデキス〔接〕即チ判定
 者ヲ云フ歟、ハ、事問
 實顛末等、如何ノ問題ヲ云、虚ヲ判
 決スルノ務ヲ負ヘリト云フ説ハ、甚々當ラス、ユデキスハ、審ニ審理ニ由テ、事

ノ虚實、及ヒ顛末等ヲ探索シテ、之ヲ證スルノ務ヲ負フノミニ止マラス、猶
 且ツ法問ヲモ判決シテ、其當ルヘキ法ヲ示定スルノ務ヲ負フタリキ、○但
 マギストラート、及ヒユデキス等モ、殆判定スル能ハサル難件アルニ方リ
 テハ、法學者ノ論ヲ聽テ、處分スルコアリキ、蓋シマギストラートユデキス
 共ニ、必^ズシモ法學ニ練熟セル者ニアラサルヲ以テナリ、去レモ法學者ノ
 論ヲ聽クハ、必^ズ之ニ由テ、處決セサル可ラスト云フノ制度ハ、絶ヘテア
 ラサリキ、但シ又マギストラートハ、預メ教令ヲ以テ、法ヲ施用スル所以ノ
 原則ヲ公告シ、而シテ判定者現ニ判定ヲ爲ス毎ニ、必^ズ之ニ適應セル規律、及ヒ
 判定者ノ權ヲ限定スルニ足ルヘキ規律ヲ諭示シ、以テ之ヲ遵守セシメ
 タリ、
 羅馬ニテハ數百年間、プレトール〔按〕即マギス
 トラートナリ、ノ官止一人ニテ、萬般ノ
 審理ヲ總掌スルニ足リシハ、全ク斯ノ如ク、司法ノ事務ヲ二分セシニ由
 テナリ、而シテ方今之ニ類スル者ハ、唯英國司法ノ態勢ノミ、蓋シ此國ニ於テ

ハ上等法士十二人ニシテ、全國ノ審理ヲ掌ルニ足レハナリ、
但シ羅馬ノ法ヲ取テ、之ヲ今時ニ用ヒント欲スルモ、決シテ其益アル可ラ
ス、今時ノ如ク法學開明セル世ニ方テハ、法ヲ施用スル所ノマギストラ
トトナル者ハ、必^ス自ラ法學ニ熟達セサル可ラス、何者、審理ノ事務ヲ開
始スル時ニ於テ、自ラ其規律ヲ示スノミヲ以テ足レリトス可ラス、必^ス審
理終決ノ時ニ至ル迄、終始之ヲ總管スルヲ緊要トナス、方今ノ世マギスト
トラト及^ヒ判定者等、縱令^シ法學者ニ依頼シテ、親切ナル補助ヲ假ラント
欲スルモ、恐ラシハ、益ナカル可シ、

〔乙〕中古日耳曼ニ於テモ、亦法士ト判定者トヲ分テ、而シテ法士ハ司法ノ長
官ニシテ、審理ヲ總管スル者トナシ、判定者ハ、唯私人ニシテ、兩造ノ伴侶
タル者ニ過キサルヲ以テ、唯專ラ判定ヲ掌リ、及^ヒ法士ノ顧問ニ備ハル者
トナセリ、○此國ニ於テモ、法問ヲ判定スルノ務、ト、事問ヲ判定スル務、ト
ヲ以テ、區分スルヲナシ、必^ス此兩個ノ專ヲ共ニ判定スルノ規律ナリキ、故

ニ法問ノ判定モ亦判定者ノ兼掌スル所ナリキ、○法士ノ威權ニ至テハ、
羅馬ノマギストラトニ比スレハ、甚^ク微弱ナリキ、法士ハ決シテ司法ノ
章程規律ヲ示令スルノ權ナシ、唯形貌ニ於テ、審理ヲ總管スルト、及^ヒ判
定者ヲ顧問ニ用フルノ權アルノミ、而シテ法士或ハ判定者ニ顧問スル
コアルトハ、判定者ハ、自己ノ識得ニ由テ、乃チ法ナリト思惟スル所ヲ、自
由ニ演述シタリキ、且^ツ判定者ノ各員、互^ニニ障礙セラル、ヲ防クガ爲メニ
皆、相離レ、自由ニ判定セシメ、其職務、儘其職掌ノ區域ヲ踰ヘテ進出シ、
而シテ遂ニ法士スラ爲シ能ハサルコトナモ、縱ニ之ヲ爲シタリキ、○但シ此
國ニ於テモ亦羅馬ノ制ノ如ク、國民タル者、判定ノ務ヲ以テ司法ニ關
スルハ、國民當然ノ義務ナリキ、去^レヒ殊ニ貴族豪富等、此務ヲ負フコト常
ニシテ、羅馬ニテハ、貴族ノミ、此義務ヲ負ヒ、日耳曼ニテハ、而造ト門地同
等ナル者、此務ヲ負フ貴ヒ、多クハ平民ヲ舉ケテ、之ニ充テタリ、
ノ豪富ナ
ル者歟、
平民中

〔丙〕英國ニ於テハ訴訟ノ審理ニモ亦哲士（按）テ後其職ヲ奉ス故ニ哲士ト云シ其職掌ハ下ヲ用フルノ法アリテ必官吏ナル法士ト私人ナル哲士トテ區分スルコト羅馬日耳曼ニ同シ而シテ北亞米利加ニ於テモ復徧シ此哲士ヲ用フ初英國哲士ヲ用フルノ法ヲ立ツルヤ往古日耳曼ノ司法制度ニ倣ヒシカモ英國亦自ラ夙ニ此法ヲ完全セリ○但今時ハ止（按）審理ヲ總管スルノ務ノミナラス其他法ヲ明示シ及之ヲ守護スル等即眞ニ法學ニ係レルコトハ全ク法士ノ特掌スル所ナリ蓋此制タルヤ知職學業及地位ニ於テ實ニ司法ノ權ヲ掌握スルニ足ルヘキ者ニ此權ヲ委託スル者ナレハ實ニ今時ノ開明及正義公直ノ本旨ニ適セル者ナリ

歐洲大地各國ノ法ニ於テハ哲士ヲ以テ法士ヨリモ更ニ緊要ノ者トナスコト常ナレモ英國ニ於テハ然ラス此國ノ法士ハ全ク審理ノ權ヲ總持シテ常ニ哲士ヲ管スルカ故ニ其權方タルヤ哲士ノ審理ニ關スル權力ヨリモ更ニ強大ナリ凡法士ノ員數ハ甚僅々ニシテ且其職高貴ナルヲ

以テ嘗テアーンワルト（按）兩造ニ代ハノ職ニ在リテ特ニ訴訟ノ術ニ練熟シ以テ拔衆ノ名ヲ得タル法學者ノミ獨能ク法士ノ官ニ昇ルヲ得可シ○哲士法院（按）哲士ニハ法士唯一人アリテ其務ヲ管ス（但シ全ク哲士ノ補助ヲ假ラサルニハアララス）去レテ數法院ノ法士復兼テ登訴法院（按）定ニ服セサルモ更ニ告訴スル所ノ法院ヲ云フノ法士タルカ故ニ皆相結テ全ク離ルコトナク互ニ其練磨スル所ヲ傳ヘ及ヒ其判定セシ（按）所ヲ示スヲ得是ヲ以テ英ノ全國ニ於テ司法ノ規律全ク一致シテ決シテ相矛盾スルノ患ヒアラサルナリ○英國ノ憲法ニ於テ各縣（按）ガラフノ法士ハ其縣ニ生レ若シハ其縣ニ住スル者ヲ舉テ之ニ任セス必他縣ノ人ヲ撰任シ以テ縣内ノ哲士法院ヲ管セシムル法則ナリ斯クテ法士ナル者ハ時々縣ノ法院ニ赴イテ其務ニ從事シ以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ守護スル者ナルヲ以テ固ヨリ尊嚴ナル國威ヲ帶ヒ高博ナル知識ヲ備ヘ且公正ナル心思ヲ存ス故ニ哲士及兩造共ニ能ク法士ヲ尊敬信仰

シテ、其指令ヲ遵奉スルナリ、
 法院ノ長官ナル法士、全ク法學ニ係レル大權力ヲ握ル、既ニ前條ニ論
 スルカ如シ、去レテ必、兩造ト門地品等相同シウシテ、且、平常衆人ニ依頼セ
 ラル、才識アル者ノ議論ヲ聽カサレハ、決シテ兩造ニ係レルコトヲ判定
 セサルノ法ヲ立ツルカ爲メ、誓士ナル者ヲ設ケ、而シテ時々之ヲ民間ヨリ
 交換セシメ、以テ判定ノコトヲ掌ラシム、是故ニ縱令、法士ノ權力甚、強大ナ
 リト云フ也、之ニ由リ決シテ弊害ノ生スルコトナシ、但、又誓士ナル者、或ハ
 偏頗ノ判定ヲ爲スノ恐、少ナカラサルカ如シト雖モ、此誓士ハ素、時々民間
 ヨリ舉任シテ、交換セシムルノ制アルト及、兩造ニ誓士ノ全員若シハ其
 中一二人ヲ辭却スルヲ得セシムルノ法、數種アルカ故ニ、其判定ノ公平
 ナルハ、却テ定任セル合議法士ノ判定ニ於ケルヨリモ、更ニ確切ナリ、○
 或ハ又誓士ノ力實ニ爭論ノ情實ヲ詳悉シテ、之ヲ判定スルニ堪ヘサル
 ノ恐、ナキニシモアラス、去レテ誓士ナル者ハ、能ク世事ニ練磨シ、且、法士其

上ニ在リテ之ヲ管シテ、全ク誓士ニ任セサルカ故ニ、決シテ此ノ如キ恐
 アル可ラス而シテ若、別個ノ事ニ付テ、能ク通曉暗線セル者ヲ要スルコトア
 ルキハ、別ニ特選誓士スベチアチ選舉シテ、之ニ其判定ヲ任ス、○英國
 ノ法學ハ、從來外貌ノ體裁ニ拘泥スルノ弊アルヲ免レスト雖モ、其司法
 事務ニ至リテハ、能ク民情ニ適シテ、下民モ亦能ク其理ヲ解スルヲ得ル
 ハ、蓋、誓士アリテ、此事務ニ關スルニ由ルナリ、然ルニ他各國ニ於テ、近今
 大ニ外貌ノ體裁ヲ滅除セシカモ、此事決シテ誓士ヲ用フルノ制ヲ立テ
 シヨリ起リシニハアラス、○英國人ハ、誓士ヲ以テ、大ニ英國司法ノ榮譽
 ナ示スニ足ルトナシ、且、私人ノ自由、及、私法ヲ保守スルカ爲メ、實ニ堅牢
 ナル支柱ト爲ス、而シテ此誓士ハ、決シテ法士ノ位ニ列スル者ニアラス、又
 常ニ其任ニ在ル者ニアラス、必、時ニ臨ミ舉ケラレテ、其任ヲ受クル者ナ
 リ、故ニ平時ハ唯民間ノ一私人ニシテ私事ヲ營作スルニ過キサルノミ、
 又其舉任ニ當ル時ト雖モ、唯事問ヲ判定スルノ職掌アルノミニシテ、法

八ノ上五〇 問ヲ判定スルノ職掌ナシ、蓋シ是等ノ制ハ、中古日耳曼ノ憲士制度ト、全ク相異ナル所ナリ、

獨乙ニテハ、今尙憲士ヲ用フル制度ノ不可ナル所以ヲ論スル者アリ、其論ニ據レハ、嘗テ羅馬及日耳曼ノ法學ヲ研究セシ者ニアラサレハ、決シテ獨乙ノ私法ヲ了解スル能ハサルカ故ニ、私法事務ニ於テ、民間ヨリ舉任セル憲士ヲ用フルハ、不可ナリト云ヘリ、但シ縱令此論ヲ以テ、實ニ理ニ當レリトスルモ、英國ノ法ノ如ク、事問テ判定スルノ務ト、法問テ判定スルノ務トヲ以テ、判シテ兩件トナシ、法問ハ決シテ憲士ノ判定ニ任セス、必ス法學ニ熟達セル法士ノ判定ニ任スルノ法ヲ用フレハ、決シテ不可ナルコトナル可シ、〇且、英國及北亞米利加ニ於テ、法士タル者、其固有ノ法ノ由テ生シタル淵源ヲ究極シ、且、甚錯雜紛亂セル現立法ヲ洞貫詳悉セント欲スルハ、獨乙ニテ尋常ノ羅馬法、獨乙法、及獨乙各國ノ法ヲ通知セント欲スルヨリモ、更ニ難事ナル可シ、〔按〕英法ハ專ラ慣用ニ出ル者多キ故ニ、其事理、故ラニ商議載定セ

ル者ノ如ク、分明ナラス、故ニ之ヲ講求スル、亦甚難シ、然ルニ獨乙ノ法ハ、專ラ商議載定セシ者多キカ故ニ、其事理自ラ分明ナリ、故ニ之ヲ講求スル、亦自ラ易、然ルニ英亞ノ憲士判定ヲ爲スニ堪ヘサルカ爲メ、法士司法ノ務ヲ盡ス能ハサリシコトハ、未曾テ聞カサル所ナリ、

〔丁〕獨乙ノ一二國ニ於テハ、別ニ商法院ル、ハンデルスゲリヒト〔按〕商法ヲ司法ト云フ、甚誤レリ、商法ヲ設立シ、法學者一人ヲ以テ、其法院ノ主長トシ、ハ、商業ニ關スル法ナリ、テ、審理ヲ總管セシメ、而シテ之ニ商賈數員ヲ附屬シテ、共ニ判定ヲ掌ラシムルノ新法ヲ定制シタリ、〇斯法學ニ熟達シテ、國家ノ官吏トナレル法士一員ト、衆中ニ拔カレテ、民官トナレル商賈數員ヲ合シテ、共ニ事ヲ掌ラシムルノ法ハ、實ニ法學ヲシテ、能ク實際ニ利アラシメ、且、法ト民情ト、能ク相一致セシムルニ足ルト云フ可シ、後世恐ラクハ他ノ審理事務ニ於テモ、亦此ノ如キ制度ヲ用フルニ至ル可シ、〔按〕眞ノ法學士ト、其事ニ定ヲ任スル制度ヲ云フ、

數等ノ法院ヲ置クノ法ハ、曾テアラサリキ、然ルニ近今ニ至リテハ、高等ノ登訴法院ニ於テ、兩造ノ爭論ヲ數回覆治スルノ法ヲ立テ、之ヲ以テ法院ノ擅判ヲ防クノ良法ト爲ス、既ニ獨乙ニ於テハ三等ノ法院ヲ設ケ、覆治ヲ許スノ法ヲ撰定セリ、古時獨乙帝國ニ於テ、帝國法院レイヒスナル者アリ、又其各小國ニモ、上下二等ノ法院アリテ、合シテ三等ノ法院相關スルノ法アリシヨリ、今時復々遂ニ三等ノ法院ヲ設置スルコトナレリ、而シテ彼、審理ニ於テ、筆述ノ法〔按〕前出ツ、ヲ用フルノ制アルキハ、縱令ヒ三等ノ法院ヲ置クモ、其弊害自ラ亦顯然タルニ至ラサル可シ、去レテ縱令ヒ筆述ノ法ヲ用ユト云フモ、決シテ其弊害ヲ全除スル能ハサル可シ、況シテ口述ノ法ヲ用フルニ於テハ、全ク三等法院ヲ置クノ制ヲ改メサル可ラサル、固ヨリ論ヲ俟タス〔按〕本文筆述ノ法云々、余未ダ其理ヲ解スル能ハス、猶再考スベシ、

然ルニ上下二等ノ法院ヲ置クノ制度ハ、三等法院ノ制度ニ優ルコト遠クシテ、實ニ司法事務ノ正善ヲ保存スル、一良制ト稱ス可シ、凡ソ初等法院〔按〕下

等法院ヲ云、初、下等ニ於テ判定スニ於テ、未ダ熟練セサル徒ノ判定セシメルカ故ニ之ヲ初等ト云フナリ、ニ於テ、未ダ熟練セサル徒ノ判定セシメテ、高等ノ法院ニ於テ、練熟セル徒、更ニ覆治スルノ制アルキハ、其判定ノ當ヲ得タル所以、益、明亮タルカ故ニ止〔按〕兩造ヲシテ、大ニ司法事務ノ正善ナルヲ信セシムルノ益アルノミナラス、下等法士モ亦判定ヲ爲スニ臨ミ、大ニ敬思ヲ加ヘ、決シテ專横粗暴ノ處分ヲ爲サ、ルノ益アリ、然ルニ、若シ此制アラサルキハ、下等法士モ亦司法ノ全權ヲ握ルカ故ニ、動モスレハ不正ノ事ヲ爲スニ陥ルハ必然ナリ、○但シ國ノ版圖甚ダ廣大ナルキハ、一個ノ上等法院、焉ソシ能ク萬般ノ登訴ヲ總判スルニ堪ユヘケンヤ、故ニ此ノ如キ國ニ於テハ、必別ニカッサチオンスホフ、或ハオーベルホフ〔按〕登訴ヲ司、チ設置シ、以テ法ノ一致、及司法規律ノ一致ヲ保護ス、〔按〕全國ノ規律ヲ悉皆一致セシメテ、相予、カッサチオンスホフナル者ハ、元來佛國ニ盾スルコトナカラシムルヲ云フ、カッサチオンスホフナル者ハ、元來佛國ニ於テ、創メテ設立セシ者ニシテ、他法院ニテ判定セシ所ノ法ニ當ラサル所以、チ登訴スル者アルニ臨ミ、特ニ其訟ヲ聽クヲ掌ル者ナリ、故ニ其職

掌、大約獨乙ノオーベルホフノ職掌ト相同シ、但、又相異ナル所アリ、即チカッ
 サチオンスホフハ、他法院ノ審理、若シ其規律ニ背キ、或ハ判定偶、其法ニ背
 シキハ、併ニ皆ナ之ヲ廢シ、而シテ同法院ニ命シテ、更ニ覆治ヲ施サシムル
 ナ掌ルト雖モ、オーベルホフハ否ラス、他法院ノ判定ヲ全廢スルコトナク、
 唯、務、テ之ヲ改正スルヲ掌ル者ナリ、
 訴訟審理ニ於テモ亦、誓士ヲ用フル法ヲ立テシ國ニ於テハ、登訴ヲ爲ス
 ノ規律、大ニ限制スル所アリ、就中唯法問ノ判定ニ就テ、登訴ヲ許スノミ
 ニシテ、事問ノ判定ニ就テハ、之ヲ許サス、故ニ此法アル國ニ於テハ、僅ニ
 一ノ上等法院アレハ、諸般ノ登訴ヲ總判スルニ足ル可シ、此事即チ英國ヲ
 以テ證ト爲ス可シ、

- 第四款 刑法事務
- 第五款 政務法事務
- 第六款 司法ノ疆域○政務法ニ屬スル爭訟

イ、カ、ブルンチエリ 著

加藤弘之 譯

第四款 刑法事務、ストラフレンヒツプレンゲ〔按〕又治罪事務ト譯ス、即斷獄事務ナリ、

〔第一〕中古ノ世ニハ、羅馬人種及日耳曼人種ノ各國共ニ、刑法事務ノ施行
 ナ三等ニ分チ、各其官司ヲ異ニセリ、蓋此制ハ元來獨乙ノ國土人民ノ分
 割法ニ由リシ者ナリ、乃チ古時獨乙ニテガウ、フンタリ、及ヒワイレル〔按〕
 チ三等ニ分割セシ名稱ナリ、而シテガウチ大部トシ、之チ數フンタリ、
 リニ分チ又フンタリチ中部トシ、更ニ之チ數ワイレルニ分テリ、
 割ハ、軍事制度、及司法制度ニ應シテ設ケシ所ノ法ナリ、其後佛國ニ於
 テモ亦法院ヲ上中下三等ニ區分シ、〔按〕即チ土地チ三等ニ復タ獨乙ニテ
 モ高等ホグタイ〔按〕法院下等ホグタイト、及ヒ地頭ノ司法局〔按〕封地チ受有
 立ル者若シハ邑〔按〕ノ司法局〔按〕地頭ノ司法局及ヒ邑ノ司法局ニ區分セ
 ナリ、且罰スベキ罪科チ其輕重ニ隨テ、三等ニ區分シ、併ニ法院ノ職掌チ

モ、三等ニ區分シ、右三等ノ法院ヲシテ、其處決ヲ分掌セシメタリ、凡眞誠ノ傷和罪フリイデンスナル者〔按〕平和ハ實ニ平和安全ヲ傷害スル者タルヲ以テ、全ク此罪犯人ノ權利ヲ剝奪シテ之ヲ誅戮スルヲ要シ、及ヒヘル、ブレーヘン〔按〕大罪ヲ云、下ノ如キモ、必亦其生命ヲ假サ、ルヲ要シタリ、故ニ是等ハ總テ高等法院ニ於テ、判定處刑シタリキ、而シテ此法院ハ、國君ヨリ直ニ人命ヲ褫フノ權ヲ以テ、授與セラレタル者ナリキ、又フレール〔按〕故意ヲ以テ、及ヒ倫盜ノ如キモ、法制ヲ毀損スル少ナカラスト雖モ、之ヲ罰スルニ、決シテ生命ヲ褫フヲ要セス、唯體刑、ケルベルストラフ〔按〕又體軀ニ施ス刑ト云フ義ニシテ、即答杖等ノ刑、若クハ金刑〔按〕即罰金ナク、方今文明開化ノ國、多クハ此刑ヲ廢セリ、若クハ金刑〔按〕即罰金ナク、ニ處シテ足レル者ナルカ故ニ、是等ハ皆中等法院ニ於テ、處刑シタリキ、○古時ノ司法常則ハ、大凡以上論スルカ如クナリキ、但シ唯輕罪過失等ノ如キ大ニ國家ノ法則ニ害ナキ者ハ、皆地頭ノ司法局ニ於テ處刑シ、或ハ地頭ノ管轄ニ歸セスシテ、尙自由ノ權ヲ保有セシ諸邑ニテハ、邑ノ司

司法局ニ於テ處刑シタリキ、

今時モ尙上ニ論スル所ノ罪科區分法ヲ從用ス、唯少シク變革スル所アルノミ、故ニ今時ニ在リテモ、ヘルブレーヘン〔按〕大罪ヲ云、故ニヘルゲール〔按〕尋常ノ罪科ヲ云、故ニ及ヒボリツアイニーベルトレーツング〔按〕刑罰ヲ受ケス、唯警保官ノ刑罰ヲ受、ノ三等ヲ分立シ、大罪ハ警士法院ル小罪ヲ云、故ニ下文又警保罪ト譯ス、ノ三等ヲ分立シ、大罪ハ警士法院ニ於テ、判定處刑シ、常罪ハ中等ノ合議法院ニ於テ判定處刑シ、又警保罪ハ下等ノ警保法院〔按〕眞ノ法院ニアラス、唯警保官ニ附屬スル法院ナリ、ニ於テ、判定處刑ス、但シ故アノハ時トシテ、二三ノ常罪ヲ、或ハ警士法院ノ處分ニ任シ、或ハ警保法院ノ處分ニ任スルコトアリ、即此罪科ニ就テ若シ審理判定等ノ事務ヲ、務メテ丁寧綿密ナラシメ、且、他ノ拘束ヲ受ケス、自由ニ處分セシムルヲ要スルトキニ於テハ、乃其處分ヲ警士法院ニ托シ、或ハ此罪科甚々輕ウシテ、殆ト小罪ニ類似スルカ如キトキニハ、其處分ヲ以テ警保法院ニ托スルナリ、

四下ノ八

但シ大罪常罪ノ區別ハ、人學ハスト雖モ、能ク辨別シ得ル者ニシテ、二罪共ニ刑法官ノ本職ニ屬ス、是ヲ以テ刑法事務ノ編制ニ就テハ、能ク此區分ヲ遵守スルヲ要ス、○去レ此二罪ハ共ニ國家ノ法制ヲ毀損傷害スル者ナルヲ以テ、決シテ唯私法ニ背ケル不正ノ所行ト爲ス可ラス、又唯警保官ノ處分ニ屬ス可キ罪科トモ爲ス可ラス、實ニ國家ノ正義公道ノ旨ヲ毀損スル罪科ト爲ス可キヲ、固ヨリ當然ナリ、故ニ此罪科ニ就テハ訴訟法ニ於ケルカ如ク、唯僅ニ毀損セラレタル權利ヲ回復スルノミヲ以テ足レリト爲ス可ラス、又警保法ノ如ク、國家ノ正義公道ノ旨ヲ守護スルヨリハ、殊ニ一般ノ安寧秩序ヲ保護スルノ意ヲ以テ、處分ス可ラス、實ニ一旦毀損ヲ受ケタル國家ノ正義公道ヲ、逕回復警スルノ意ヲ以テ、罪犯人ニ刑罰ヲ加フルヲ緊要ナリ蓋シ然セサレハ、正義公道ノ旨決シテ安全ナルヲ得ル能ハサレハナリ、○但シ此二罪相分カル、所以ハ、其景況ノ尋常ト非常ノ別アルニ由ルナリ、〔按〕常罪ハ尋常ノ罪、大罪ハ非常ノ罪ナルヲ以テ斯云フナリ、

五下ノ八

乃チ大罪ハ常罪ノ重大トナリタル者ト云フモ可ナリ、即チ在ニ論ス、
 兇罪犯ノ所行、タ國家ノ一部分ヲ害スルニ止マラス、實ニ國家ノ全體ヲ害スル者ハ、重キ罪、即チ大罪トナル可シ、〔例〕ハ逆謀ハ實ニ大罪ト稱ス可シ、去レレ僅ニ政府上官ニ抗スルノ所行ハ、唯常罪ト稱ス可シ、②大ニ人ノ危難ヲ生スル所行、及ヒ道義ヲ傷フ所行ノ中ニ就テ、甚タ暴強ナル者ハ、重キ罪、即チ大罪トナル可シ、〔例〕ハ行劫、強盜、及ヒ強姦ハ大罪ナリ、去レレ尋常ノ竊盜、及ヒ人ヲ侮辱シ、或ハ罵詈スル等、人ニ大害ヲ爲サ、ル者、并ニ人ヲ欺騙スル所行等ハ、通例常罪ト稱ス可シ、其他過失ニ屬スル罪科モ、亦皆常罪ノ内ニ列ス可シ、③時アリテ損害ヲ生スル甚タ巨大ナルニ至ルキハ、常罪變シテ遂ニ重キ罪、即チ大罪トナル可シ、譬ヘハ猶水ノ熱ヲ受クル最大ナルニ至ルキハ、即チ變シテ、蒸氣トナルカ如シ、〔例〕ハ尋常ノ竊盜ト雖モ、其盜ム所甚タ巨大ナルキハ、即チ大罪トナルナリ、凡ソ大罪常罪ノ相分カル、所以ノ理、通例此ノ如シ、去レレ尙

ツアラノ判定ト爲ス、即チ刑法ニ據テ、罪科ニ適當スベキ法ヲ決定スルヲ云フナリ、又其(第二件)ハ司法官ノ官司ヲ全ク區分シ、法士ト誓士トヲ設ケ、而シテ事問ノ判定ハ、必ズ民間ヨリ擧ケタル私人〔按〕誓士ナリ、(必ズシモ法學ニ練磨セル者ニアラス)ニ托シ、法問ノ判定ハ、必ズ能ク法學ニ練磨セル定任ノ官吏ナル法士ニ委任スルナリ、但シ事問ノ判定ヲ掌レル私人ハ、決シテ中古日耳曼ノシエツヘ〔按〕誓士ナリノ如ク、定任スルニアラス、必ズ時ニ臨テ擧任スルカ故ニ、時々交代スル者ナリ、

誓士ヲ用フル制度ノ利害ハ、左ニ論スル所ノ景況ニ由ル、凡ソ法士ト誓士ノ際、絶エテ嫌隙ヲ生スルコトナク、能ク一致シテ共ニ司法事務ヲ掌リ、而シテ常ニ審理ヲ總管スル所ノ法士ハ、其事務ヲ掌ルノ卓越ナルニ由テ、能ク法學ニ練熟スル所以ヲ表ハスニ足レハ、此制度甚タ利アリト云フ可シ、然ルニ若シ誓士法院ノ景況、全ク之ニ反スルハ、其利害亦相反スル言ヲ俟タス、其他法士タル者、アドホカト〔按〕對手ニ代リテ辨論スル者、若クハ兩對

手〔按〕罪狀ヲ告訴セラレタル者ト、スノ爲メニ、愚弄セラレテ、是等ノ徒ヲ一ツア一ツワルトナク、云フナリ、ノ縦ニ司法事務ヲ以テ、自ラ相爭ヒ相凌クノ具トナスヲモ、制スル能ハサル歟、若クハ法士十分ニ其務メヲ盡サント欲シ、自ラ兩對手ノ爭論ニ關スルコト實ニ過當ニ渉ル等ノ弊生スルハ、誓士ヲ用フルノ制度甚タ害アリ、〇凡ソ誓士ヲ用ヒテ、審理ヲ施スヤ、嘗テ法ヲ學ハサル誓士ノ判定ヲ以テ、却テ法學者ノ判定ニ優レリトスルニアラス、唯諸罪科共ニ、民間ヨリ擧任セル識者ノ自然ノ識得〔按〕法學ノ練磨ヨリ生スヲ以テ、認メテ有罪トナセル悪行ニアラサレハ、決シテ刑セサランコトヲ欲スルカ爲メノミ、〇總テ法ヲ論示シ、併セテ正義公道ノ旨ヲ保護スルカ如キハ、即チ法士ノ職掌ナリ、法士タル者ハ、固ク道義ヲ守リ、以テ審理ノ務メヲ堅固ニセサル可ラス、而シテ法士實ニ此事ヲ盡サント欲セハ、告訴者アーンケ、〔按〕即スターツアト、自護者ヲ告訴セラレタル者〔按〕罪犯ノ際ニ、苟クモ偏頗ノ情ヲ生スルコトナク、唯公平ノ心ヲ以テ、審理ヲ施スニアラサレハ、決

シテ能ハサルナリ、
其他哲士ヲ設置スルノ法ニ就テ、其利害ヲ論スルコトハ、最モ緊要ナルコトナリ、

英國ニ於テハ、尋常ノ哲士法院アルゲマイチス、シユト、別種ノ哲士法院ウールゲリヒト、シユト、アルゲリヒト、シユトトテ以テ、全ク區別セントスルノ機、既ニ現然タリト雖、他國ニ於テハ、或ハ此區別ヲ以テ、却テ不可ト爲スノ論アルヘシ、○凡ソ尋常ノ哲士法院ト稱スル者ハ、其哲士ナル者判定ヲ爲スニ、絶ヘテ別種ノ學習練磨ヲ要セサル法院ヲ云フ、尋常ノ審理ハ、大抵此法院ニ於テ掌ル所ナリ、然ルニ別種ノ哲士法院ト稱スル者ハ、事問テ判定シ、及ヒ罪ノ有無ヲ判決スル等ニ就テ、必ス別種ノ學習練磨ヲ要スル時ノミ、其務メニ從事スル所ノ法院ヲ云フナリ、而シテ尋常ノ哲士法院ニハ、唯尋常ノ才識アル人物ヲ舉任スルノミニシテ足レリ、決シテ別種ノ學習練磨アルヲ要セス、故ニ尋常平民ノ中等ニ於テ、其人物ヲ求ムルニ、決シ

テ得難キニアラス、然ルニ別種ノ哲士法院ニ舉ント欲スル哲士ノ如キハ、必ス別種ノ學習練磨ヲ要スルカ故ニ、其人物ヲ選フニハ、必ス別種ノ業科ニ練磨セル徒中ニ就テ爲サ、ル可ラス、○例ヘハ出版ノ事件ニ就テ、審理ヲ施ス時ニ於ケルカ如キ、元來其事ニ諳熟スル者甚タ多カラス、ト雖、必ス務メテ練磨セル者ヲ選ヒ、以テ別種哲士ト爲サ、ル可ラス、凡ソ盜賊殺傷等ノ告訴アル時ニ於テハ、縱令嘗テ別種ノ學習練磨ヲ經サル都人農民等ト雖、唯其事ノ景況、諸種ノ證左、及ヒ被告人ノ舉動等ニ據テ、其罪科ノ虛實ヲ判定スルコト、決シテ難カラスト雖、法院若シ文章上ノ辨論、或ハ語言上ノ條陳等ニ於テ、才力アル自護者〔按〕被告人、〔按〕縦談巧辭ヲ以テ、其罪迹ヲ掩蔽セントスルヲ洞察シ、或ハ一個人〔按〕又インヂヒツームト云、即チ公衆ニ對シテ一人ヲ指斥スルノ語ナリ、論說、縱令公衆一般ノ所見ト全ク相表裏スルコト雖モ、亦辨論ノ自由權ヲ敬重シテ、自由ニ辨論セシムルカ如キハ、尋常平易ナル都人農民等カ微力ノ決シテ及フ所ニ

アテス、若シ此ノ如キ時ニ於テモ、仍ホ尋常平易ナル都人農民等ヲ舉テ、哲士ト爲スキハ、動モスレハ自護者ヲ縱談巧辭ノ詭譎ニ陥リ、遂ニ其判定ヲ誤ルヤ必然ナリ、總テ此ノ如キ哲士ハ、素ト確乎タル學習ナキヲ以テ、其判定ニ於ケル、或ハ甚タ嚴酷ニ過キ、或ハ甚タ寛大ニ失シ、加之私意ヲ挿サムカ如キ弊害ナキヲ得ス、

哲士ヲ舉任スルニ、拈鬮子ノ法ヲ用フルノ國最モ多シ、實ニ宜シキヲ得ル法ト云フ可シ、若他法ヲ用フルハ、必二個ノ相對セル嚴懲ノ危害ヲ避クル能ハサルヘシ、他法二種アリト雖モ、俱ニ哲士制度ノ真正ヲ障害スル者ナリ、即、其第一法ハ、政府專ラ哲士ノ舉任ヲ掌ルノ法ナリ、凡、法士ノ加キハ素ト高貴ノ官ニシテ、且、其人ハ必、法學ニ練熟スル者ナルカ故ニ、政府之ヲ舉任スト雖モ、決シテ政府ノ威光ニ眩惑セラル、カ如キ思ナシ、然ルニ哲士ノ如キハ、素ト官吏ニアラス、亦蓋シ能ク法學ニ通曉スル者ニアラサルヲ以テ、政府ノ舉任ヲ受クルハ、多クハ唯政府ノ意志ヲノ

ミ奉承シ、動モスレハ其旨ヲ遂クルノ具トナルニ至ルノ弊害アリ、是レ即チ第一ノ嚴懲ナリ、又其第二法ハ、國民ノ選擇ヲ以テ、哲士ヲ舉任スルノ法ナリ、若シ此法ヲ用フルハ、勢ヒ哲士唯政論黨派〔按〕文明開化國ニテハ、政治方法ノ議論ニ就テ、衆民中ニ數黨派分シ、各其是トシ、可ト思フ所ヲ主張シテ、相競ヒ、以テ遂ニ政令ノ方向ヲ變セシムルノ勢力アリ、之ヲ政論黨派ト云フ、ノ意ヲ奉承シテ、之ニ依靡スルニ至ル、故ニ哲士タル者、殆政論黨派ノ奴僕ノ如クナリ、偏頗不公平ノ判定ヲ以テ、遂ニ司法事務ノ純潔ヲ汚スノ弊害アリ、是レ即チ第二ノ嚴懲ナリ、是故ニ、此二個ノ嚴懲ヲ避ケント欲セハ、必、拈鬮子ヲ以テ舉任スルノ法ヲ用ヒサル可ラス、○但、此法ヲ用フルハ、被告或ハ自ラ信セサル哲士ノ判定ヲ受クルノ患ヒ、免レサルカ如シト雖モ、被告者若シ哲士ヲ信セサルコトアラハ、直ニ之ヲ辭却シ得ルノ權利ヲ以テ、之ニ與フルノ法アレハ、此ノ如キ患ヒハ、全ク消滅ニ歸スル、敢テ辨チ俟タス、

但、拈鬮子ヲ以テ舉任スルハ、其事素ト偶然ニ出ル者ナレハ、決シテ人物ノ

八 其任ニ耐ルヲ保ツニ足ラサル者ナリ、故ニ必能ク其任ニ耐ユヘキ者ノ
ミチ以テ、拈鬪子ノ權利ヲ得セシムルヲ甚ク緊要ナリ、哲士タル者、其力若シ
獨歩自立シテ、家計ヲ經營スル能ハサルハ、決シテ衆望ヲ得ル能ハス、且ッ
通例成人ノ年齢ヲ過キテ、家事産業ニ由リ、世事ニ諳練スル者ニアラサ
レハ、決シテ其任ニ適スル能ハサルカ故ニ、以上諸件ニ於テ、實ニ間然ス
ヘカラサル者ノミチ擧任スルノ法ハ、實ニ公正ニシテ、且ッ眞實ナル判定
ヲ期スルニ甚ク緊要ナリ、○但ッ哲士法院モ、必亦以テ正義公直ノ旨ヲ保
護スヘキ者ナリ、故ニ之ヲシテ、決シテ政令ノ利害得失ニ着意セシメサ
ルヲ、甚ク緊要ナリ、

○〔接〕英國ニテハ、一千八百二十五年ノ憲法ヲ以テ、哲士擧任ノ法
ヲ確定シテ、年齢二十一ニ至リ、且ッ土田ノ歲入十ポンド一ポンドハ
圓ニア
ヲ得ル者、若クハ所有物ノ貸賃、一年二十ポンドヲ得ル者ニ
アラサレハ、哲士トナルノ權利ヲ有スル能ハサルトセリ、

然ルニ儘此理ニ反スル論ヲ立ツル者アリ、其論ニ據ルニ、哲士タル者ハ、
法制ノ上ニ在テ、法制ヲ自在ニ取捨行止スルノ全權ヲ握ル者ナリト云
フ、實ニ迷誤ノ甚クシキニ非スヤ、凡ッ法院ナル者ハ、唯現立ノ法制ヲ司守シ
テ、偏ニ正義公直ノ旨ヲ奉行スルノ外、他ノ職掌ヲ負フ者ニアラス、哲士
ハ必ス誓約ヲ以テ、此義務ヲ其心ニ銘スル者ナリ、然ルニ哲士若シ自ラ
其處分ノ法ニ合セサルアルヲ知ルヲアラハ、焉ソ信實ノ法院アリト爲
ス可ケンヤ、○又佛國ノ法院ニ於テ、一暴論ヲ採用シテ、哲士ナル者ハ宜
シク罪狀ノ證左ヲ取ル可シト云フノ規律ヲ遵守スルヲ要セス、唯其罪
狀ノ未タ分明ナラサル所ヲ追究スレハ、足レリトナス、此事實際ニ於テ、
殊ニ害アリ、但ッ哲士ヲ設置セシ以來、之ヲシテ自由ニ判定セシムル
トナリシヨリ、古昔唯法學者ノミチ以テ、合議法院リヒテルヲ設立セ
シ世ニ於テ、偏ニ證左ヲ取ルノ法ノミチ墨守セシ風習、遂ニ全ク消滅セ
シハ、實ニ哲士ヲ用フルノ利ト云フベク、且ッ哲士始メテ立チシ以來、罪

犯人多クハ其罪ヲ掩フ能ハスシテ、皆其刑ニ服スルコトナリシハ、各國共ニ實験ニ由テ知ル所ナリ、然レトモ誓士ヲ用フル制度ノ祖國ナル英、及ヒ亞米利加兩國ニ於テ、未ク曾テ證左ヲ取ルノ法、即チ罪アリト判定セシ所以ノ理ヲ、被告人ニ明白ニ知ラシムルノ法、テ以テ、全ク無用ニ屬ストセシ論アルヲ聞カス、加之、此兩國ニ於テハ、證左ヲ探索スルノ術ヲ講求スルニ、心ヲ用ユルヲ專旨トナシ、并ニ誓士ヲシテ、證左ニ注意セシムルヲ以テ、法士ノ務メト爲ス、○法士ナル者ハ、決シテ自ラ被告者ヲ無罪トシテ、赦免スルヲ得ス、及ヒ之ヲ有罪トシテ、刑罰スルヲ得ス、必スヤ誓士タル者ノ尋常平易ノ識見ニ由リ、判シテ有罪ト定メシ者ニアラサレハ、之ヲ刑スル能ハサルハ、則チ誓士法院ノ通則ナリ、去レトモ法士タル者正義公直ノ旨ヲ奉シ、且ツ自ラ學習ノ浸漸ニ由リ、悟得セシ識見ヲ、誓士ニ告諭シ、以テ誓士ヲシテ、之ヲ熟慮セシメ、及ヒ公正ニ判定セシムルハ、全ク其職掌ニシテ、之ヲ以テ不可トスルノ理ハ、決シテアル可ラ

ス、○歐洲大地各國ニ於テハ、法士ノ權常ニ強大ニ過キ、遂ニ誓士ノ判定ヲ用ヒス、敢テ自ラ恣ニ判定ヲ爲スカ如キ弊害アルヲ免レヌ、是ヲ以テ、往々此弊害ヲ驅除セシメテ論スル者アリ、實ニ誓士法院ノ制度ニ於テ、有益ノ論ト云フ可シ、去レトモ又審理ニ於テ、法學ニ熟達セシ法士ノ威權ヲ務メテ抑壓シ、而シテ誓士ヲシテ、縦マ、ニ判定スルヲ得セシムルヲ以テ、此法院ノ本意ヲラシメント欲スルカ如キモ、亦司法ノ眞理、及ヒ其尊嚴ナル所以ニ、全ク相戾ルト云フ可シ、
既ニ論シタルカ如ク歐洲大地ノ各國ニ於テ、スターツァインワルトノ官ヲ設立セシハ、全ク英國ノ制度ニ由ラサル者ナルカ、又誓士法院ノ制度モ亦大地各國ニ傳播セシ以來、二個ノ改正ヲ得タリ、即チ第一ハ、英國ニ用フルアーノンカラーゲ、デューリ〔大デューリ〕按英國ニハ、大小二種ノ誓士アリ、而シテ大誓士ナル者ハ、預メ罪犯ノ景況ヲ探索シテ、實ニ罪アリト思フトキハ、之ヲ小誓士ニ送致スルヲ掌ル者ナリ、但シ小誓士ハ判定ヲ爲ス者ナリ、ナ廢シ、而シテ別ニ法學者ノミヲ擧テ、アーノンカラーゲセナリト

ナル者ヲ設立シ預メ告訴ノ次第ヲ查問スルノ務メヲ以テ之ニ授托スルノ法ヲ立テ第二ニハ英國ニ於テハ私法ノ意今仍大ニ司法上ニ存スト雖モ大地各國ニ於テハ罪犯人ヲ追捕刑罰スル事ハ漸ク國家ノ掌ル所トナリテ今世ハ司法上絶エテ私法ノ意ノ存スルアルヲ見サルニ至レリ、

第五款

政務法事務ニ係ル公權利ノ規律ヲ政務法ト云、故ニ此公權利ニ就テ起ル諸事論ヲ裁斷スルノ事務ヲ政務法事務ト云、法院司ル所ノ私法刑法ノ二事務ト相異ナリ

公權利ニ就テモ亦爭論ノ生スルコトアリ而シテ此時ニ於テハ國家其權ヲ以テ之ヲ裁斷セサル可ラス、但今世ノ公法院ニ於テハ公權利ノ規律ヲ政務法ト云、故ニ公法ニ於テ僅ニ其數部分ヲ司ルノ權アリ、故ニ其過半ハ、方今尙ホ未ク之ヲ司ル所ノ法院、并ニ制

度アラス、就中公法中ノ重要ナル部分ニ至リテハ、最モ然リトス、實ニ公法事件ニ係リテ起ル諸事論ヲ悉皆裁斷スヘキ法院ヲ設立スルハ、恐ラクハ後世始メテ能クスヘキノミ、

公法ノ事ニ係リテ起ル諸事論ノ部類ハ、大畧左ニ擧ルカ如シ、

〔甲〕列國法ニ係ル爭論、列國ノ權利ニ係リテ、其際ニ起ル爭論ヲ裁斷スルニ堪ユヘキ法院ハ、今時尙未ク之アラス、故ニ二國相爭フキニ於テハ、儘調停裁判國ノ依託ヲ受ケ、其中間ニ入テ裁判スルヲ云、ヲ施スコトアレモ、必ス兩國縱議シ相共ニ之ヲ請フニアラサレハ、此事決シテ行ハル可ラス、其他アリセシテヒト

〔按〕戰爭ノ際、敵艦ヲ捕撃セルキ、ノ如キ其邪正曲直ヲ判定裁斷スルヲ云、ノ如キ

ハ、固ヨリ兩國ノ共議スヘキコト、當然ナルカ如シト雖モ、必ス獨、其本國

〔乙〕君位繼承ニ係ル爭論ノ如キモ、國事法院亦之ヲ裁斷スルノ權ナシ、而シテ列國復之ヲ裁判スル權ヲ有セス、國家ノ大事勢獨リ能ク之ヲ裁

斷スルナリ、凡ソ權勢事業、兩ツナカラ全ク、舉國若クハ官司等ノ許可服從ヲ得ル者、遂ニ能ク君位ニ登ルヲ得ルハ、即チ勢ノ然ラシムル所ナリ。

○〔按〕君位繼嗣ノコヨリ、争鬪ヲ生スルコアルハ、權勢事業兩ツナカラ全クシテ、遂ニ全國ノ許可服從ヲ得ル者、自ラ勢ニ由テ、君位ニ登ルヲ得、故ニ國家ノ大事勢、獨リ能ク之ヲ裁斷スト云フナリ、

〔丙〕國憲可否ノコヨリ起レル争論ノ如キモ、亦必ス法院ノ裁斷ヲ用フル能ハス、而シテ或ハ政論黨派ノ分争、能ク之ヲ裁斷スルヲ得、〔按〕權ヲ得スル所ニ從テ、國憲ヲ確定ス、故ニ分争、或ハ兩院ト政府ノ商議ヲ以テ、之ヲ裁斷シ、又ハ憲法及ヒ上論ヲ以テ、之ヲ裁斷スルヲ得ルナリ、獨リ亞米利加合邦ニ於テハ、通例合邦法院、邦全國ノ法ヲ司レル法院、能ク此ノ如キ争論ヲ裁斷スルノ權有リ、去レモ此國ニ於テモ、國家諸權柄ノ意、互ヒニ相背反シテ、全ク一致和同セサル時ニ於テハ、法院縱令ヒ其裁斷ヲ施シテ、之ヲ行ハント欲スルモ、決シテ能ハサルナリ、蓋シ一千八百六十一年

萬延ニリ六十五年慶應ニ至ル五年間、國內ノ大戦争及ヒ其後ノ形勢ヲ

通視スレハ、此理自ラ明亮ナル可シ、○去レモ若ク此ノ如キ争論アルニ方リ、徒ニ形貌上ノ正真ナル法ニノミ遵テ裁斷スルハ、其弊更ニ巨大ニ至ル可シ、蓋シ自然ノ勢ニ合シ、且、日々進歩スル世態ニ適スル所ノ裁斷ハ、獨リ經綸ノ才識ヲ具フル俊傑ニアラサレハ、決シテ爲ス能ハサルナリ、

〔丁〕軍務ルヲツング、及ヒ〔戊〕警保務ヲツング、ノ區域内ニ於テハ、其官司許多ノ法問ヲ判定裁斷セサル可ラス、而シテ此判定裁斷ヲ以テ、更ニ法院ニ告訴スルヲ許サス、殊ニ此種ノ法問ハ、其便宜ニ從テ、武官及ヒ警保官ノ事務ニ屬ス、蓋シ此法問ハ、專ラ事ノ便益ト否トニ、緊切スルヲ以テナリ、〔按〕唯正義公道ノ例ハ、戦争ノ時ニ於テ、軍隊俄ニ民人ノ交際ヲ阻攔シ、及ヒ其連合ヲ隔斷シ、或ハ大砲ヲ民家ニ發射シ、又ハ禾田ヲ蹂行スル等諸件ノ實ニ緊要ナリヤ否ハ、皆專ラ軍事ニ係レルコトナリ、去レモ是等諸件モ亦、必ス法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○

八ノ下二四

又火災起ルニ方リ、家屋ヲ毀壞シ、或ハ傳染病アルニ方リテ、患者ノ他人ト接遇スルヲ禁シ及ヒ病獸ヲ屠殺スル等、必行スヘキヤ否ヤハ、警保官タル者、專ラ公衆ノ安寧ニ注意シテ、裁定スル所ナリ、去レヒ是等ノ、其便益ト否トノミヲ以テ、論ス可キニアラス、亦必ス法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○斯法ノ區域ニ屬スル裁定ヲ以テ、法院ニ托セス、却テ武官或ハ警保官ニ托スルハ、殊ニ怪シム可キカ如シト雖モ、是等諸件ハ、必ス十分嚴猛ノ權力ヲ以テ、處分セサル可ラス、故ニ之ヲ單ニ武官若クハ警保官ニ托シテ、決シテ法院ヲシテ、之ニ關セシメサルナリ、若シ法院ヲシテ、是等諸件ニ關セシムルノ法ヲ立ルルハ、兵權警保權共ニ、遂ニ痿痺衰弊スルノ恐ナキ能ハス、

但、右等ノ處分ニ由テ、武官及ヒ警保官等、若シ私人ニ損害ヲ爲セシカ爲メニ、私人或ハ其償金ヲ乞フコトアレハ、其請願ノ當否曲直如何ヲ判定スルハ、固ヨリ私法院ノ職掌ナル可ク、又右等處分ヲ爲スノ時ニ於テ、警保官

ノ施シタル警保刑ボリツアイストテフ〔按〕警保官ノ施スヘキ刑罰ヲ云、ノ當否ヲ判定スルコト必要ナルルキ、之ヲ判定スルハ、固ヨリ私法院ノ職掌タルコト辨テ俟タス、

〔己〕元來諸官司ノ設立スル所ニシテ、且、其管轄ニ屬スル公法モ、亦殊ニ許多アリ、故ニ此公法ヨリ起レル爭論ハ、必ス其諸官司ニ於テ、之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ選擇權利ワールノヒト、ニ係レル爭論ノ如キハ、或ハ此權利ノ規律ヲ設立セル上官、之ヲ裁斷シ、或ハ選擇セラル、徒、〔兩院ノ如キ是レナリ〕之ヲ裁斷ス、其他總テ下等諸官吏ノ職掌ニ就テ、爭訟起ルルキハ、乃チ其上官之ヲ判決ス、

八ノ下二五

佛國ニ於テハ、狹義ノ政務法ヘルワルツングスレヒト、ト稱スル者ノ區域ヲ前條舉ル所ノ公法〔按〕即チ〔己〕ノ條ニ舉ル者ヲ云、ヨリ、復タ區分シテ、別種ノ者トナシ、而シテ此法ニ係レル事務ヲ舉ケテ、全ク別個ノ法院ニ委託セリ、近世各國復タ之ニ倣フ者多シ、○狹義政務法ノ區域ハ、殊ニ宛カモ會社若クハ一個人ノ身上ニ固著セル公權利、及ヒ公義務ヲ含有ス、故ニ此權利ハ殆

私權利ノ如クニシテ、殊ニ特別ノ保護ヲ要スルナリ、何者、此權利ニ就テハ、眞誠ノ兩對手、其意思ヲ主張シテ、相争フコトアリ、故ニ法院ニ於テ、其審理ヲ受クヘキコト、當然ナレハナリ、〔按〕他ノ公權利ニ就テハ、兩私人相對テハ、兩私人相對シ、相争フコトナシト雖モ、此公權利ニ就テハ、兩私人相對シ、相争フコトアリト云フノ意歟、

去レモ此權利ヲ以テ決シテ、私權利ト認ム可ラス、元來此權利ハ、決シテ全ク一個人ニ屬スル者ニアラス、必ス國家ニ屬スル公權利ナルヲ以テ、國家ノ法制ニ密合スルコト當然ナリ、但シ此權利ハ、常ニ一個人ニ固著セル、一種別個ノ權利ノ如クナリテ、一個人自ラ之ヲ護リ得ルカ故ニ、宛カモ其私權利ニ類似ス、○狹義ノ政務法ニ屬スル者ハ、例ヘハ邑民タルノ權利、〔按〕ゲマインデビュルゲルレヒト〔按〕邑事ニス關及國民タルノ權利、〔按〕ルツビュルゲルレヒト〔按〕國事ニ關スルヲ納税ノ義務、邑ノ疆界ヲ分割スルコト、〔按〕事理解シ難シ、〔按〕公衆ノ往來、チ私用ニ充ツルコト、街路ヲ建築修繕スルノ義務、學校及教會館ヲ造營スルノ義務、公務職官ヲ奉承スル

ノ義務〔按〕公務諸職官中ニ就テ、各人必ス奉承セザ、軍事ニ役事スルノ義務、及ヒ公衆利益ノ爲メニ、私有ヲ放與スル等はレナリ、

狹義政務法ノ區域ハ從來甚タ狹少ナリト雖モ、固ヨリ廣濶ニナシ得可ク、加之之ヲ廣濶ニスルコト、甚ダ緊要ナリ、○但シ從來政務官獨リ狹義ノ政務法ヲ司ルノ全權ヲ有シテ、決シテ法院ノ監察ヲ受クルコトアラサリシカ、此全權近今次第一ニ滅絶スルノ時至レリ、

政務法事務ノ良善ナルヲ庶希セハ必ス之ヲ別種ノ法院ニ委托シ、且、別種特別ノ審理規律ヲ設ケ、之ニ由テ、審理セシムルヲ最要トス、佛國ノ政務法ハ、頗ル完備シ、且、其規則明亮確實ナルコト、大ニ他各國ニ超越ス、蓋シ政務法ヲ司レル法院ノ編制、殊ニ宜シキヲ得ルカ爲メナリ、

方今獨乙各國ノ如キハ、政務官直ニ此法ヲ司ルカ故ニ、公權ヲ有スル會社、及ヒ私人ヲ保護スルコト充分ナラス、且動モスレハ、政務官私意ヲ以テ、處分スル等ノ弊害アリ、○然ルニ、若シ元來私法ノミチ司レル訴訟

法士ヲシテ兼テ政務法ヲ司ラシムレハ、必ス二個ノ弊害ヲ生スヘシ、何者、此法士ハ、政務法ニ係レル事ノ實ニ公事ナル所以ニ注思セズシテ、動モスレハ、徒ニ私法ノ規律ヲ遵守シ、誤リテ公事ヲ害シ、或ハ此法士、政務法事務ニ於テ、必要ナル自由ノ思慮考按ヲ取テ、遂ニ之ヲ其本務ナル訴訟事務上ニ移シ、以テ訴訟事務ヲ害スルノ患ヒアレハナリ。

⊖〔按〕訴訟審理ノ如キハ、偏ニ法ヲノミ、遵守スヘキヲ當然ナレド、政務法ニ係レル審理ニ至リテハ、素ト法ヲノミ、遵守スヘキニアラズ、必ス其事ノ便益ナルト否トナモ、併セテ注思セサル可ラス、故ニ此審理ヲ掌レル法士ニハ、必ス自由ニ思慮考按スルヲ許ス、甚ダ緊要ナリ、然ルニ訴訟法士ヲシテ、政務法ニ係レル審理ヲモ兼掌セシムルキハ、自ラ之ニ習慣シテ、知ラス覺ヘス、訴訟審理上ニモ、亦自由ノ思慮考按ヲ施スノ恐れナキ能ハサルナリ、

政務法院ヘルワルツンノ編制ニ就テモ、其法ニ通曉セル官吏ト、及ヒ民

間ノ私人トヲ合スルキハ、大ニ益アリ、殊ニ初等法院〔按〕下ニ於テハ、最

モ然リトス、佛國ニ於テハ、〔按〕即官吏ナリ、ナル者、此法院ノ首領ニ

シテ、民間ノ私人數輩、〔按〕商議者ナリ、トナリテ之ニ列

ス、又大公爵國ゴロースヘルナルバードンニ於テハ、官吏ナルベナルク

サムトマント、民間ノ私人ナルベナルクステート〔按〕即商議者ナリ、ト相合シテ、

政務法事務ヲ掌ル、○但シ上等法院ノ如キハ、佛國ニ於テハ、議政官スタ

ト、〔按〕卷之七、第六款ニ詳ナリ、分課ヲ以テ、之ニ充テ、又バードンニ於テハ、別ニ一種

ノ政務法院〔按〕即上等ナリ、ヲ設置ス、

第六款

司法ノ疆域ギーグレンツ、デル、ゲヘルワルツングスス、トライナグカイト、○政務法ニ屬スル爭論、

近今ニ及ヒテハ、政府ト法院ヲ區分シテ、法院ヲ政府ノ管内ニ歸セサルヲ以テ、其制度ト爲シ、且政府自由ニ其能力ヲ及ボス所ノ區域ト、法院ノ

八ノ下三〇

其務メテ施設スヘキ區域トテ、嚴ニ分畫スルヲ甚切要ナリトスルニ至
 レリ、然ルニ太古及中古ニ於テハ、此分畫ヲ立ルノ緊要ナル所以ヲ、十
 分ニ悟得セザリシカ故ニ、太古ニ於テハ、政令ト司法ヲ合併シテ、全ク一
 個ノ者トナシ、又中古ニ於テハ、政府ヲ以テ、適ニ法院ト同一ナル者ノ如
 クナセリ、○但今時ニ於テモ、此ノ如キ分畫ヲ爲ス、決シテ容易ナリト
 謂フ可ラス、蓋政府ト法院ノ區域ヲ綿密ニ分畫セント欲スルニ方リテ、
 政府ニ屬シテ可ナルヤ、將法院ニ屬シテ可ナルヘキヤ、儘決シ難キ部分
 アリ、是故ニ其區域ノ分線ヲ畫スル、人々皆異ニシテ、甲ハ此處ニ於テシ、
 乙ハ彼處ニ於テシ、丙ハ又他處ニ於テシ、其他人々學術業務ノ相異ナル
 ニ隨テ、分畫ノ論更ニ大イニ異ナリ、是ヲ以テ法院ノ徒ト、政府ノ徒ト、其
 論全ク一致スルハ、甚々容易ナラス、○法院ノ徒ノ所見ハ特ニ一個人ノ
 指シム、〔按〕即各個人ノ權利〔按〕即私法ニ屬シテ主要トナスカ故ニ、苟
 ノ人ヲ指シ云フナリ、權利スル權利ナリ、チ主要トナスカ故ニ、苟
 シモ私法ヲ侵犯スル處分、若クハ論說アルヲ知ルキハ、則チ直ニ私權利ヲ

八ノ下三一

損害スルト視做シ必ス常ニ之ヲ保護セサル可ラスト爲ス、然ルニ政府ノ
 徒ハ、之ニ反シテ特ニ國家ト、及ヒ國家ノ權利トニ著意シ、實ニ公衆ノ安
 寧ヲ增益スルノ事ニ至テハ、一モ遺策ナク、悉ク之ヲ遂ケント欲ス、故ニ
 一個人アリテ、苟クモ其權利ヲ主張シ、政府ノ命令ニ抗スルキ、及ヒ法院
 亦此一個人ノ權利ヲ保護セント欲スルキハ、乃チ直ニ斥シ、以テ國家ノ
 威嚴ヲ侮瀆シ、其權力ヲ阻攔スルノ所行ト視做シ、常ニ嚴ニ之ヲ禁セント
 欲ス、○又法院ノ徒ノ通見ハ、凡ソ法ニ係レル諸爭訟ハ、全ク法院ノ裁斷ニ
 屬スヘキ者ニシテ、而シテ政務官ノ裁斷ニ屬スヘキ爭訟ハ、罕レニ之レ、ア
 リト爲ス、是ヲ以テ此徒動モスレハ、一個人ノ縱ニ政權ニ抗爭シテ、其施
 行ヲ阻攔シ、及ヒ此權ノ區域ヲ減縮セント欲スルノ非理ニ屬スル所以ヲ
 忘失シ、及ヒ政府ノ區域モ、亦法院ノ區域ノ如ク、常ニ確定スル者ニシテ、此
 區域ハ議論生シテ、而後ニ始メテ生スル者ニアラサル所以ヲモ忘失ス、
 然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ、常ニ謂ラク、苟モ國家ニ關セルコトハ、政

八ノ下二三

務官獨リ專ラ之ヲ裁斷スヘキヲ固ヨリ當然ニシテ唯罕レニ之ヲ法院ニ托スルヲアルノミト、○以上諸論皆非ナリ、凡ソ法院及ヒ政府ノ裁斷共ニ必ス常ニ確定スル所ノ區域アリテ、各之ヲ確守スヘキ者ナルカ故ニ互ヒニ他ノ職掌ヲ以テ唯罕レニ之レアリトナスカ如キハ、甚ク不可ナリ、元來政府ト法院ト相岐分スル所以ノ理勢ニ注意シ、及其本性ノ全ク相異ナル所以ノ理趣ニ著眼シテ熟思スルキハ、其區域相分カル、所以ノ理モ亦當ニ明亮ナル可シ、佛國ニ於テハ一千七百八十九年寛政元年顛覆起ルニ方リテ、法院ノ掌ルヘキ裁斷ト、政務官ノ掌ルヘキ裁斷トヲ以テ、全ク相分割シタリ、此國ハ從來司法議院ゲリヒトリヘス、ナル者政務官ノ掌ルヘキ裁斷ニ參預スルノ制アリシカ、此顛覆ノ際ニ至リ、國家從來ノ制度ヲ全ク破壊シ、更ニ之ヲ一新スルヲ以テ至急ノ務トナシ、加之公衆ノ安寧ヲ謀ルヲ以テ至高ノ法トスルノ論、更ニ其間ニ生スルニ隨ヒ、此制ヲ以テ、愈、有害ノ者トナスニ至レリ、是ニ於テ、顛覆黨ノ暴威ヲ以テ、

八ノ下三三

法院ノ過強權ヲ挫折スルノ勢力非常ニ増加シ、遂ニ一千七百九十年寛政二年ニ於テ左ノ憲法ヲ示令セリ、曰ク「政務ノ處分、縱令ヒ如何ナルモ、法士敢テ之ヲ障礙スルヲ許サス、且ツ政務官吏ノ奉務、縱令ヒ如何ナルモ、決シテ之ヲ法院ニ召スヲ許サス」ト、○是ニ於テ訴多ノ獄訟ヲ舉テ、政務官ノ裁斷ニ歸シ、及ヒ實ニ法院ノ管轄ニ屬スヘキヲナモ、之ヲ法院ヨリ奪ヒ、以テ政務官ノ裁斷ニ托スルニ至レリ、且ツ那破倫〔按〕第一亦法院ヲ以テ、政令ノ大障礙スル者トシ、愈、法院ノ權力ヲ減損シ、以テ政務官ノ權力ヲ増大セシカ故ニ、政務官ノ掌ル裁斷ノ區域、遂ニ頗ル寛宏トナレリ、○然ルニ獨乙ニ於テハ其法學ノ旨、殊ニ私權利ヲ敬重スルヲ主ト爲スカ故ニ、憲法ノ制立、及ヒ實地ノ處分共ニ、其爲ス所、全ク佛國ト相反セリ、而シテ人民ノ權利、及ヒ其自由ノ權ハ、法院ノ管轄ニ屬セシムルキハ、大ニ堅確ヲ得ルカ故ニ、愈、法院ノ權力ヲ盛大ニ爲スニ至レリ、蓋シ良好ノ處置ト云フ可シ、去レヒ此事又甚クシキニ過キ、實ニ國家ノ權ヲ以テ、裁

八ノ下三四

斷セサル可テサル事件ヲモ、併セテ法院ノ管轄ニ歸シケレハ、遂ニ大イ
 ニ政府ノ權ヲ減削スルニ至レリ、是レ即チ法院ノ權ノ微弱トナルヲ矯
 メント欲シテ遂ニ又政府ノ權ヲ屈撓セシメシナリ、
 凡ソ政府ハ公衆ノ安寧ヲ保持シ、及ヒ之ヲ增長スルヲ以テ、其主務トナシ、
 法院ハ國內一個人〔私人〕ノ上ニ在テ、國家ノ正義公直ノ旨ヲ施行スル
 ナリ、其主務ト爲ス者ナリ、是故ニ政府ノ議判指令ハ、其旨常ニ國家公
 衆ノ爲メニスルヲ歸ト爲シ、法院ハ殊ニ私人ノ私權利ニ屬スル者〔私
 法〕ヲ保護シ、及ヒ不正ノ所行ヲ爲セル一個人アルニ方リテハ、必ス之ヲ
 刑シ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ著ス〔刑法〕ヲ以テ本旨ト爲ス、故ニ法
 院ノ職掌ハ必ス私人ニ對向スル者ナリ、今更ニ他ノ語言ヲ以テ、政府ノ職
 掌ト、法院ノ職掌ト相異ナル要旨ヲ述ヘン、凡ソ國家ノ法ニ係レルコトハ、
 政府宜シク之ヲ掌ル可ク、又私人ノ法ニ係レルコトハ、法院宜シク之ヲ掌
 ル可シ、○國家ノ法ニ係レルコトハ、必ス公衆ノ安寧ニ著意スルノ緊要ナ

八ノ下三五

ル所以ヲ失フ可ラス、從來ノ法ハ、通例唯政令ノ規律限制ナルノミ、故ニ
 決シテ其政令ノ精神ト稱スルニ足ラス、〔按〕法ハ唯規律限制ナルノミ、
 ノ安寧ヲ謀ルニ足ラズ、又私人ノ權利ハ、偏ニ正義公直ノ旨ニ由テ、判定スル
 ラスト云フノ意歟、又私人ノ權利ハ、偏ニ正義公直ノ旨ニ由テ、判定スル
 ナ貴フ、若シ此權利ノ判定ニ就テ、兼テ亦公衆ノ安寧ニ著意スルキハ、却テ
 害アリ、〔按〕公衆ノ安寧ニ著意スルキハ、縱令決シテ正義公直ヲ傷ハサ
 フナ、是即眞誠ナル國法〔按〕博ク國法ト云フキハ、政務法、刑法、亦其中ニ
 務法、及ヒ刑法ノ性ト私法、刑法ノ性ト、全ク相異ナル所以ナリ、○唯眞誠
 ナル政務法〔第五款ヲ參看ス可シ、〔按〕第五款〔己〕符ニ見ユ、即チ狹義〕ノ如キ
 ハ、私刑兩法ノ中間ニ位シテ、此兩區域ニ關涉スル者ナリ、何者、公法〔按〕
 政務法ト、及ヒ公衆ノ安寧トニ兼テ著眼スルコトハ、一個人ノ身上ニ在テモ、
 決シテ矛盾スル所ナク、并ニ公衆ノ爲メニモ、亦決シテ害ナキカ故ニ、政
 務法ノ判定ニ就テハ、先ツ規律、憲法〔按〕私法及ヒ刑ニ著意シ、而シテ後公衆
 ノ安寧ニ著意スルヲ以テ、甚ダ緊要トナセハナリ、〔按〕是レ即チ政務法ノ國法
 及ヒ私法、刑法ノ中間ニ位

スル所
以ナリ、

八ノ下三六

前條論スル所ノ原則ヨリ、左ニ舉クル數件ノ規律ヲ生ス、

〔第一〕國家ノ高尊ナル權利ツレハ、決シテ法院ノ管内ニ屬スル者ニ
アラス、故ニ高尊權利ニ係レル爭論ノ如キ、凡ソ其當然ノ區域内ニ屬ス
ル者ハ、必ス政務官之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ警保權、兵權及ヒ其他諸
權柄ノ如キ、其當然ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ屬スルヲナシ、故ニ
法院ハ止一個人ニ對シテハ、能ク其權ヲ施行スト雖モ、以上諸權柄ニ對シ、
決シテ其大權ヲ施行スル能ハサルナリ、○是故ニ政府ハ其政權ヲ施行ス
ルニ於テ、決シテ法院ノ權威ノ爲メニ、阻攔セラル、者ニアラス、政府ノ
指令スル事ノ正ト不正ト、及ヒ要ト不要ト、或ハ其處分ノ公ト不公ト、及
ヒ當ト不當トニ至テハ、政府自ラ之ヲ裁定スルコト當然ナル可ク、法院
モ亦其職掌區域内ノ事ニ於テハ、自ラ之ヲ裁定スルコト、全ク政府ニ異
ナラサル可シ、○國家ノ諸權柄ニ係レル爭論アルニ方リテ、一個人若シ

此制度亦政府ノ廢棄スル所ヲサル制度ヲ云、
ナ拒ムカ爲メニ、法院遂

ニ警保權及ヒ兵權ノ處分ヲ阻攔スルニ至ルコトアルキハ、政府ハ唯其當

然ノ區域内ニ於テスラ、尙ホ法院ノ管下ニ在ルカ如クナリテ、其權力之

レカ爲メニ減削セラレ、殆ト其要務ヲ施ス能ハサルニ至ルハ必然ナリ、

〔甲〕然ルニ此常法外ノ事、復緊切ナルコトアリ、例ヘハ某爭論ハ法院ノ裁

斷スヘキ所ナルヤ、若クハ何レノ法院ノ裁斷ニ任スヘキヤ、之ヲ判決ス

ルハ、全ク國法ニ係レル處分トス可シ、決シテ私法ニ係レル處分ト爲ス

可ラス、何者、此ノ如キ決定ハ、全ク國憲ニ由ルヲ以テナリ、○但シ法院若シ

立ノ權アレサレハ、國家ノ正義公直ノ旨ヲ司ル、甚能クシ難キヲ以テ、獨

府ノ手ヲ假ラス、自己ノ職掌區域ヲ確定シ、而シテ此區域内ニ於テハ、十

ニ自己ノ權力ヲ用フル、甚タ緊要ナリ、是故ニ此二權柄〔按〕政府ト法

自己ノ意ニ隨テ、其區域ヲ畫定スルノ權力ヲ有ス、

七三下ノ八
是故ニ時アリテハ、政府ト法院ト、其職掌區域ニ就テ、互ヒニ爭フコトアリ、

八ノ下三八

今一事起ルニ方リ、政府ハ以爲ヘラシ、此事ニ就テ緊要ナル指令ヲ施シ、且ツ此レヨリ起レル爭論ヲ裁斷スルハ、全ク自己ノ本務ナリト、然ルニ法院ハ又以爲ヘラシ、此爭論ハ己ノ審理ノ規律ヲ以テ判定ス可キト當然ナリト、政府法院斯ク互ヒニ其職掌ニ就テ相争フコトアリ、之ヲ職掌ニ係レル陽争ボシチニシテ、コムベテト云フ、或ハ又一事裁斷スヘキト起ルニ方リ、政府法院各其裁斷ヲ以テ、當ニ自己ノ掌ルヘキ者ニアラストシ、互ヒニ相推諉スルコトアリ、之ヲ職掌ニ係レル陰争ネガチニシテ、コムベテト云フ、

然ルニ政府法院ハ、併ニ獨立自行スル者ナルカ故ニ、互ヒニ此ノ如キ爭論ヲ裁判スルノ權ナシ、是故ニ國憲ニ隨テ、此爭論ヲ裁判セント欲セハ、必ス別種ノ一大權アリテ、之ニ臨マサル可ラス、而シテ此一大權ハ、必ス此二權ノ上ニ位シテ、絶エテ拘制セラレサル者ニアラサレハ決シテ能ハス、今若シ此一大權ヲ以テ、立法府ニ托スレハ、甚益アルカ如シト雖モ、元來

八ノ下三九

此類ノ裁判ハ、從來ノ定則トナルヘキ者ヲ、設定スルニアラサルカ故ニ、當然立法府ノ掌ルヘキニアラス、何者、通例立法府ハ、時ニ臨ミ事ニ應ジテ、實際ニ切要ナルコトヲ處分スヘキ者ニアラス、且ツ此ノ如キ爭論ニ至テハ、多クハ事態錯綜セル者ナレハ、能ク其情實ヲ探索シテ、判定ヲ施スカ如キハ、決シテ立法府大會ノ爲シ得可キ所ニアラサレハナリ、○國家元首ハ、諸國權相聚合會同スル所ノ尖頭ナルヲ以テ、此ノ如キ裁斷ヲ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリト云フ可シ、去レモ若シミニステルヲシテ、之ニ參預セシムルキハ、ミニステルハ即チ政府ノ長官ナルヲ以テ、現ニ相争競スル兩權ノ一ナル政府ヲシテ、其爭論ヲ裁斷セシムルノ理ナリ而シテ、政府ノ權、此ノ如ク偏重トナルキハ、法院有スル所ノ獨立自行ノ權、并ニ決シテ拘制セラレサル者、宜ク裁斷ス可シト云フノ規律、共ニ全ク有名無實ニ歸スルニ至ル、○是故ニミニステルヲシテ、國家元首ノ裁斷ニ參預セシムル規律ヲ用ヒス、或ハ議政官此官ハ能ク事ニ老練スル者ニ

八ノ下四〇

シテ且ツ日常ノ政令ニ關係セサル者ナルカ故ニ裁斷上ニ於テ能ク公正至當ノ處分ヲ爲スニ足ル必然ナリ)ヲシテ元首ノ裁斷ヲ匡輔セシム或ハ政官ト法士トヲ合シテ一局ヲ設ケ以テ元首ノ裁斷ヲ匡輔セシムルキハ政府ノ權偏重トナリテ遂ニ法院ノ獨立自行ヲ妨害スル等ノ患ヒアル可ラス、

[乙]ヒスクス〔按〕國家ノ事ヨリ爭訟起ルニ方リテ法院之ヲ裁斷スルノ法モ亦常法外ニ屬スルカ如シ〔按〕前〔第一〕ニ國家ノ高尊ナル權利ハ決シテ法院ノ管轄ニ屬セス云々ノ常法ニ戻レルカ如シト去レハ國家ノ所有ハ素ト私法ニ屬セル者ニシテ絶エテ公法ニ係レル者ニアラサレハ此法決シテ實ニ常法外ニ屬スト云フ可ラス凡ソ國家タリハ其所有ニ就テ見ルキハ全ク一個ノ私人ト相異ナラス、國家果シテ一個ノ私人タルキハ眞ノ私人ト同シク法院ノ管下ニ屬シテ其裁斷ヲ受シヘキヲ固ヨリ當然ニシテ決シテ法院ト相並立スルノ權ナシ、

八ノ下四一

但、國家所有ニ係レル權利ハ概シテヒスクスノ法〔私法〕ヲ以テ論スヘシト云フニハアラス、國家其臣民ヨリ取ル所ノ租稅ノ如キニ至テハ實ニ私人ノ所有ヨリ出ル者ニシテ全ク錢財ニ係ルカ故ニ此公權利〔按〕即チ租稅ノ如キハ通常ノ諸公權利ト異ナル所アルハ固ヨリ辨テ俟マス、去レハ國家其臣民ヨリ租稅ヲ取ルノ權利ハ債主ノ負債者ニ對セル私權利トハ全ク異ニシテ國家實ニ臣民ノ上ニ在テ施行スル所ノ權柄ナリ、是故ニ租稅収取ノコトニ就テハ國家ハ全ク上ニ在リテ十分ニ臣民ヲ馭スルノ權利ヲ握ル決シテ臣民ト並立シ其對手トナリテ法院ノ裁判ヲ受クルノ理アル可ラス、○是故ニ或ハ租稅収取ノ規律公正至當ナリヤ否或ハ臣民中某品位宜シク納稅ノ義務ヲ負フヘキヤ否或ハ私人所有ノ中ニ就テ此種類ニ租稅ヲ命スヘキヤ將彼種類ニ租稅ヲ命スヘキヤ等ノコト若シ決定シカタクキハ臨ミ之ヲ裁判スルハ決シテ私法ノ事務ニアラス、全ク公法ノ事務ナリ故ニ政務官宜ク之ヲ裁判スヘキ固ヨリ當

然ト云フ可シ、〔政務法官之ヲ裁判スレハ、更ニ良シトス、〕○政府或ハ取税ノ權利ヲ恣行シテ、虐政ヲ施シ、遂ニ臣民ヲ困シムルノ恐レアルヲ以テ、租税ノ規律ヲ設定スルノ初、預メヤニリ〔按〕即チ若クハ民間ニ於テ、其事ニ練熟セル者ヲ選テ、共ニ之ヲ商議セシムレハ、則チ大ニ善シトス、

但、又租税ニ係レル争訟ト雖也、或ハ又私法事務ニ屬シテ、其官ノ判定ニ從フヘキ者アリ、即チ其争訟租税ノ理、及ヒ其收取ノ規律ニ關係ナク、〔即チ其争訟、國家取税ノ權柄上ニ關セス、〕唯一私人ノ所有物上ニ就キ、實ニ租税ヲ命スルニ足ルヤ否ヲ、判決スルコト緊要ナルキニ於テハ、訴訟法士之ヲ掌ルコト當然ナリ、例ヘハ一私人或ハ自ラ論シテ、吾カ所有品ハ、一ツモ租税ヲ納ムヘキ品種ニアラスト云ヒ、或ハ吾レハ貧ウシテ、未タ租税ヲ納ムルニ足ルヘキ所有アラスト云ヒ、以テ納税ノ義務ヲ免レント欲スルキノ如キハ、其論私法ノ事ニ係ルヲ以テ、必ス法院ヲシテ之ヲ判決セシメサル可テサルナリ、○但、或ハ私人縱ニ自論ヲ主張シ、以テ大ニ國家

取税ノ權ヲ侮瀆スルニ至ルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ、必ス別ニ此事ヲ判決スルニ適當セル審理規律ヲ設立シ、以テ國家ノ取税權ヲ保護スルハ、實ニ緊要ナリト雖也、此等ノコトヨリ起レル争訟ヲ判決スルハ、決シテ國法ニ屬セサルヲ以テ、全ク法院ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、〔丙〕又警保官其處分ヲ私法上ニ施シ、以テ私權利ノ自由ヲ限制スルコトアリ、但シ警保官ノ處分ヲ爲スニ於テ、能ク憲法ニ遵フヤ否、或ハ其規律ヲ守ルヤ否、又ハ其處分ノ事理實ニ緊要ニシテ、且ツ公正ナリヤ否等ノコトハ、全ク國家ノ公權利ニ係レル事ニシテ、私法ニ屬セサルカ故ニ、是等ノコトヨリ起レル争訟ヲ判決スルハ、決シテ法院ノ掌ル所ニアラスト雖モ、若シ警保官ノ處分スヘキ私事ニ就テ、争訟ノ起ルコトアルキ、即チ例ヘハ警保官一個人ニ對シ、汝ハ家主ナリ、汝宜シク汝カ屋舎内ニ於テ、火災ヲ生シ易キ物ハ、悉ク除去スヘシ、ト云ヒ、或ハ「水ノ流通ヲ便ニスルコトニ注意スヘシ、」ト警ムルニ方リ、一個人敢テ警保官ノ指令ヲ承諾セサル

ニハアヲサレテ、其身元ト家主ナラサルノ故ヲ以テ、此指令ヲ遵奉セサ
カ如キハ、全ク私法ニ屬セル爭論ト云フ可シ、故ニ此判決ハ必ス法院ノ
掌ルヘキ事件タル、固ヨリ當然ナリ、

〔丁〕私有ヲ收取シテ、國家ノ有トナスコト、エキスプロパ
私法上ニ關スル所アリ、
ヨリアチオン、ヨリ起レル爭論モ、

但、此爭論ニ就テモ、國家ノ權ヲ以テ爲スヘキコトヨリ起レルモノハ、總テ
政府ノ處決ニ屬スト雖モ、唯此收取ノ爲ニスル償金ノコトヨリ起レル爭
論ハ、必ス法院ノ判決ニ屬スルナリ、
款ヲ參看ス可シ、

〔第二〕國家ノ高尊權利ヲ私人ニ授與シテ、私人ノ權利トナセシヨリ、此
權利乃チ純粹ノ公權利タル所以ヲ失ヒ、而シテ私權利ノ一トナレリ、
是故ニ此權利ヲ授與セラレタル私人ト、他ノ一私人トノ際ニ、權利ノ爭
論生スルキハ、法院必ス之ヲ裁判スルコト當然ナリ、○即チレガリテ、
造幣、驛遞、證印等、其他諸種ノコトヲ掌ルノヨリ出テ、政府ニ其私權利トシテ
特權ナリ、卷ノ十第三款ヲ參看スヘシ、

〔按〕政府

授托セアレタル諸種ノ權利、殊ニ此區域ニ屬ス、其他國家時アリ、一個人
ニ特權ヲ授與シテ、一種ノ公義務ヲ赦免スルコトアリ、即チイム、ニテ、
〔按〕兵事ニ役仕シ、或ハ職官ヲ奉務、及ヒ納稅ノ自由、
免ナル、自由ヲ云、
此區域ニ屬ス、

中古ノ一ヘンスシステム、〔按〕封建
ノ制ヲ云、アリシ世ニ於テハ、總テ公權利ト私權利

ヲ混淆セシガ故ニ、國家ノ高尊權利ヲ以テ、屢々私人ニ授與スルコト之
アリキ、然ルニ輒近ハ、大イニ此二權利ヲ分カチ、眞誠ノ私權利ヲ以テ、全
ク私人ノ權利ト爲スヲ貴ヒ、而シテ總テ國家ノ高尊權利ニ係レルコトハ、
終始國家ノ掌中ニ在リテ、私人ノ手ニ移傳セサルヲ貴フニ至レリ、是故
ニ今時ハ此ノ如キ規律、〔按〕國家ノ權利ヲ、私
人ニ授與スルヲ云、
人ニ用フルノ區域、大ニ減縮
セリ、

〔第三〕眞誠國法ノ區域ハ、決シテ私法院ノ管轄ニ屬セサルカ如ク、私法
ノ闔域ハ、又決シテ政府ノ管轄ニ屬セス、全ク私法院ノ管轄ニ屬スルナ

リ、凡、私法ノ區域ニ屬セルコトニ就テ、爭論起ルニ方リテハ、全ク正義公道ノ旨ニ由テ、之ヲ裁判ス可シ、決シテ、國家ノ意旨ヲ以テ、之ヲ裁判スルヲ許ス可ラス、何者、私法ノ事ハ、絶エテ、國家ニ屬セス、唯私人ニ屬スル者ニシテ、國家ハ、唯私人ヲシテ、其權利ヲ保有セシムルノ務メヲ負フノミナレハナリ、

素ト實ニ私法ニ屬スヘキコト、明亮ナル者ト雖モ、時アリ、疑惑ノ生スルコトアリ、宜シク考思セサル可ラス、即チ茲ニ一個人アリ、他人若クハ國家ヨリ、償金ヲ取ルノ權利有テ、之ヲ要求スルカ如キハ、全ク私法ニ屬スヘキコト、其理其事ニ於テ、全ク瞭然タリ、敢テ辨テ費スヲ要セス、是故ニ之ヲ判定シテ、其曲直ヲ決スルハ、必ス私法院ノ掌ルヘキコト當然ナリ、○私人償金ヲ要求スルノ曲直ハ、判定ヲ施スニ於テ、最モ著意セサル可テサル所ナリ、去レドモ法院此判定ヲ掌ルコト、當然ナルヤ、將政府之ヲ掌リテ當然ナルヤト云ヘルコトニ就テ、議論ノ生スルコトナキニアラス、例ヘ

ハ政府私人ノ租稅ヲ徵スニ、或ハ憲法ノ規律ニ由ラス、又警保官或ハ恣ニ私人ノ工業ヲ障礙シ、之ヲシテ損失ヲ蒙ラシムルコトアルヲ以テ、私人政府ニ要シテ其ヒスルコト、〔按〕政府ノ所有ナリ、ヨリ償金ヲ取ラント欲スルキ、若クハ一個人其身官吏ニ列スルヲ以テ、他ノ一個人ニ對シテ、不正ノ所行ヲナシ、以テ之ニ損害ヲ與フルカ故ニ、乙ノ一個人、〔按〕損害ヲ受ケタル者、甲ノ一個人〔按〕損害ヲ與ヘタル者、ニ對シ、償金ヲ要求スルキノ如キ兩件アルニ方リテハ、之ヲ法院ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、將政府ノ判定ニ任スル當然ナルヘキヤ、○或ハ、此ノ如キ時ニ於テ、若シ法院ノ職域ヲ傷ハサラント欲シテ、專ラ之レカ爲メニ謀ルキハ、自ラ政府ノ職域ニ害ナキ能ハサルニ非スヤ、或ハ又此ノ如キ判定ヲ以テ、專ラ政府ノ職域トナシ、法院ニ托セスシテ、全ク政府ニ托スルキハ、凡、何等ノコトヲ以テ、定メテ法院ノ判定スヘキコト爲スヘキヤ、○凡、此ノ如キ諸論起ルキハ、政府及ヒ法院ノ職域、遂ニ至當ヲ失ハントスルノ恐レアリ、何者、或ハ法士ノ議論ニ由テ、私人ノ爲メニ謀

リ、務テ法院ノ職域ヲ寛濶ニナサント欲シ、或ハ憲法ヲ制立シ、或ハ議論ノ可否ヲ裁定シテ、當然法院ニ屬スヘキ職掌ヲモ、尙奪フニ至ルコトアルハナリ、

前條論スル所ノ如キハ、純乎タル私權利ト、純乎タル公權利ト、交互關係シテ、宛カモ原因ト成果トノ如クナルカ故ニ、遂ニ此ノ如キ紛論生スルニ至ルナリ、去レ私權利ニ屬セルコトハ、法院必之ヲ裁判シ、公權利ニ屬セルコトハ、政府必之ヲ裁判スヘキヲ以テ、當然ノ原則トナスヲ、常ニ忘失セスシテ、之ニ謹遵スルキハ、此論ヲ決スル、蓋シ甚難キニアラス、凡ソ私人ヒスクスヨリ償金ヲ取ラントテ要スルキハ、ヒスクスハ必私法院ノ裁判ヲ受クヘキコト、固ヨリ當然ナリ、〔按〕ヒスクスハ、國家ニ屬スル物ト雖モ、唯是レハ、縱令ヒ私人ヒスクスノ爲ニ、損失ヲ受ケシ時ニアラスト雖モ亦然リトス、其他一私人、他ノ私人ヨリ償金ヲ要求セラル、キハ、亦必私法院ノ裁判ヲ受クヘキコト、固ヨリ當然ナリ、縱令一私人官吏ニ列スルキト雖モ亦

然リ、○但シ私人訴訟ヲ以テ、償金ヲ要求セント欲スル時ト雖モ、若シ被告者ノ所行、故テニ私人ノ私權利ヲ毀損セシニアラス、被告者唯政府ノ官吏ナルヲ以テ、特ニ私人ニ對シ其職官當然ノ權柄〔按〕職官ニ就テ授與ヲ施行セシコト、審理ノ時ニ於テ、明瞭トナルキハ、是等ノコトハ、通例容易ニ明瞭トナルナリ、決シテ原告者ニ償金ヲ與フルノ理ナキヲ以テ、此ノ如キ訴訟ハ、總テ之ヲ黜ク可シ、然ルニ若シ官吏或ハ誤リ、或ハ故テニ其職權ノ區域ヲ超過シテ、私人ノ私權利ヲ毀損セシコト、審理ニ於テ明瞭トナルキハ、私法院務メテ原告者ヲ保護シ、其毀損セラレタル私權利ヲ回復セシメ而シテ原告者ヲシテ、被告者ヨリ相當ノ償金ヲ取ラシムルノ權利ヲ有シ、且ツ其義務ヲ負フナリ、凡ソ此ノ如キキニ臨ミテハ、法士必ス唯私法ニ就キ、及ヒ私法ニ依テ、判定スルナリ、○然ルニ又時トシテ一私人ノ所行ヲ判定シテ、或ハ私法ニ背戻セル所行ト爲ス者アリ、或ハ唯公權利ノ施行〔按〕私法ニ背戻セル所行ニアラス、トナス者アリテ、其判定二種ニ分

カル、コナキニアラズ、而シテ此ノ如キコト判決スルハ、固ヨリ政府ノ職掌ナレハ、其判決ノ權、宜シク政府ノ掌中ニ有ル可シ、即チ是レ法院ノ職權ハ、必ス法院ノ掌中ニ有ル可キト、至ク同一理ナリ、○此ノ如キ爭論ハ、兩私人ノ間ニ起ラス、却テ政府ト法院トノ間ニ起ル者ナレハ、必爭論審理〔按〕爭論ノ當否ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ、去レ此裁判タルヤ、常理ニ於テハ決シテ難キニアラス、凡ソ此ノ如キコト裁判スルハ、必政府ノ職掌ナレハ、政務官若クハ政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムヘシ、私法院ハ此裁判ニ預ルヲ得サル、固ヨリ當然ナリ、但シ時アリ政務官ノ專恣ヲ預防セシカ爲ニ、憲法ヲ以テ常法外ノ處分ヲ爲スコトアルハ、此限ニアラストス、

〔第四〕國家ニ屬セル權利ハ、國家之ヲ施行スルヲ以テ通則トス、去レ其
中ニ就テ、一個人ニ屬セル公權利、及ヒ一個人ノ意ニ任セテ行止スヘキ
公權利〔即チ兼テ公義務ヲササル者ヲ云フ〕ノ如キハ、此通則ヲ以テ概論

ス可ラサル者ナリ、故ニ此類ノ公權利ハ、次第ニ私權利ニ近似スル者ト云フ可シ、

例ヘハ第一類ノ公權利〔按〕前條一個人ニ屬トハ、貴族ノ權利、パイルス

兩院議員ノ權利、兵役ニ奉事スルノ義務、一種ノ職官ヲ奉承スヘキ義務

〔按〕諸職官中ニ就テ、臣民必ス奉セサル可ラサチ云ヒ、〔按〕是等ハ皆私人

ル者アリ、即チ邑官、或ハ之ニ類スル官等ヲ云フ、トハ、元選者ユール

リ、又第二類ノ公權利〔按〕前條一個人ノ意ニ任セテ、トハ、元選者ユール

ル〔按〕立法府ノ議員ヲ選擇スルニ、兩回選擇ノ法ヲ用ノ發言權利、ムレ

フル〔按〕國アリ、其第一回選擇ヲ掌ル者ヲ、元選者ト云フ、ノ發言權利、ムレ

ヒト〔按〕選擇ノ商議ニ發言ノ國家ノ官吏ニ選擇セラル、ノ權利、新聞ヲ

シテ、其意ヲ述フル權利ナリ、國家ノ官吏ニ選擇セラル、ノ權利、新聞ヲ

公布スルノ權利、公事ノ集會ニ列スルノ權利等是レナリ、〔按〕是等亦公權

義務ヲササルヲ以テ、其行止、○以上諸權利ハ、純乎タル公權利ノ性ヲ得

本人ノ意ニ任セテ妨ケナシ、ルニ從テ、其國權ニ屬スルコト亦愈嚴ナリ、然ルニ此諸權利、若シ私權利ニ近

似スルキハ、法院之ヲ保護スヘキコト、最モ當然ナルノミナラズ、且、選擇ノ

自由、〔按〕議員ヲ選擇スルノ自由ト云フ義ニシテ、選擇者タル者、絶エテ政

府ノ爲メニ壓制セラル、コナク、唯衆議ニ隨テ自由ニ選擇シ得ル

八ノ下五二

フ、云及出版ノ自由ヲ保全スルカ如キニ至テハ、必^ズ法院ノ保護ナカル可
ラス、但^シ政務法院專^ラ此諸權利ヲ保護スルハ、更ニ良法トナス可^シ、
〔第五〕儘又公私相混淆スル制度、及^ヒ法アリ、此制度ト法トハ、例^ヘハ猶其
一足チ私法ノ區域ニ留メ他ノ一足チ國法ノ區域ニ入ルカ如ク相似タリ、
是ヲ以テ、此制度及^ヒ法タルヤ、政府ノ管轄ニ屬スル部分ト、及^ヒ法院ノ
管轄ニ屬スル部分トヲ以テ、綿密ニ區別スル^{コト}殆^ト難^シ、今特ニ左ノ諸件
ニ舉ル者、即^チ是^レナリ、

〔甲〕邑會、^{ゲマ}イ^ノテ、及^ヒ公事ノ會社ニ於テ、此ノ如キ制度及^ヒ法殊ニ多^シ、而シテ
公事會社ノ如キハ、古時ハ全ク私法ニ屬スル者ナリシカ、近今ハ大イニ
公法ニ係レル者トナレリ、凡^ソ邑ノ所有權利、或ハ促償、負債ノコトヨリ、生
スル爭論ノ如キハ、私法ニ係レル者ナルカ故ニ、邑亦法院ノ保護ヲ受^ク
ル權利ヲ有スルコト、又他ノ一私人ニ異ナラス、而シテ此ノ如キ爭論、邑ト
一個人トノ際ニ起リ、或ハ邑ト國家トノ際ニ起ルニ論^ナク、此理ハ總テ

八ノ下五三

相異ナル^{コト}ナシ、○但^シ邑ノ所有ハ元來全ク公衆利益ノ爲メニ備^フル者
ナルカ故ニ、政府其處分ヲ指令スルノ理ニ於テモ、純乎タル私事ヲ指令
スルノ理トハ全ク相異ナリ、故ニ政府公衆安寧ニ著意シ其權ヲ以テ、之
カ處分ヲ指令ス可^ク、且^ツ若^シ此所有ヨリ爭論ノ起ルアルキハ儘又其權ヲ
以テ之ヲ裁斷スル^{コト}アルヘシ、○二邑若シ自己ノ權力ノ區域、或ハ道路
橋梁ヲ修繕スヘキ義務等ニ就テ互ニ爭論ヲ生シタルキノ如キ、之ヲ審
理裁斷スルハ、政務官ノ職掌ナリ、而シテ若^シ政務法院ヲシテ之ヲ裁判セ
シムレハ、更ニ良好トス、但^シ道路橋梁修繕ノ^{コト}、專^ラ私人ノ掌ル者ニ係
レハ、乃チ此例ニアラス、其他一邑内、若クハ一會社内ノ衆員ト寡員ト、事
ノ可否ニ就テ、爭論ノ生スルニ方リテハ、其事當然國家ノ管轄ニ屬スル
者ナレハ、政務官若クハ政務法院、宜シク之ヲ裁判スヘシ、其事當然私法
ニ屬スル者ナレハ、私法院宜シク之ヲ裁判ス可^ク、○公事會社ノ編制、并
ニ創立、解散等ハ勿論、縱令純乎タル私會社ノ編制、創立、解散等ト雖^モ、其

八ノ下四五

事公衆ノ爲メニ利害アルヲ願思スルヲ必要ナレハ、則チ必ス政務官若クハ政務法院ノ管轄ニ屬スヘシ、例ヘハ證書會社〔按〕卷之六第十八ノ款臨監ノ章ニ出ツ、如キハ、縦令私會社ナリト雖モ、必ス其證書ノ實ニ確信ナルト否トヲ願思スルヲ緊要ニシテ、且ツ又獨リ政務官若クハ政務法官能ク之ヲ願思スルニ堪ユ可シ、但シ私會社ニ於テ、此ノ如キヲ緊要トナルハ、甚タ罕レナルノミ、

〔乙〕身分ノ關係スタンデスヘルヘルトニス、モ亦公就ノ二法ニ分屬ス、例ヘハ出生ノ兒童ニ就テ、爭訟起ルニ方リ、其兒正出〔按〕公然婚媾セル夫ナリヤ、將私生ノ間ニ生ル、チ云、ナリヤチ審判シ、及ヒ父ノ子ニ於ケル關係、親族互相

ノ關係、并ニ其族黨〔按〕例ヘハ父族、母族、伯叔甥姪等ノ諸類チ云、及ヒ其等階〔按〕例ヘハ本邦族中ニ等階等ニ就テ起レル爭訟ノ類ハ、實ニ私法ニ屬スルヲナルヲ以テ、法院ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリト雖モ、彼ノイオンゲナート、

〔按〕各人出生ノ地ニ國民權利、スタイッブルゲルレヒト、〔按〕及ヒ邑民於テ得ル權利チ云、國民權利、國事ニ關スルノ權利チ云、

權利ゲマインデブルゲルレヒト、〔按〕邑事ニ關スルノ權利チ云、ニ就テ起レル爭訟ノ如キハ、公法ニ屬スル者ナルカ故ニ、必ス政務官若クハ政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムルヲ良法ト爲ス、但シ此爭訟若シ唯出生ノ正私〔按〕正出私生チ云、ヨリ起レル爭訟ノ餘事ナルトハ、此例ニアラス、○國民ノ身分、專ラ私法ニ屬スル者ナルトハ、〔中古ノ世ハ殊ニ此ノ如クナリキ〕某私人當サニ此身分ニ屬ス可シト云ヒ、或ハ當サニ彼身分ニ屬ス可シト云フ爭訟ハ、從來ノ制度ニ由テ、必ス法院之ヲ裁判スルヲ掌ル、去レヒ、身分若シ專ラ國憲ニ關シ、公法ニ屬スル者タルトハ、身分如何ノヨリ起レル爭訟ハ、必ス政務官若シクハ政務法院ノ裁判ニ屬スヘキヲ固ヨリ當然ナリ、例ヘハ商賈ノ身分ハ、私法ニ關シテ法院ノ裁判ニ屬シ、貴族ハ、管ニ門閥ノ平民ニ超ユルノミナラス、又國家政令ノ事ニモ參預スルヲ得ル國ニ於テハ、身分如何ヨリ起レル爭訟ハ、必ス政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スルナリ、

八ノ下五五

〔丙〕産業ニ係レル權利ゲネルベスベハ産業ヲ營ムヨリ得ル者ナルカ故

ニ、必ス私法ニ屬スル者ナリ、去レヒ儘公衆安寧ノ爲メニ謀リテ、私人ニ此權利ヲ與ヘタルキニ於テ、若シ此權利ニ就テ裁判ヲ要スルコトアルキハ、政務官若クハ政務法官之ヲ掌ル可シ、

〔丁〕後見ノ權利ホーラムンド、モ亦公私二法ニ涉ル者ナリ、此權利ハ、元來親族法ハミリ、シヤフツレヒト、及ヒ私法ニ屬スト雖モ、後見ノ務ハ、又公義務トナル者ナリ、是故ニ例ヘハ後見ヲ命シ、或ハ免スルコト、後見人ニ某事務ヲ許可スルコト、及ヒ保任ノ辨解ヲ爲サシムルコト、并ニ政務官常規ニ從テ、後見人ヲ管督監察スル等ノ諸事ニ於テハ、決シテ唯正義公直ノ旨ヲ守ルノミヲ以テ、本旨ト爲ス可ラス、必又公衆ノ利害ニ著意スルヲ要ス、故ニ苟クモ法ノ區域ヲ超過スルハ許サスト雖モ、必俱ニ便益適宜ヲ旨トシテ、處分スルヲ眼目ト爲サル可ラス、○是ヲ以テ近今ニ至リテハ、便益適宜ノ處分ハ、政務官ニ屬スル所ノ後見事務官ホーラムンドニ委託スルコトナレリ、甚タ眞法ト稱ス可シ

〔第六〕刑法ト、警保官ノ懲戒法ト、相異ナル所以ハ、既ニ上卷卷之七第九款ニ於テ論説セリ、近今各國共ニ刑罰憲法セントラフヲ以テ、此二法按尋常法ノ刑ト、ゲセツ、懲戒法ト云ノ區別ヲ詳定セリ、

譯者曰、本卷首尾事理殊ニ了解シ易カラス、疊々思チ彈スト雖、尙恐ラシハ、誤謬頗ル多カラン、他日間隙ヲ以テ、再ヒ訂正ヲ加フ可シ、讀者請フ之ヲ諒セヨ、

大井潤一 校

國法汎論卷之九 上 目錄

國家ノ教育事務ニ就テ論ス

第一款 國家ト神道ノ關係

第二款

第一 一個人信仰自由ノ權ヲ保護スルヲ○奉教ノ自由

第三款 法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制スルヲ

第四款

第二 國教

國法汎論卷之九 上

瑞士 イ、カ、ブルンチユリ 著

加藤 弘 之 譯

國家ノ教育事務ニ就テ論ス、ホ、ン、デル、ク、ル、ツ、イ、ル、プ、

第一款國家ト神道ノ關係ヘルゲ、デ、ス、ス、タ、ー、テ、ス、

レリギオン按神道ト、キル按教會ナル二語ノ意、或ハ互ヒニ混用スル

コアリト雖モ、其義元來全ク相異ナリ、レリギオンナル語ハ、神人合體ノ

義ヲ徵シ、キルヘナル語ハ、信者等敬神ノ爲メニ相合同スル一團ヲ徵ス、

○神道按以下皆レリギオンヲ按神道ナル者ハ、人ノ靈魂ヲシテ幽界中ニ

於テ天神ト相合契セシメ而シテ其感格ニ由テ、遂ニ完全具備ノ者タラ

シムルヲ以テ、其本性トナス然ルニ教會ナル者ハ、信神ノ道ヲ行ヒ及ヒ

之ヲ清淨ニ爲スカ爲メニ立ル所ノ顯界上ノ會社ナリ、

太古ノ世ニ於テハ、未ク此緊要ナル區別ヲ明悟スルコト能ハサリキ、太古

九ノ上二

草昧ノ民ハ、何レノ國ニ論ナク、人世ノ事ハ總テ一神及ヒ數神ノ管理ニ歸スル者ナリト思量セシカ故ニ、國家ノ理及ヒ其法制等ニ至リ、一ツモ此心根ニ基資セサル者ハアラサリキ、是ヲ以テ草昧ノ世ニ於テハ、國家ノ主タル者ハ神ニシテ、神ニ代リテ、神意ヲ奉行スル者ハ、即チ教士ナリトセリ、之ヲ目シテ神主政體ト云フ、神主政體ハ、即チ太古草昧ノ世ノ初政體ナリ、

然ルニ後世ニ及ヒ、國家ノ主タル者ハ、實ニ人ニシテ神ニアラサルノ理ヲ悟リ、而シテ政權ヲ以テ、實ニ人主ニ寄托スルコトナレリ、去レテ神道ハ、依然トシテ仍^ホ國教^スシギオン、ナリキ、〔按〕國家神道ヲ掌ルノ制度ハ、仍ホ依ナリ、○此時ニ當テ各國各個ノ神ヲ尊敬スルコト、猶各個ノ制度憲法ヲ遵用スルカ如ク、而シテ他國ニ於テ尊敬スル所ノ神ニ至テハ、敢テ之ヲ尊敬スルノ意ナカリキ、加之各國共ニ、一定ノ規律アリテ、其國神ヲ尊敬スルヲ以テ臣民ノ義務トナシ、而シテ若シ之ヲ尊敬セサル者アルハ、則チ之ヲ國

家ノ威權ヲ瀆辱スル大罪人トシテ、刑ニ處シタリキ、○羅馬ノ侵掠ヲ被リタル各國ニ於テハ、其威力ニ強迫セラレ、皆羅馬ノ神ヲ尊敬セサル可ラサルコトナレリ、去レテ敢テ其國固有ノ神ヲ廢除スルヲ要セス、併テ共ニ之ヲ尊敬スルヲ得シコト、猶羅馬ノ法制ト共ニ、其固有ノ法制ヲ併存スルヲ得シカ如シ、○是故ニ羅馬ノ巨大ナル版圖内ニハ、諸種ノ民種、諸種ノ神道互ニ雜居混同シテ、相容忍セリ、去レテ一個人ノ爲ニハ、敢テ容忍スルコトナク、唯一民種ノ爲ニノミ、容忍シタリ、〔按〕一個人各異教ヲ奉スル教ヲ奉スルハ、許シ、〔按〕一個人各異教ヲ奉スルハ、許サス、唯一民種舉テ一異タリト云フノ意、○カピトリニシテ、ユビートル〔按〕羅馬ノ第一ノ神ナリ、ノミ、獨、諸神ノ上ニ、位ヲ占メタリキ、

九ノ上三

基督降世ニ及テ、始テ全ク此ノ如キ旨意ヲ變革シタリ、抑^モ基督ノ傳ヘタリシ神道ハ、嘗テ羅馬、或ハ猶太國ニ於テ、其政府ヨリ布施セシ神道トハ、全ク異ニシテ、基督ハ決シテ國教ノ道士及ヒ宣士トナラス、且ツ絶^エテ國家ノ事ヲ掌リ、及ヒ國家ノ權柄ヲ握ルコトアラサリキ、基督常ニ謂ヘリ、「吾レ敢テ自

ラ此現世界ニ來リシニアラス天神吾レヲシテ特ニ此處ニ來ラシメタリ、
 吾レハ唯吾カ父〔按〕天ノ教フル所ニ從テ論述スト、○基督ハ眞ニ天神ノ
 己レテ現世界ニ派遣セシ意ヲ悟リ、及其身天神ト同一體ナルヲ了セリ、故
 ニ基督ノ神靈ハ實ニ天神ト相異ナル所ナカリキ、此ヲ以テ他ノ預言者
 フロヘート〔按〕將來ノ言ヲ前言シテ神意ヲ人民ニ宣告スル人ノ如ク、絶エテ「上帝曰云々」ノ語ヲ用ヒ
 ス、必ス「吾レ實ニ汝ニ語ラン云々」ノ語ヲ用ヒ、且ツ「吾レハ眞ト及ヒ活ナリ」ト安シ
 テ云ヘリ、○基督ニ精神ヲ稟賦セシ神ハ、即チ猶太國太古ノ耶和華〔按〕一
 ト同ウシテ、決シテ一國ノ神ト稱スヘキ者ニハアラス、基督ハ惟
 一眞神ヲ推尊シ、之ヲ以テ宇宙萬物ノ造主、世界蒼生ノ父ト爲セリ、
 是故ニ基督ノ神道ハ絶エテ國家ノ管轄ヲ受ケス、加之、惟一眞神ノ啓示言
 オツヘンハ、一ルンク〔按〕天ナルヲ以テ、當時國家ノ意思ニ背テ起リシ
 者ナリ、是ヲ以テ此教當時ニ在テハ、大イニ國家ノ爲メニ侮辱セラレ、遂ニ驅
 逐セラル、ニ至リシカニ、夙ニ此教ニ歸依セシ門徒ノ心志ヲ深ク感化シ

テ、大ニ區域ヲ擴ムルヲ得タリ、○教祖〔按〕基督ハ猶太國ノ神ヲ誹謗スル
 ノ大罪アリトシテ、遂ニ死刑ニ處セラレタリ、然レニ其徒弟等ハ、此眞道
 ヲ廣ク傳播センカ爲メニ、心ヲ竭シ力ヲ極メテ、當時ノ國教ヲ排撃シ、靈
 魂永遠滅セサルノ眞理ニ安シテ、此道ノ爲メニ遂ニ潔ク現世ノ生命ヲ
 失ヘリ、
 基督教起立セシ所以ノ原由、此ノ如クナルカ故ニ、此教ヲ奉スル者、遂ニ
 左ノ二大原則ヲ悟ルニ至レリ、即チ第一原則、神道ハ元來國家ノ創立セ
 シ所ニアラサルカ故ニ、教旨ハ、決シテ國家ノ管轄ニ屬スヘキ者ニアラ
 ス、第二原則、神道ハ一個人ヲシテ、天神ノ心靈ヲ悟ラシメ、而シテ永遠不滅ノ
 人魂ヲシテ、天神ト合一ナラシムルモノナリ、○是故ニ神道ナル者ハ、絶
 エテ人世ノ法ニ關係スル者ニアラス、全ク永遠不滅ノ精神界ニ屬スル
 者ナリ、基督云ヘルアリ、「吾カ事ハ此現世界ニ係ルコトニアラス」ト、
 右第一ノ陰原則〔按〕拒防スルヲ主トス、故ニ陰原則ト云、チ一般ニ遵奉スル

九ノ上六

ニ至リシハ、第二ノ陽原則ボシチーへ、サツ〔按〕人チシテ天神ト合體ノ弘通ニ用ヒラレシヨリモ早カリキ基督教始テ起リシヨリ、教會タル者、其教旨ノ國家ノ意思及指令ニ從屬スルニ至ルチ防カント欲シ、常ニコノ事ニ盡力シ、以テ國家ニ對シテ、自ラ神道ヲ擁護シ又兼テ自己ノ獨立ノ基礎ヲ保護シタリキ、○但、其後ニ至リテモ、仍舊國教ト稱スル語アリト雖、古時稱スル所ノ國教トハ、其義全ク相異ナレリ、新義ノ國教ハ、決シテ國家ノ神道、若クハ一民種ノ神道ニアラス、故ニ其教旨及、其規律タル、會テ其基ヒテ國家ノ憲法ヨリ資取セズ、唯全ク國家ノ權柄ニ從屬ス可ラサル啓示言〔按〕前ニ出ツ、ヨリ資取シテ偏ニ之ニ依頼スルヲ務メタリ、○此神道ヲ國教ト稱スル所以ハ、蓋シ國家ノ爲メニ尊信敬仰セラル、チ以テナリ、此神道ハ國家ノ准許ヲ得テ、始テ立チシニアラス、故ニ敢テ國家ノ制馭ニ就ク者ニアラス、國家却テ此神道ヲ尊信敬仰シテ、全ク其教旨ニ恭順スルヲトナレリ、

九ノ上七

第二ノ原則ハ、所謂一個人、天良是非ノ自由ゲキッセンスフライハイト〔按〕是非スルノ自由ヲ云フ、殊ニ吾カ是ノ理、因テ生スル所ノ本源ナリ、然ルトスル神道ヲ奉スルノ自由ヲ云フ、ニ古來ヨリシテ教會或ハ此原則ヲ遵守セサリシノミナラス、若シ一個人、信神ノ事ニ於テ、世間一般ノ教論ト相異ナル所見ヲ抱クアレンハ、則チ教會直ニ國家ノ兵力及、國家ノ刑法ヲ假テ、之ヲ嚴罰シ、以テ不滅ノ靈魂ヲシテ、妄ニ己レカ意ニ從ハシメノヲ務メタリ、○去レテ教會ノ威權甚ダ強盛ニシテ、國家チシテ、敢テ神道上ニ其權力ヲ施サシムルヲナク、教會却テ數百年間國家ヲ使役シ、其力ヲ假リテ以テ、一個人ノ信神心ヲ擅制シタリキ、但シ後世ニ至リ、教會、國家兩ツナカラ此ノ如キ處分ノ甚ダ基督教ノ本旨ニ背戻セルチ自悟スルチ得タリシハ、蓋シ全ク數回ノ大事件、及ヒ大戦争ヲ經過シタルニ由ルナリ、

是故ニ國家敢テ其權柄ヲ神道ノ旨意上ニ施行スルカ如キハ、決シテ許ス可ラサルヲナリ、但シ斯云フノミニテハ、未ダ國家ト教會トノ關係ヲ明カ

ニ論定スルニ足ラス、之ヲ論定セント欲セハ、必左ノ二問ニ對應セサル可ラス、

〔第一〕國家ノ權ト一個人ノ信神心トノ關係如何〔第二〕國家ノ權ト、神道ノ爲ニ結ヘル會社(教會及政黨、セク)ノ存在、及行爲トノ關係如何、

第二款

第一

一個人神道ヲ信仰スルノ自由權ヲ保護スルヲ、デ、ル、シ、ニ、ツ、デ、ル、イ、ンギヒツヅエルレ、レ、リ、ギ、オ、ン、ス、フ、ラ、イ、ハ、イト、〔按〕神道トハ、天神ノ道ト云フ義ナリ、○奉教ノ自由ベケン、トニスフライハ、イ、ト、〔按〕人々是トスル所ノ教派ニ歸依スルノ自由ナリ、

〔第一〕人ノ天神ヲ信スルノ心ハ、總テ其精神心意ニ係レル諸件ト同一理ニシテ、全ク人世ノ法ニ關セズ及國家ノ管理ニ屬セサル者ナリ、蓋、國家ハ其權力ヲ人ノ心思意見上ニ施行ス可キ者ニアラサルノ理ヲ知ルキハ、信神心ノ國權ニ屬ス可ラサルノ理モ亦瞭然タル可シ、總テ國權及フ、

所ノ疆界ハ顯明ナル者ナリ、〔按〕國權決シテ人ノ精神内ニ及ハサルヲ云フ、國家立ル所ノ法制ハ、形貌上ニ顯ハル、者ナリ、〔按〕國家ノ法制亦精神上ニ關セサルヲ云フ、唯一個人其信神心ヲ外貌ニ發表スルキハ、則始テ人世ノ法ニ屬スル者トナルナリ、○是故ニ神道ヲ信仰スルノ自由、即天良是非ノ自由、〔按〕第一ハ、決シテ近今法學ノ開明ニ由テ始テ生シタルニアラス、元來決シテ人世法ノ束縛ヲ受ク可キ者ニアラサルナリ、何トナレハ此自由ノ權ハ、天神ノ直ニ人ノ靈魂ニ賦與スル所ナレハナリ、蓋、冥々中ニ人ノ靈魂ヲ制馭シ、且之ヲ完全ニナス者ハ、獨リ天神ナリ、天神此事ヲ爲スカ爲、ニ自己ト人ノ靈魂トノ間ニ冥々ノ通路ヲ開キタリ、○天神、人ノ靈魂ニ天神ヲ信仰スルノ自由權ヲ賦與シ、終ニ此權ヲシテ幽冥ノ權ヲラシメ、以テ國家ノ暴權ヲ脱セシメタルハ、此權ハ決シテ現世ノ國ニ屬スル者ニアラス、必、永遠不滅ノ天國ニ屬シテ、全ク天神ノ制馭ヲ受クル者ナリ、是故ニ國家ハ敬神ノ道ニ於テ、此自由ヲ認許シ、且之ヲシテ安全ナラシムルノ義務ヲ負擔セサル可

ラス、凡、國家ハ此自由權上ニ就テ、此義務ノ外決シテ他ノ權力ヲ用フ可
ラサルノ理ヲ知ラサル可ラス、

〔第二〕是故ニ一個人信仰ノ自由ハ、全ク靈魂ニ屬スル者ニシテ、決シテ國
家ノ法制ニ出ル者ニアラスト雖、彼、奉教ノ自由〔按〕人々自ラ是トスル
所ノ教派ニ歸依スルノ
自由ノ如キハ、既ニ外貌ニ顯ハル、ナルカ故ニ、自ラ人世ノ法ニ屬セ
サル能ハス、而シテ此自由權ハ殊ニ信仰ノ自由ヨリ生シ來ル者ナルヲ以
テ、國家此自由權ヲモ、亦必、信仰ノ自由ノ如ク容易ニ認許スルヲ要ス、彼
ノ「人々自ラ是トスル教旨ヲ自由ニ道ニ出タスハ、即其人ノ權利ナリ、何者、此
事亦人ノ義務ナレハナリ、」ト云ヘル語ハ、非チ一〔按〕瑞士人、一千七百九
七年ニカ熱心ニ演述セル者ニシテ、決シテ之ニ抗抵スル所ノ論說アル
ヲナシ、〇去レヒ奉教ノ「ハ、即、外貌ニ顯ハル、」ナルヲ以テ、必、國家ノ法制
ヲ以テ或ハ之ヲ保護シ、或ハ之ヲ限制セサル可ラス、是故ニ此事ノ自由
元來無限ナレヒ、亦法制ノ爲、ニ保護限制セラル、ニ至リテ、遂ニ法制ノ

區域ニ屬スル者トナルナリ、

〔第三〕國家縱令、人々自ラ是トスル、教派ヲ奉スルノ自由ヲ保護スルコトア
ラサルモ、人々信仰ノ自由ニ於テハ、決シテ妨ケナキコト明カナリト雖、其
信仰ノ外貌ニ表シ、言辭ニ發スルヲ得サルノ害アルカ故ニ、必、國家ノ權
ヲ以テ、之ヲ保護スルコト甚、必要トナルナリ、是故ニ國家ハ宜シク意ヲ用
ヒテ、人々自ラ是トスル、教派ヲ奉スル自由權ノ妨害トナル者ヲ、悉皆驅
除セサル可ラス、其方法即チ左ノ數件ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕國家ハ一個人ニ強迫シテ、其信セサル、教派ニ從ハシムルノ權ナシ、
然ルニ中古基督敎漸、蔓延スルノ時ニ於テハ、未、曾テ此理ヲ知ラサリシ
カ故ニ、頻、ニ火及、劍ヲ用ヒテ、此神敎ヲ傳播スルコトヲ務メ、〔按〕中古ノ世ニ
於テハ、基督敎
ヲ傳播スルノ方法、甚、暴戾慘刻ニシテ、若、服從セサル者アルハ、直ニ兵
ヲ用ヒ火ヲ放チ之ニ逼リ、強ヒテ此敎ニ從ハシムルヲ常トセリ、故ニ火
及、劍ヲ用ヒテ云、而、勝者ハ必、敗者ヲシテ、己、カ信スル所ノ敎ニ服從セ
シメタリ、是故ニ其始、ハ敗者決シテ基督敎ニ心服セス、唯之ヲ口ニ誦ス

ルノミナリシカニ、其後ニ至リテハ勝者敢テ暴力ヲ用ヒス、實ニ神道ノ眞理ヲ論シ、敗者ヲシテ之ニ心服セシメント欲シ、力ヲ盡セシニ由リ、遂ニ十分其功ヲ奏スルニ至レリ、

去レテ此ノ如ク強迫シテ神道ヲ傳播スルカ如キハ、全ク基督教ノ本意ニ背キ、基督ハ外面ノ權力ヲ用フルコトハ、總テ之ヲナサ、ルノミナラス、其徒弟ニ至ルマテ、之ヲ禁シテ爲サシメサリキ、且ツ國家眞誠ノ法ト全ク相反ル者ナリ、是ヲ以テ今時ハ一般ニ眞正ノ原則ヲ認用スルコト、ナレリ。

○普魯士ノ憲法ニ云、「國內ノ住民ハ各、信仰ノ自由及天良是非ノ自由權ヲ十分ニ有ス可シ、國家敢テ憲法ヲ以テ之ヲ障礙スルヲ得ス、凡、何人ニ論ナシ、神道ニ就テ私ニ自己ノ所見ヲ述ルハ、必、國家ノ規律ニ遵フヲ要セス」ト、又同國ノ國憲第十二章ニ云、「奉教ノ自由、神道ニ就テ會社ヲ結フノ自由、及尋常家内ニ就テ禮拜ヲ爲スノ自由公然ニ禮拜

ヲ爲スノ自由等、悉皆國家之ヲ保護ス可シ、凡、民人タルノ權利及公民タルノ權利〔按〕民人タルノ權利トハ、國家ノ一民タルノ權利ヲ云ヒ、公民タルノ權利トハ、國家ノ公事ニ關スルヲ得ルノ權利ヲ云、ヲ得ルト否サルトハ、其人奉スル所ノ教派ニ關係スルコトナシ」ト、○佛國一千八百十四年文化十一年ノカルテ〔按〕國憲ニ云、「各人皆同シク自己ノ教派ヲ奉スルノ自由權ヲ有シ、且、其敬神ノコトニ於テ皆同一ノ保護ヲ受ク可シ」ト、○然ルニ歐洲南方ノ羅馬人種各國ニ於テハ、今仍、全ク此自由ヲ與フルニ至ラスシテ、大ニ限制スル所アリ、例ヘハ葡萄牙一千八百二十六年文政九年ノ國憲第六章ニ云、「獨、羅馬加特力教ハ終始葡國ノ大教タル可シ、其他ノ教派ハ唯外國人共家内ノ禮拜ニ於テ奉スルヲ許ス、但、決シテ公然タル標牌及聖堂ヲ建ルヲ許サス」ト、○瑞士合邦ニ於テハ、一千八百四十八年嘉永元年ノ國憲ニテ仍、奉教ノ自由ヲ全ク許可セサリシハ、世ノ普ク知ル所ナリ、即、其六十六章ニ云、「既ニ認許セラレタル基督教派ニ從テ禮拜ヲ爲スノ自由ハ、合邦中悉ク之ヲ保護ス

徒中ヨリ逐フコアリト、國家敢テ此處分ヲ制止スルヲ得ス、

然リト雖モ教會甚ダ狭小ナル胆量ヲ以テ、此ノ如キ處分ヲ爲スルハ、却テ自
己ヲ害スルニ至ル可シ、凡ソ諸教派ノ如キハ、皆時勢進步ノ度ニ應スル者
ニシテ、一ツモ千古不易ノ教派ト稱スヘキ者アルコトナシ、是故ニ時勢進步
ノ度ニ應シテ、上進開明セル教旨教制モ、亦必認許セサル可ラス、〔按〕時勢
妨ケスシテ許スヲ要スト云フノ意、波羅特士旦教派ノ如キハ、殊ニ時勢
相應ノ教旨ヲ主要トスル者ナリ、○教會若シ其權ヲ恣ニシテ、國憲ヲ凌キ
民權ヲ傷ヒ、及ヒ騷亂ヲ醸ス等ノコアルキハ、國家其權力ヲ以テ、此暴權ヲ
拒防スヘキコ固ヨリ正理ノ當然ナリ、

〔丙〕ビツアンツ國〔按〕東羅及ヒ中古ノ各國ニ於テハ、基督教ニ歸依セスシテ
異端ヲ信スル者ハ、必大罪人トナセリ、故ニ異端ヲ信スルコト甚ダシキ者ハ、
齋ニ之ヲ其門徒中ヨリ逐フノミニ止マラス、尙其所有ヲ沒收スルノ法
アリキ、○然ルニ教皇パプノ威權最モ盛大ニ至リシ以來ハ、基督教ヲ奉

セスシテ異端ヲ信スル徒ヲ刑スルコト甚ダ慘刻ヲ極メ、通例ハ火刑ヲ以テ
之ヲ殺スコトナセリ、是故ニ一個人自ラ眞確ナリトシテ信奉スル所ノ
教旨、若シ公衆一般ニ奉スル所ノ教旨ニ背戻スルキハ、實ニ重罪人トナル
ニ至レリ、而シテ此罪ヲ免カル、ヲ得ル者ハ、獨己レガ眞確ナリトセル教旨
ニ從ハス、自ラ欺イテ偏ニ世間ニ媚從スル者ノミナリキ、○教會改正ルマ
チオン〔按〕一千五百年代ニ於テ、ルテルツキングリ及ヒカルヒン等ノ諸
英傑、教皇ノ處分大ニ基督ノ教旨ニ背キ、慘刻暴虐ノ事多キヲ愛ヒ之ニ
抗抵シテ、波羅特士旦教派ヲ創開シ、以テ基督ノ首魁等〔按〕即ナルツキ
督ノ正道ヲ興復セリ、之ヲ教會改正ト云フ、ノ首魁等〔按〕即ナルツキ
等ヲ、ハ、久シク濯滅シタル天真是非ノ自由ヲ更ニ興復シテ、各人チシ
テ、自ラ眞確ナリトスル所ノ教旨ニ自由ニ信從セシメンガ爲メ、力ヲ極
メテ加特力教ノ暴權ニ抗抵シ、以テ波羅特士旦ノ一新派ヲ開キシ者ナ
レト、其後此一新派ノ普ク行ハル、各國ニ於テスタ、猶ホ天真是非ノ自由
ノ理ヲ失誤シテ、更ニ之ヲ屈害スルニ至レリ、○エストハーレン〔按〕獨
名ノ講和〔按〕所謂三十年間ノ戰ニテ、加特力及ヒ波羅特士旦ノ兩派ヲ同

一ニ認許スヘキノ和約始テ立チシカレ、其後ニ至リテモ、猶ホ此兩派ノ外ニ他教ノ獨乙國ニ入ルコトハ、總テ之ヲ禁シタリ、○路易第十四佛國王一千六百三十八年ニ生レ、四十三年ニハ、頗學問詩文ノ進歩ニ力ヲ盡セシ君ニシテ、即位シ、七百十五年ニ殂ス、且文明開化ノ佛國ニ王タリシカレ、猶嚴刻ノ處分ヲ以テ波羅特士且教ヲ驅逐セリ、又自由權ノ最盛ナル英國ニ於テスラ、加特力ノ門徒ハ悉ク民權ヲ奪フテ、賤奴スカラトナスニ至レリ、彼、一千六百八十九年元祿ノ容忍令ヅルヅングスアクテ〔按〕異教ヲモ拒防ニ於テ、波羅特士且ノ教旨ヲ信セサル者ト雖モ、之ヲ背教ノ罪ニ處セサルコトナセシハ、畢竟開明進歩ノ致ス所ト云フ可シ、去レニ加特力教ヲ奉スルヲ許スコトハ未ダアラサリキ、

奉教ノ自由ヲ與フルヲ以テ、始テ國家ノ要則トナセシハ、實ニ北亞米利加ノ功ト云フ可シ、カルヒン教派〔按〕カルヒンカ加特力教ニ抗抵シテ、六十四年佛國ノノニ生レ、其ノ教士ニシテ、敬神ノ心最深厚ナルロ

ゲル、キルリアムスハ、一千六百三十六年寛永十三年英ノ一藩屬地プロヒデシツニ於テ、自今奉教ノコトニ就テ、決シテ強威ヲ施スコトアル可ラサル旨ヲ布令セリ、然ルニ其他ノ諸藩屬地ニ於テハ、當時各教派相惡ムコト敵讐ノ如クナリシカ故ニ、大イニロゲル、キルリアムスカ意表ノ法令ニ驚愕セリ、去レニ英國王ハ能ク此法令ノ善惡可否ヲ思考シテ、遂ニ一千六百四十八年慶安ニ之ヲ採用シテ眞實ノ法令トナセリ、○加特力教派ノ〔按〕ハールチモールハ、一千六百四十九年慶安ニ於テキルリアムスノ處置ニ倣ヒ、メリ〔按〕亞米利加ノ地ニシテ、當時英ノ藩ニ法令ヲ布キ、人々基督教ヲ奉スレハ可ナリ、決シテ其門派ヲ論ス可ラスト云ヘリ、又クエッケル〔按〕ハッリスノ創立テ奉シタルキルリアム、ベソハ、一千六百八十二年天和ニ於テ、ベソ〔按〕亞米利加ノ地ナリ、當時英ノ藩屬地ニシテ、今ハ各衆國ノニ法令ヲ布キ、人々宜シク天地萬物ノ造化主ニシテ、且ッ大君ナル惟一神ヲ信スレハ、則チ可ナリト云ヘリ、

此ノ如キ自由ノ理、更ニ廣博ナル區域ヲ得ルニ至ル迄ハ、猶^キ一百餘年ノ
 星箱ヲ經^クリ、〇一千七百四十年元文以來ハ、性理ノ學漸^ク開明セシカハ、
 世界更ニ一漸ノ機會ニ遇テ、次第ニ中古ノ束縛羈絆ヲ脱シ、遂ニ遠^ク進
 歩スルヲ得ルニ至レリ、普魯士國王フリードリヒ、デル、ゴローセハ、此ノ
 如キ自由ノ理ヲ世ニ告諭シ、及^ヒ之ヲ施行セシ嚆矢ナリキ、此王カ「吾カ普
 魯士國ニ於テハ、各人皆自己ノ式樣ニ由テ、靈魂ノ幸福ヲ得可シ、〔按〕各人
 トスル所ノ道ニ由テ神ヲ敬スレハ、皆靈魂ノ幸福ヲ得可シ、自ラ是
 決シテ彼此ノ教派ニ束縛セラル、ヲ要セスト云フノ意、」ト云ヒシハ、
 眞ニ確言ト云フ可シ、凡^ソ此時代ヨリ此自由ノ理漸^ク進歩ノ路ヲ得ルコト
 ナレリ、去^レレ其間更ニ障礙ナキニハアテサリキ、〇國家嘗テ神道上ニ
 關シテ他教派ヲ制禁セシハ、實ニ暴虐ノ處分ナリシヲ自悟シ、且^ツ國家ハ
 元來各人ノ爲^ニ奉教ノ自由ヲ保護スルノ義務ヲ負擔スルコト、當然ナル
 ノ理ヲモ自悟スルニ至レリ、是故ニ爾後ハ人ノ或^レ神道ヲ疑フハ、即^チ其靈
 魂ノ健全ヲ失フ者ナリトナシ、而^レテ決シテ之ヲ目シテ、罪犯トナスカ如
 キコトナキニ至レリ、

キコトナキニ至レリ、

〔丁〕一教會ヲ離去シテ、他ノ一教會若シハ一政黨ニ歸就スルカ如キハ、固
 ヨリ各人ノ自由權ニ任ス可シ、國家敢テ其權ヲ以テ之ヲ罰スルヲ許サ
 ス、却テ國家ハ各人ノ爲^ニ天良是非ノ自由ヲ保護シテ、其離去歸就ヲ自
 由ナラシム可シ、是^レ即^チ天良是非ノ自由ノ理ヨリ出ル所ノ要務ナリ、
 但^シ今時ト雖^モ、離去歸就ノ自由、未^ダ全^ク行ハルト云フ可ラス、何者國家ノ憲
 法ハ、方今實ニ此自由ヲ保護スルニ足ルト雖^モ、唯一般ノ輿論仍^タ此自由ヲ
 妨害スレハナリ、蓋^シ輿論動モスレハ、各人ノ離去歸就ヲ嫌忌シテ、遂ニ其
 自由ヲ障礙スルニ至ル、蓋^シ國家ノ憲法遠^ク民情ニ先行スルノ證ナリ、〇
 例^ハ、一人他教ニ歸就スル者アルニ方リ、甲ハ之ヲ嘉賞シ、乙ハ之ヲ憎惡
 シ、甲ハ此歸就者ノ大功ヲ希望シ、乙ハ此歸就者ヲ以テ、輕薄無恥ノ徒ト
 ナシ、其所行ヲ以テ私利ヲ營^ミ、私欲ヲ縱マニスルノ處置ト爲スカ如シ、
 是時ニ方リ、實ニ不徧不黨ノ心ヲ以テ、此歸就者ノ所行ヲ批評判定スル

者ハ、僅ニ數人ニ過キサルノミ。○但シ一般ノ輿論更ニ其歩ヲ進メテ、不偏不黨ナル憲法ノ地位ニ着スルノ時至ラハ、隨テ眞確ノコト自ラ増益スヘク、且、輕薄無恥ノ徒、唯私利私欲ノ爲メニ他教ニ歸就スルカ如キ惡行モ、亦自ラ減少スルニ至ルヘシ、一般ノ輿論此ノ如ク進歩シテ、各人ノ自ラ是トナセル教派ニ歸就スルヲ平心ニ許シ、決シテ之ヲ常規ニ反シ、輿論ニ背キタル所行ト視做スカ如キコトナキニ至ラハ、必、離去歸就ノコトヲ以テ、或ハ功勞ト爲シ、或ハ惡行ト爲スヲ得可ラサルナリ。○凡、教道教派ノ數、枚擧スルニ違アラスト雖モ、之ヲ通觀スレハ、畢竟其本旨一ニシテ、其權利モ亦一ノミ、然ルニ人ノ天性ヲ察スルニ、衆人略相同シト雖モ、之ヲ細別スレハ、則、人々些少ノ差異アルヲ視ル可シ、是ニ於テ元來教ヲ同シウシ志ヲ共ニスル伴侶ニテモ、其人員衆多ナルキハ、其中ノ數人、自ラ他ノ數千萬人ト異ナル意見ヲ生スル無キヲ得ス、數人ノ意見果シテ他ノ數千萬人ト異ナルニ至ルキハ、此事遂ニ他ノ數千萬人ノ害トナラサルヲ得サ

ルノ理ナリ、去レテ僅々數人偶、異ナル意見ヲ主張シテ、此教派ヲ離去シ他ノ教派ニ歸就スルコトアリトモ、未ダ曾テ此教派ノ盛衰存亡ニ關スルニ足ラス、若シ實ニ數千萬ノ人悉皆一時ニ他ノ教派ニ歸就シテ、其勢ヒ宛モ水ノ卑キニ就クカ如クナルキハ、始メテ此教派ノ情勢ヲ變スルニ至ルヘシ、是故ニ教會タル者僅々數人ノ離去歸就ヲ、或ハ希望シ、或ハ憂慮スルカ如キハ、決シテ理アリト云フ可カラス、
教會タル者、離去歸就セシ者ノ權利ヲ減少スルノ方法數種アリ、之ヲ民權ノ屈害、ビュルゲルリヘル、ト云フ、甚ダ不正不善ナルコトナリ、必、嚴罰ヲ以テ之ヲ防制セサル可ラス、例ヘハ本人自ラ居地ヲ撰フノ自由ヲ限制シ、或ハ某產業ヲ營ムノ自由ヲ限制スル等ノ如シ、○若シ教派ノ異ナルニ從テ、或ハ民權ヲ異ニス、或ハ某教派ニハ民權ヲ限制スル等、公然タル國法アルキハ、此教派ヲ離去シ、彼、教派ニ歸就セル者、此派ニテ受ケ得タル權利ヲ決シテ仍、保有スルヲ得ス、必、唯彼、教派ニ准許セラレタル權利ノミヲ

受ケ得ヘキヲ固ヨリ當然ナリ。○例ヘハ猶太人種ハ猶太教ヲ奉スルニ因テ其權利ヲ限制セラル、ト雖モ若シ基督教ニ歸就スルハ、必ス此限制ヲ免カルヘシ、但シ從來基督教ヲ奉スル者若シ又之ヲ離去シテ猶太教ニ歸就スルコトアレハ、必ス唯猶太教ニ准許セラレタル權利ノミヲ得可シ、加特力教ヲ奉スル夫婦及ヒ加特力教ノ教士若シ波羅特士且教ニ歸就スルハ、則チ波羅特士且教派ニ准許セラレタル婚嫁法及ヒ離婚法ニ從フヘキ者トナルヘシ、(但シ教派ニ從テ此法ノ差異ヲ立ルノ規律アル間ノミ、此ノ如クナルベシ、)又波羅特士且教派ヲ奉スル夫婦若シ加特力教ニ歸就スルハ、必ス相離婚スル能ハサル者トナルナリ、(按)加特力派ハ離婚ヲ專ラ此ノ如キ變化(按)歸就ヨリ權利及ヒ法ニ於テ變化ノ生スルヲ云フ、ヲ目的トシテ、歸就ヲ企ツル者ナキニアラス、此事全ク不正不善ノ心思ヨリ生スル者ニシテ、蓋シ精神ニ係レル自由權ノ通弊ナリ、去レモ此通弊ヲ矯正セシメカ爲メ、全ク歸就ヲ禁スルカ如キハ、甚ダ精神ノ自由權ヲ限制スル者ト云フ可シ、若シ政府

歸就ヲ許スカ爲メ、縱令公然嘲笑ヲ受ルコトアリモ、決シテ心ニ關ス可ラス、

〔戊〕各人其家内ニ於テ、敬神禮拜ヲ爲スノ自由權ヲ保護シテ、衆民等カ此自由ヲ妨害スルヲ制止スルハ、即チ國家ノ義務ナリ、而シテ此義務ハ實ニ天良是非ノ自由ノ理ニ基ツク所ナルカ故ニ、決シテ之ヲ以テ國家好テ、唯ス所ノ仁惠ト規做ス可ラス、但シ天良是非ノ自由ノ理ヨリ生スル所ハ施家眷相共ニ家内ニ於テ、家法ニ從ヒ禮拜ヲ行フノ自由權ノミ、(但シ管ニ一家ノ父子夫婦等ノミナラス、親友及ヒ婢僕等モ亦相共ニシテ可ナリ、)若シ管ニ一家眷ノミナラス、衆人相合シテ、奉教ノ爲メ、會社ヲ結フルノ如キハ、國家之テ私人一家ノ事ト同視ス可ラス、必ス公衆一般ニ係レル事ト規做シテ、宜シク之ニ適切ナル規律ヲ選用ス可シ、

九ノ上二五

又一個人外國ニ於テ自己ノ教派ト同一ナル教派ノ禮拜公社ニ加入スルノ自由ニ就テモ、亦宜シク此規律ヲ用フ可シ、(按)公衆一般ニ係レル事

第三款

法ヲ以テ奉教自由ノ權ヲ限制スルコト、（按）レヒトリヘ
ル、ベケントニス
フライハイト、

〔第一〕人或ハ謂フ、奉教ノ自由ヲ許スハ、獨リ神（按）惟一眞神ニテ認メテ、之ヲ
畏敬信仰スル諸教門中ニ於テスルノミ、苟モアタイスムス（按）神ヲ疑テ
端ノヲ奉スルカ如キハ、必ス許ス所ニアラスト、去レヒ神ヲ畏敬信仰スル
教門ト實ニ天地萬物ヲ造化セル神ナル者ハ、決シテ之レアラスト爲セル
教門トテ全ク分別シテ、其許スヘキト否トヲ判決スルハ、甚ダ不可ナリ、蓋シ其
分畫ス可キ境界殆ト判然タラサルヲ以テ、之ヲ分別スルコト殊ニ容易ナラ
サレハナリ、○試ミニパンタイスムス（按）天地萬物即チ神ニシテ、此外更
ル學派ヘチシユゼーンスト（按）禽獸草木等チ神ナル者アラサル旨ヲ主張ス
ナリ、（按）禽獸草木等チ神ナル者アラサル旨ヲ主張ス
チ視ニ、此諸教各畏敬信仰スル所ノ神アリト雖モ、或ハ大ニ神德ヲ畏敬セサ
ルコトモ亦絶エテナキニアラスト、然ルニアタイスムス（按）前ニ
實ニ神ヲ疑フ異端ナリト稱スト雖モ、是レ全ク非理ノ言ト云フ可シ、蓋シ此教

門ト雖モ亦自ラ造化ノ能力ヲ認ムル所アリ、果シテ造化ノ能力ヲ認ムル
者ナレハ、豈全ク神ノ賞罰ヲ知ラサル者ト云テ可ナランヤ、○但シ以上論スル
所ノ當否如何ニ拘ハラズ、彼レ靈魂ヲ制馭スル者ハ、現世ノ國家ニアラスト
獨リ天神ナリト云ヘル理、既ニ瞭然疑フ所ナキニ至テハ、常ニ光ヲ避ケ暗
ニ就カント欲スル靈魂（按）靈魂ハ專ラ現世ノ顯界ニ屬セスシテ、永
令レ迷溺スルコトアルモ、國家敢テ之ヲ罰スルノ權ナキコト論チ俟タス、且シ靈
魂ノ大ニ迷溺チ生スルコトアルハ、是レ或ハ其上進シテ明覺ノ地位ニ達ス
ルノ階梯ト云フ可キノミ、凡ソ各人自ラ眞確ナリトスル所ニ必ク背ク可ラ
ス、是故ニ神ヲ信仰スルキハ勿論、縱令之ヲ疑フキト雖モ、敢テ自ラ欺イテ
其眞確ナリトスル所ニ背ク可ラズ（按）人若シ迷溺シテ敢テ疑フノ心ア
リ、決シテ輿論ニ媚從シテ、陽ニ信神ノ人トナル可ラス、若シ陽ニ信神ノ人
トナルキハ、自ラ欺キ又人ヲ欺クノ小人ナリト云フノ意歟、猶再考スヘシ、
〔第二〕是故ニ各人皆自ラ是トスル所ノ教ヲ主張スルノ權ヲ有スト雖モ、教
旨ヲ道ニ出スニ於テ、或ハ國家ノ認許セル教會制度（按）自ラ信セサル
教會ノ制度ナリ、チ罵

辱シ、或ハ其存在ヲ妨害スルカ如キハ、決シテ許ス所ニアラス、蓋シ一個人ノ權利ハ、他ノ權利及ヒ公衆一般ノ權利ノ爲ニ限制セラル、一固ヨリ當然ナリ、是ニ於テ國家ハ必ス二個ノ義務ヲ相合シテ、之ヲ恪守セサル可ラス、二個ノ義務ヲ相合ストハ何ソヤ、即チ一個人奉教自由ノ權ヲ保護スルト、及ヒ教會并ニ其權利ヲ保護シテ、共ニ安全ヲ得セシムルヲ云フナリ、

○例ヘハ猶太人ハ基督ヲ以テ、實ニ天神ヨリ差遣セル救世主ト爲サスト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス、スケアチケル〔按〕萬事先ツ疑ヲ生シ、而ルチ貴フ、ハ縱令ヒ史傳ノ啓示言ヒストリシユオッヘン、バルン、グ〔按〕約書之ヲ啓示、チ疑フト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得ス、又パンタイスムス前出ノ學者ハ、人ヲ以テ天神ノ造化セル所ト爲サス、却テ天神ノ現出セル者トナスト雖モ、國家敢テ之ヲ罪スルヲ得サルナリ、○但シ基督教ノ行ハルル國ニ於テ、若シ猶太人公然ト基督ヲ罵辱シ、或ハスケアチケル基督ノ祭日ニ於テ啓示言ヲ罵詈訾シ、以テ公然欺詐詭譎ヨリ出ル者トナシ、暗愚昏

迷ニ屬スル者ト爲シテ、其門徒ノ信神心ヲ損害シ、又パンタイスムスノ學者、教會ノ天神造化ヲ説クノ故ヲ以テ、教士ヲ罵詈訾シテ、或ハ暗愚人ヲ以テ目シ、或ハ妄語人ヲ以テ目スル等ノ如キハ、即チ一個人公然教會ノ權利ヲ屈害スル者ト云フ可シ、故ニ此時ニ於テハ、國家其權ヲ以テ此屈害ノ所行ヲ罰スルヲ當然トス、

但シ教旨ヲ辨駁誹謗スルノ諸方法中ニ於テ、許スヘキ者ト罰スヘキ者トノ分界ヲ立ルコト、儘容易ナラサルコトアレヒ、凡シ教旨ヲ妨害シ、又ハ教會ノ權利及ヒ其體面ヲ毀損スル等ノコトハ、必ス外面ノ確證アラサルハナシ、故ニ是時ニ方リテハ、國家ハ必ス司法ノ大權ヲ以テ之ヲ罰シテ能ク教會ヲ保護スルノ義務ニ適スヘシ、其他若シ辨駁誹謗ノ宜シク許スヘキ者ナルヤ、將之ヲ罰スヘキ者ナルヤ、甚ダ分別シ難キト雖モ、大抵密理ヲ施スニ方リテ、辨駁誹謗ノ情勢ヲ探索スレハ、其分別自ラ容易ナルヲ得可シ、○書籍上ニ於テ教旨ノ是非善惡ヲ辨論スルコトアリヒ、敢テ教會ノ體面ヲ毀損

スルヲ主旨トセス、或ハ少シク教會ヲ謗誹スルノ語アルモ、其語辨論ニ就テ甚ク緊要ナルキハ、如キハ、國家敢テ之ヲ罪スルノ權ナシ、但シ辨論ノ意專ラ條理ヲ主トセス故クニ、教會ノ體面ヲ毀損スルヲ旨トスルキハ、國家必ズ之ヲ罪セサル可ラス、

〔第三〕奉教宜シク其人ノ自由ナルヘキヲ、既ニ論說セシカ如シト雖モ若シ公衆ノ安寧ヲ損害スルノ處置ヲ施ス者アルキハ必ズ之ヲ許可セサル可ク、且ツ其情勢ニ由リテハ、或ハ之ヲ罰セサル可ラス、國家ハ必ズ先ッ公衆ノ安寧ヲ保護シテ損害ヲ受ケサラシムルヲ以テ其主務トナシ、一個人ノ自由權ヲシテ、決シテ公衆ノ安寧ヲ妨害スルニ至ラサラシム可シ、國家若シ此權力ヲ施用セサルコトアレハ、則チ自ラ主務ヲ放擲スト云フ可シ、○但シ事ノ公衆安寧ニ害アルト否トチ決定スルノ權力及ヒ權利ハ、即チ國家ノ掌中ニ在リテ、固ヨリ一個人ノ掌中ニアラス、縱令ヒアタイスムスノ性理學士其辨論ヲ以テ、天神ノ能力ヲ非ナリト爲スコトアリモ、國家之ヲ許シテ保護

スヘキヲ當然ナリ、去レモ此學士若シ此ノ如キ論ヲ以テ、衆民ヲ聚集煽動スルカ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、又宣教者アレシ及ヒ新聞述作者ゲルヨウルトナ等、道義ノ原理〔國家ノ法制モ亦由テ出ル所ノ原理〕ヲ公然誹謗シテ、衆民ノ心志ヲ迷亂シ、以テ其暴惡ナル情欲ヲ發動セシムルキノ如キハ、國家敢テ之ヲ許ス可ラス、

第四款

第二 國教スタットヲ信仰スルレリギオン〔按〕國

太古ヨリ近世ニ至迄、人皆神道ヲ以テ、管國家法制ノ爲ニ最要ノ基礎タル者ト爲スノミナラス、國家ハ決シテ神道ヲ離ル、能ハサル者ト爲セリ、故ニ羅馬國太古偶像教ハイデンツーム〔按〕眞神ヲ信セスシテ偶像教ヲ除クノ外ハ皆偶像教ト稱ス、馬即チ猶太教基督教及馬哈默哈默教一ニ回々教ト云フ者是ナリ、チ奉シタル時ニ方リ、緊要ノ政務ハ必ズ先ッ神意ヲ窺ヒ、其准許ヲ願フノ後ニアラサレハ、決シテ之ヲ施行スルコ

アラサリキ、○且、後世歐羅巴ニ於テモ、國家必、自ラ基督教ヲ奉セサル可
ラスト規定スルノ理ハ、宛、歐洲ノ仇敵ナル馬哈默ムハメドニセル、ス
教ヲ奉スル各國ヲ云、即、土耳其ニ於テ、必、馬哈默ノ神道ヲ奉セサル可
及、其、近隣ノ各國ヲ指スナリ、
サルノ理ト、全ク相同シカル可シト云フノ論頻、ニ蔓延セシカ、之ヲ非ト
スル者ハ絶エテアラサリキ、

然ルニ近世始、テ、政教ノ一致ヲ全ク破壊セント欲スルノ論起リテヨリ、
國家ハ、敢テ自ラ神道ヲ奉シ、神道ヲ勸ムルヲ要セスト云フノ論、盛ニ生
スルニ至レリ、初、此論ヲ立テシ者ハ、大抵素、自己ニ神道ヲ好マサル者ノ
ミナリシカ、遂ニハ決シテ自己ノ好惡愛憎ヲ用ヒス、專ラ理ノ當否ニ由
リ、奉教自由ノ名ヲ以テ、此論ヲ主張スル者漸々増加スルニ至レリ、○此
論ハ、元來國家ノ活動〔按〕首卷第一款ニ關シテ、專ラ國家ノ法制ニ關スル
ニ非ス、故ニ其得失可否ヲ決定スルハ、專ラ國政ボリナツクニ關シ、〔按〕國政ト國
法トノ別ハ首卷第一款
ニ出ノ處分ニ在ルヘキナリ、但、國家或ハ偏ニ某一教ヲ以テ國教トナシ、或

ハ偏ニ某一教ニ因テ國家ノ法制ヲ設立スル等ノコアルキハ、政教一致
ヲ破壊セント欲スル議論ノ得失可否ヲ決定スルコト、實ニ國政上ノミナ
ラス、又國法上ニ關係スル固ヨリ論ヲ俟タス、

國教スターツト國教會スターツトハ、其旨全ク相殊ナリ、決シテ混同
ス可ラス、國家ハ某一教ニ歸依シ及、之ヲ信奉スルヲ得可シ、例ヘハ基督
教ニ歸依シ之ヲ信奉スルカ如シ、去レヒ此一教内ニ於テ專ラ某一派某
一教會ヲ、國家ノ教派教會ト爲スハ固ヨリ不可ナリ、基督教ノ諸派各其
教旨及、其式禮ヲ異ニスル所アリト雖、是等ノコトハ決シテ國家ノ利害ニ
關スルニアラス、縱令、國家ニ利害ヲ生スルコトアルモ、甚、僅々ノミ、○基督
教分レテ數派トナルト雖、神道ノ眞確ナル原理ニ至リテハ、數派皆同一
ナリ、決シテ彼此ノ派ヲ取捨スルヲ要セス、是故ニ國家ハ能ク基督教ヲ
以テ自己ノ教道ト爲ス可シ、特ニ其末派ナル加特力若クハ波羅特士旦
ヲ取テ自己ノ教派教會ト爲スヲ得ス、

古時ハ各國必^ス專ラ某一教派ヲ信奉シ、之ヲ以テ國家ノ主派ト爲シナリシヲ、歷史上ニ瞭然タリ、是故ニ基督教始^メテ世ニ行ハル、ニ至リシ頃ニハ、或ハ加特力ノ國ト稱スル者アリ、或ハアリアニスムス〔按〕紀元四百リウスノ創立セシ基督教ノ一派ナリ、此教派ニテハ、ノ國ト稱スル者アリ、又其後ニ至リテハ、或ハ希臘加特力派〔按〕ギリイヒス、カトリシユ、或ハ羅馬加特力派〔按〕ローミンシユ、カトリシユノ國アリキ、其後中古ノ時代ニハ、遂ニ各國皆專ラ信奉スル所ノ一教派アラサルナキニ至レリ、又教會改正前^ニ出ツ^ル後ニ至リテモ、猶各國多クハ加特力派或ハ波羅特士旦派ヲ主トナシ、而シテ專ラ其主トスル所ノ教派ニ信從シタリキ、○獨^ク瑞士盟邦及^{シテ}獨^ク乙帝國ニ於テハ、二派〔按〕加特力波羅特士旦ノ二派ヲ云フ、チ合併セント欲スレニ能ハス、又二派ノ一ヲ主派トセント欲スレニ能ハサリシガ故ニ、遂ニ二派若クハ三派ヲ共ニ認許シテ、之ヲ同等ノ者トシテ相並立セシムルコトナセリ、○去^レニ其初^ニハ巴ムヲ得サルニ出タル處置ナルヲ以テ、其制度

甚^クタ完全ナラサリキ、然ルニ北亞米利加始^メテ國ヲ建ツルニ及テ、國家一教派ヲ主トシテ、專ラ之ヲ信奉スルノ制度ヲ全ク取用セサルコト定メシヨリ、方今開明セル各國此制度ニ倣テ主派ヲ立ツルコトヲ廢シタリ、〔按〕蓋シ亞米利加（一千七百九十一年〔按〕寬政三年）國憲ニ於テ此法ヲ定メタリ、○方今開明セル各國斯^ク主派ヲ立ルノ制ヲ廢セシカレ、未^ダ曾^テ主教ヲ廢シ信神ノ道ヲ廢スルニ至ラス、加之歐羅巴及亞米利加ニ於テハ、今猶必^ス基督教ヲ以テ其開明ノ大基礎タル者トナシ、且^ツ信神ノ道ヲ定メ道義ヲ勸ムル大活動力トナシテ、大ニ之ヲ尊信ス、○獨^ク自己ノ教旨ヲ固執シ、及^シ自己ノ規制法則ヲ墨守スル基督教ノ如キハ、專ラ主派ヲ立テサル國ノ爲^ニ甚^ク害アリト雖^モ、實ニ活用ニ適セル基督教ノ如キハ、決^シテ否ラス、是故ニ基督教ヲ以テ國家ノ主教ト爲スハ可ナリ、加特力又ハ波羅特士旦ヲ以テ、主派ト爲スカ如キハ、甚^ク不可ナリ、必^ス此二派ヲ同等ノ者トナスヲ緊要ト爲ス、

○瑞士ニテハ一千五百二十九年、享祿ニ於テ、諸派ヲ同等ノ者ト爲ス
ノ制度ヲ立テ、又獨乙帝國ニテハ甲利第五世、在位〔按〕一千五百十九
ルニ至ノ時ニ於テ、諸派ヲ同等ノ者ト爲ス、既ニ胚胎セシカレ、其制度
ノ確定シタルハ、一千六百四十八年、慶安元、年、エストハーレンノ講和ニ由
レリ、

○テングノ著書ニ云、「基督教ハ漸行ハル、ニ從テ、各國ノ富強隆盛ノ
基礎ヲ開キシカレ、其門派ヲ主張スル處分ノ如キハ、各國共ニ其國家
ノ患害ヲ生セサルハ無カリキト」

アッヘンドルフニ獨乙人一千六百三十二年、及ヒルウサウ佛人、一千七百十二
年ニ、一個ノ學派ヲ創立セシヨリ以來、ハ國教ト云ヘル語ニ一種ノ新義
ヲ生シタリ、○凡、國家ハ元來諸權利ヲ保護スルカ爲、ニ結ヒタル會社ナ
レハ、基督教ト他教トノ差別ナシ、總テ保護ノ術ヲ盡スヘキ、當然ナリ、
故ニ其法制ニ於テ、天理神道ナツトルリヘ、レリギオン、〔按〕惟一眞神ヲ畏
敬スルハ猶太基督諸派ノ如シト雖モ、此諸教

ノ啓示言、天神ノ啓示セル言ノ義、ヲ取ラス、專ラ天理人性ニ從テ、神道ヲ
說クテ云フ、即チアッヘンドルフ及ヒルウサウ等ガ始テ唱フル所ナリ、但、此神
道別ニ一種ノ教門トシテ、以テ啓示言ヲ用フル諸教ノ根本タルヘキ者ト
ナリシニハアラス、〔按〕啓示言ヲ用フル諸教ノ根本タルヘキ者ト
シテ、專ラ之ヲ取ルハ可ナリ、〔按〕啓示言ヲ用フル諸教ノ根本タルヘキ者ト
ルハ可ナリト、去レヒルウサウノ論ノ如ク、國家其憲法ヲ以テ、自ラ此天
理神道ノ原則ヲ確定スルヲ好シト爲スハ、大ナル謬見ナリ、國家若シ此ノ如
キ處分アラハ、遂ニ自ラ患害ヲ招クニ至ル必然ナリ、國家縱令此ノ如キ
コチ爲スニ、畢竟衆民ヲ教化スルニ足ラス、且、教ト法トハ元來相合シ難
ク、又幽界ニ於テ天神ト人ノ靈魂ト相交關スルノ理モ、亦顯界ノ國家法
制トハ全ク相合シ難キ者ナルニ、強ヒテ之ヲ相合併セシメント欲スル
ハ、謬見ノ甚シキ者ト云フ可キノミ、○是故ニ國家基督教ニ偏セズ、專ラ
天理神道ヲ取ル可シト云ヘル語ノ義ヲ以テ、國家ハ宜シク基督教ニ偏
セズ、專ラ天理人性ノ當然ニ從ヒ、各人ヲシテ、其是トスル所ノ教道ヲ、自
由ニ奉セシム可シト云ヘル義ト、視做スヲ要ス、此ノ如クナレハ則チ國家

其臣民ヲ待ツニ、基督教ヲ奉スルト否トニ由テ、區別ヲ爲サス、全ク兆民
 ナ同視スルノ正理ニ合スルナリ、而シテ國家若シ其政令ニ於テ、教道ノ規制
 ナ取用スルヲ要スルコトアラハ、何教ノ規制ニ論ナク、其政令ノ目的ニ最
 適合セル者ヲ擇ヒ取用スヘキナリ、例ヘハ其規制基督教猶太教馬哈默
 教若シハ佛教等ニ属スルモ、決シテ防ケンシトス、○右論スル所ノ如クナ
 ルキハ、國家其國內ノ諸教及シ諸教論ニ對シテ、全ク不羈獨立ノ地位ヲ占
 ムルヲ得〔按〕一教ヲ偏取セサルカ故ナリ、且ツ決シテ教門ノ朋黨或ハ仇敵トナルノ患害
 ナク、唯專ラ諸權利ヲ保護スルカ爲ニ、結ヘル會社タルヲ得ルナリ故ニ
 國家タル者ハ其法制ヲ以テ、實ニ神道ノ開明上進ヲ保護スルノミナラ
 ス、之ニ由テ遂ニ自己ノ開明上進ヲモ増益スルヲ得ヘシ、○國家教道ニ
 關スルノ方法此ノ如クナル者ヲ稱シテ、國家關教ノ自由ト云フ、スター
 レリギオンヌフテイハイト〔按〕國家專ラ一教ニ從フヲ要セサルノ法ナルカ故ニ自由ト云フナリ、
 然ルニ各國古今ノ沿革ニ由テ、教道ニ關スルノ方法相異ナリ、既ニ漸ク開

明セル者アリ、或ハ未ダ開明セサル者アリ、其別即チ左ニ舉ルカ如シ、

〔第一〕歐洲各國ノ中ニ就テ、猶專ラ某一教派ヲ奉スル者數國アリ、例ヘハ
 俄羅斯及希臘ノ二國ハ專ラ希臘加特力教ヲ奉シ、西班牙及葡萄牙ノ二
 國ハ專ラ羅馬加特力派ヲ奉シ、以太利各國ニ亦輒近ニ至ル迄專ラ之ヲ
 奉シ、又瑞典及那威ノ二國ハルテル派〔按〕ルテル創立スル所ノ一派ナリヲ奉シ
 英國ノ如キモ、仍專ラホーフキルヘ派〔按〕波羅特士一ナリヲ奉ス、但シ此國ハ王
 國以太利ト同シク、輒近新法ヲ創立シテ、基督諸派ヲ同等ノ者ト爲スノ
 制度、即チ關教自由ノ制度ヲ次第ニ全備セント欲ス、○

○希臘ノ國憲ニ云ク、希臘國ノ教道ノ主派ハ希臘加特力教ナリ、但シ其ノ
 他ノ教派モ亦之ヲ容忍シテ其教育ヲ保護ス可シ、○那威國ノ國憲ニ
 云ク、ルテル派ハ本邦ノ公教ナリ、此教派ニ歸依スル住民ハ、其子ヲシテ
 必ク此教派ノ教育ヲ受ケシメサル可ラス、エーヌイテンオルデン及ヒメン
 フォルデン〔按〕加特力派中一種ノ教社ハ國內ニ在ルヲ許サス、并ニ猶太教徒ハ國

九 内ニ入ルヲ許サス」ト、

○四上ノ九
〔第二〕基督諸派ヲ同視スル(殆ト同等ノ者トナス)制度ハ北亞米利加ハ勿論、其他獨乙各國及ヒ壞地利普魯士(但シ壞地利ニテハ殊ニ加特力ヲ重シ、普魯士ニテハ殊ニ波羅特士且チ重ス)佛國比耳時瑞士合邦等ニ於テ殊ニ之ヲ用フ、

○獨乙同盟法ニ云「獨乙同盟各國ニ於テハ基督教ノ諸派ニ由テ、民權及ヒ式權ニ差別ヲ立ツルコトナカル可シ」ト、

〔第三〕佛國ニ於テハ、初、民主政體ヲ立ルニ方リテ、顛覆病ノ激熱熾ニ發セシカハ、〔按〕譬喻、遂ニ一時全ク諸教ヲ廢止シテ、畏敬ス可キ神ナル者ハ絶エテ之ヲアラストナセリ、去レモロベスピエール佛人一千七百五十七年ニ顛覆黨ノ巨魁、スラ、尙必至高至尊ノ一物ヲ畏敬スルノ緊要ナルヲ悟リケレハ、遂ニ天理神道ヲ立テサル可ラスト爲セリ、

〔第四〕近今開明進歩セル各國ニテハ、國家其法制ニ於テ獨、天理神道ニ遵

從シ、而シテ實ニ諸教ヲ同等ノ者トナスノ制度ヲ全備セント欲スル多少ノ志情アリト雖モ、亞米利加ヲ除クノ外ハ、未ダ會テ此理ヲ國憲上ニ明記セシ者之レアラス、

○亞米利加合衆國一千七百九十一年寛政三年ノ國憲ニ云「コングレンス府ナリ、〔按〕立法ハ敢テ國教ヲ立ルノ憲法ヲ設クル能ハス、或ハ奉教自由ノ妨害トナル可キ憲法ヲ設クル能ハス」ト、

國家躬ラ神道(殊ニ基督教)ニ從事スルノ方法ハ、左ニ示スカ如シ、〔按〕蓋シ各數方法ヲ用フト云フニアラス、或ハ之ヲ悉皆用フル國アリ或ハ僅ニ其二三ヲ用フル國アリ、各一様ナラス、

〔第一〕將ニ大政令ヲ創始シ或ハ之ヲ施行シ、及ヒ新制度ヲ設立セントスルニ方リテハ必ス先ツ祭典ヲ行ヒ之ヲ天神ニ告ク、例ヘハ立法府ノ會議ヲ開ク時、嗣君即位スル時、或ハ新國憲ヲ創立スル時ニ於テ祭典ヲ行ヒ、又戰争若シハ天下一般ノ災害起ルニ方リテハ、公然祈禱ノ禮ヲ行ヒ、又國內一般ノ爲メニ悔悟祭、謝恩祭、及回想祭、〔按〕例ヘハ往古始テ國ヲ建テシ盛業ヲ回想シ、或ハ外寇ヲ拂壞シテ國

家ヲ泰山ノ安キニ置キシ大功ヲ回想スルカ爲メニ施行スル祭典ノ類ヲ云フ、チ行フノ類ヲ云フナリ、○凡、國家自ラ道德ヲ重スル所以ヲ明示セント欲シ、且、自ラ仁義ノ治ヲ爲サント欲セハ、必、先、自ラ祭典ヲ行ヒ、自ラ天神ヲ敬拜スルニ如クハナシ、

〔第二〕基督教ノ眼目要旨ニ從テ憲法ヲ立ツ

〔第三〕基督教ヲ保護勸誘及播布センカ爲メニ、國家自ラ其諸般ノ制度ヲ設ケ且、其事ニ關ス、

〔第四〕基督教若クハ他教ノ敬神禮拜ヲ妨害シ、或ハ衆民ノ信仰ヲ公然罵辱スル者アルニ方リテハ、國家之ヲ譴罰ス、

〔第五〕國家一個人奉教ノ誓約スヘキ由ヲ述告スル誓約ヲ爲スノ方法ヲ設立ス、但、縱令ヒ基督教ヲ奉セサル者ト雖モ、自己ノ教門ノ制度ニ從テ誓約ヲ爲シテ、其教道ノ要旨ヲ遵奉スルハ、國家之ヲ許可保護セサル可ラス、

〔第六〕許多ノ國ニ於テハ、基督教ヲ奉スル者ニアラサレハ、政府若クハ法院ノ官ニ登用シテ、政務司法等ノ權ヲ掌ラシメサルノ制度ヲ立ツ、○

但、縱令ヒ基督教ノ國ト雖モ、此制度ハ必、緊要ナリト云フ可ラス、若シ民人過半基督教ヲ奉セスシテ、他教ニ歸依スルコトアルニ方リ、此徒ヲシテ政務及ヒ司法ノ官ニ任スルヲ得サラシムルコトアラハ、是、則、不正非理ノ制度ト云フテ可ナリ、何者基督教ヲ奉セサル者ハ必、良善ノ政令、公正ノ裁判ヲ爲ス能ハサル者トスルハ甚、非ナレハナリ、○北亞米利加ニ於テ職官授任

ノコトニ就テハ、決シテ本人奉スル所ノ教門如何ヲ論ス可ラスト爲スノ

制度ハ、元來主派ヲ立テサル國〔按〕基督教ヲ以テ國家ノ主教ト爲スト雖モ、其分派ナル加特力若クハ波羅特士且

チ國家ノ主派トナヨリモ、一層進歩シタル者ナリ、〔按〕亞米利加國ハ、專

旨トスルカ故、但、縱令ヒ此國ト雖モ、天理神道ヲモ信セスシテ神ヲ疑フ者ハ、

ニ斯云フナリ、決シテ官吏トナルヲ得可ラス、何者官吏ノ國憲誓約文ホールシリヒト、

グスアイデス、〔按〕職官ヲ奉承スルニ方リテ、必、ハ元來天神ニ誓フ者ナ

國憲ヲ遵守スヘキ旨ヲ述告スル誓約文ナリ、ハ元來天神ニ誓フ者ナ

ルニ公然神ヲ信仰セサル徒、此誓約ヲ爲スヘキ理、絶エテアラサレハナリ、

⊖ 卷之二第二十二款ヲ參看ス可シ、○北亞米利加ノ制度ハ全ク之ニ反セリ、曰ク「國家ノ諸職官ヲ授任スルニ、決シテ本人奉スル所ノ教道如何ヲ問フヲ要セス」ト、

長川新吾 校

國法汎論卷之九 上終

國法汎論卷之九 中目錄

第五款

第三 國家ト教會トノ關涉

第六款 方今國家ノ教會ニ相對シテ有スル權利

第七款 監督ノ權利